

特62

No. 1229

GUIDE BOOK

BY B. WYEDA AND T. AOKI
共編國英

日本名所圖繪

青木恆三郎
五田維曉著



五畿内之部

嵩山堂梓

特 62

531

GUIDE BOOK

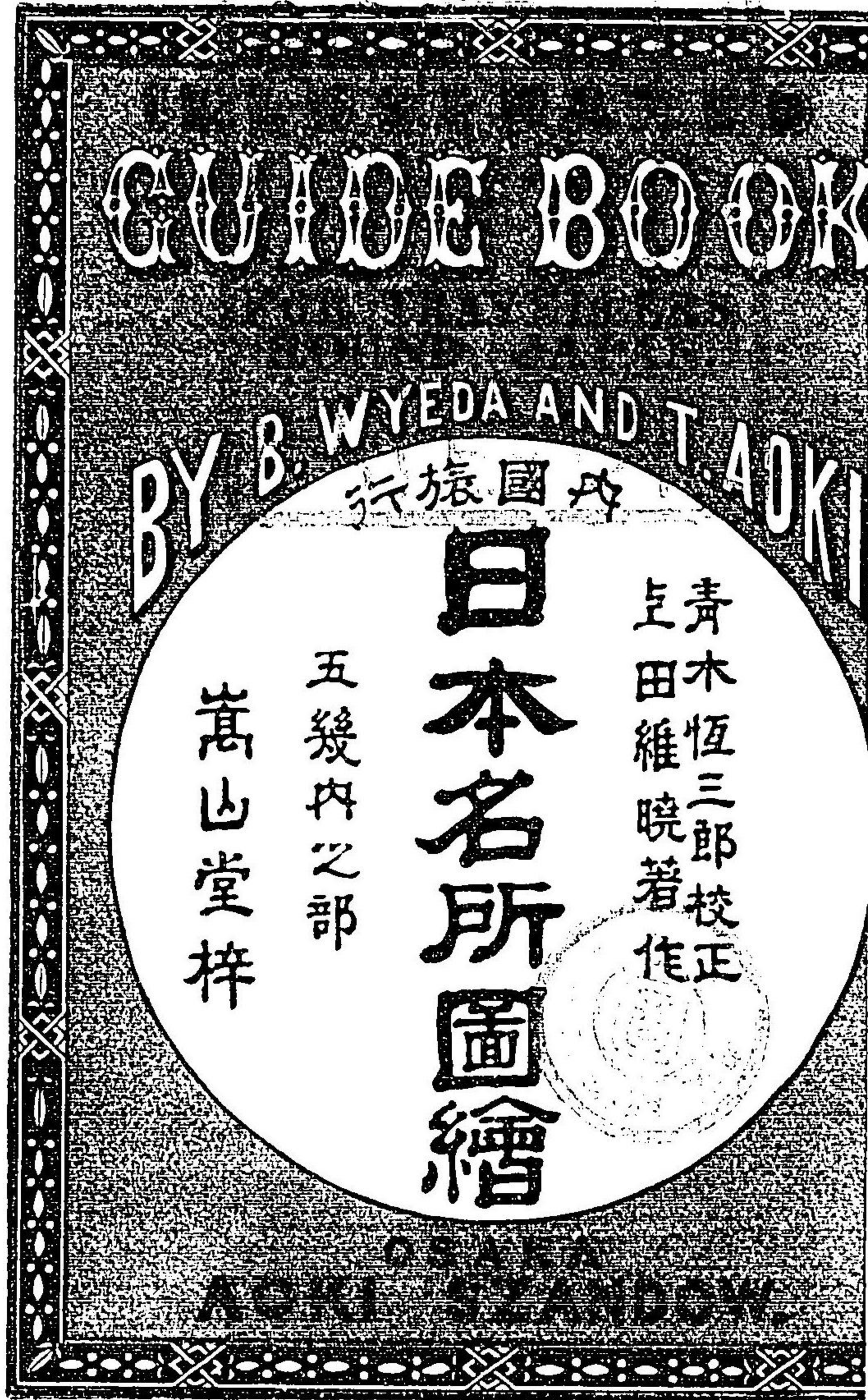
BY B. WYEDA AND T. AOKI
行旅國丹

日本名所圖繪

青木恆三郎校正
上田維曉著作

五畿内之部

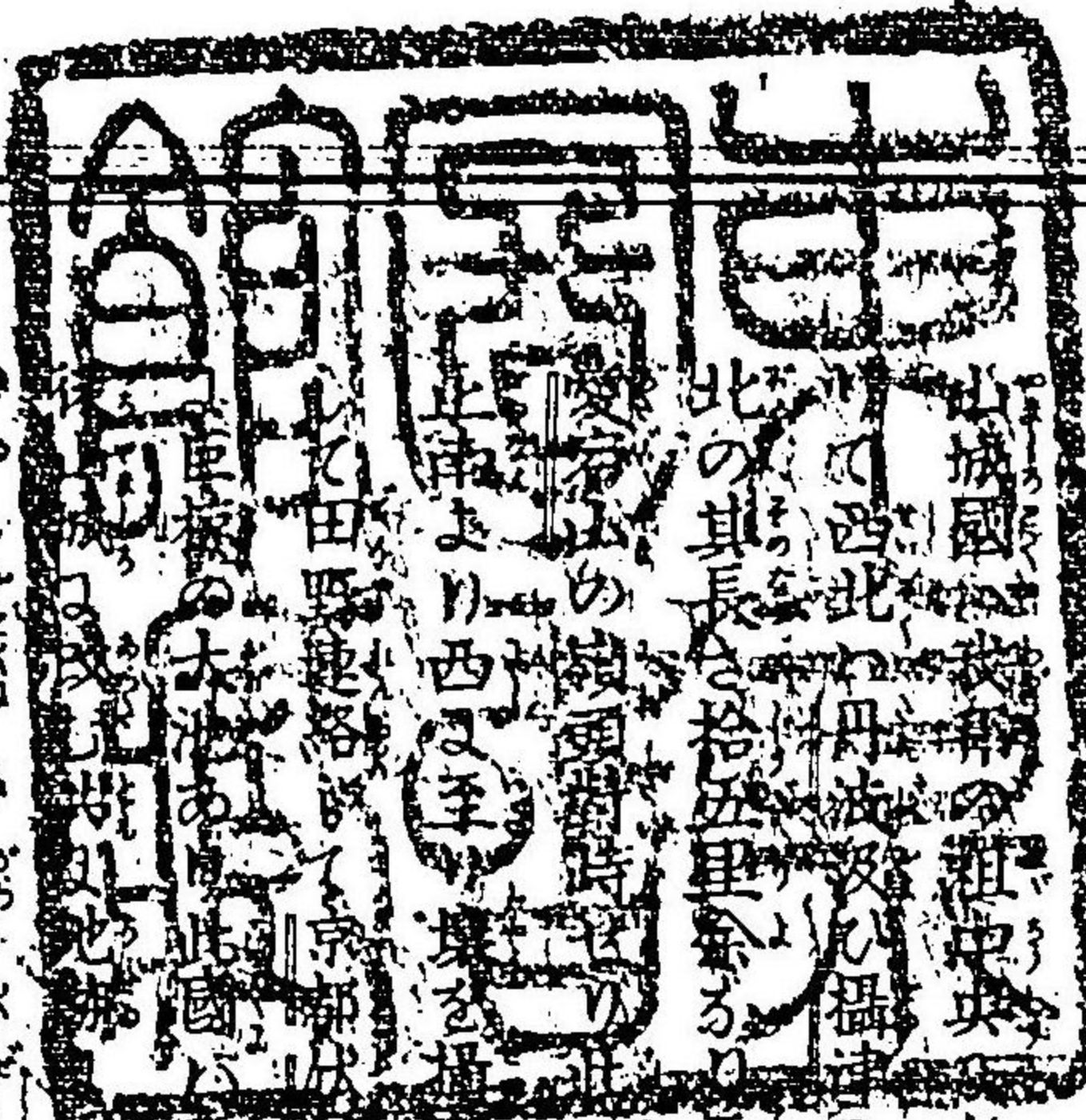
嵩山堂梓



五畿八道は區都して 山城國はかきけり免
 境域地勢 山城 郡府郡縣 大小 邑
 人口 戸數や 産物 人情風俗 習慣 等
 至之 漢 漢 支那 日 日 日 日 日
 毎 毎 毎 毎 毎 毎 毎 毎 毎 毎
 江 江 江 江 江 江 江 江 江 江
 于時明治三十一年九月 編者識

日本卷ノ一

内國 日本名所圖會

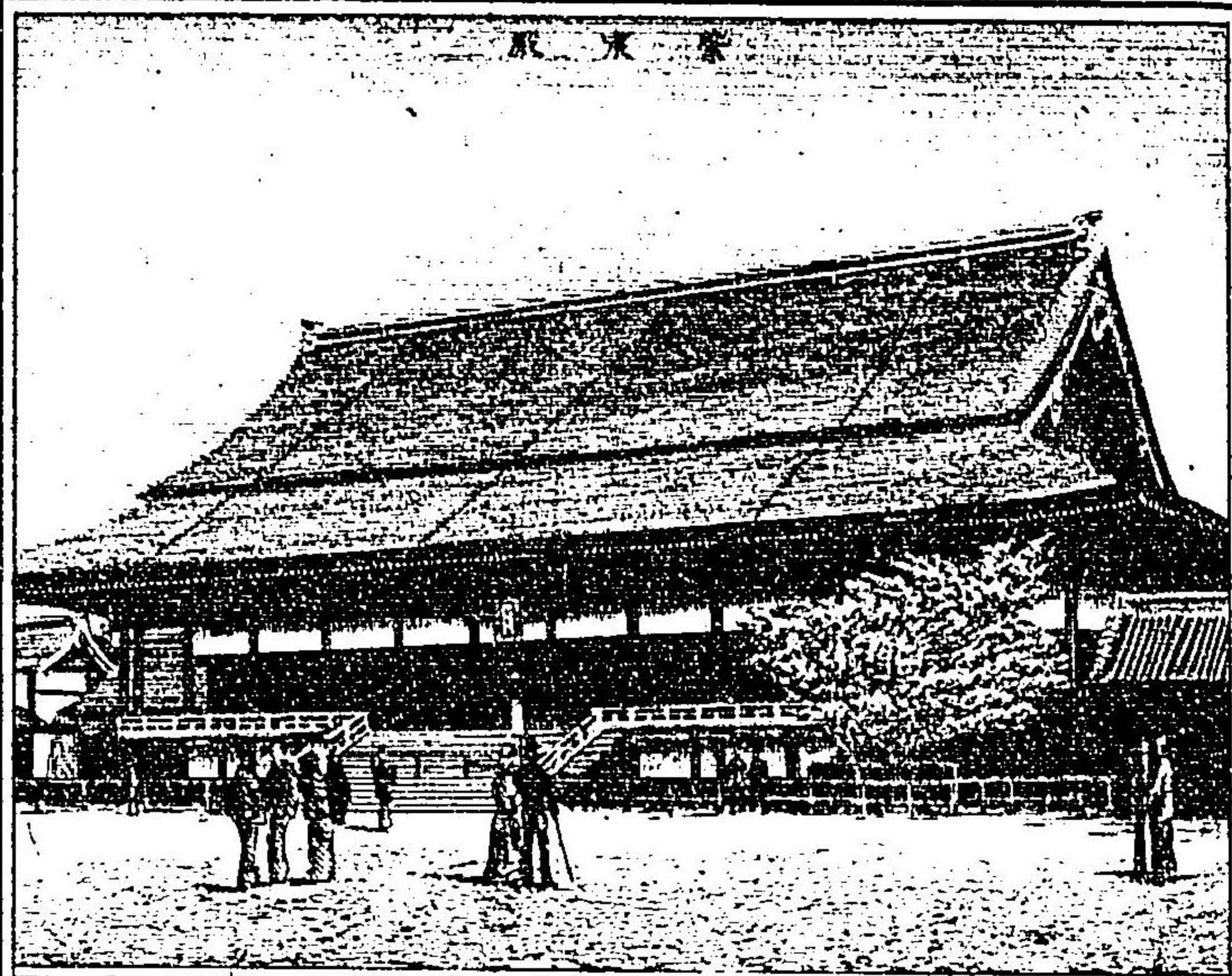


畿内山城國之部

山城國 我朝の祖中央
 此の其長 拾伍里あり
 二山を國中の高山と云
 津河内は接する所稍低
 丘陵と成る中央の地ハ
 平坦ニ
 紀伊 乙訓 相樂 久世 綴喜等なり
 全國すべて人口ハ四十三萬三千
 百余人あり
 氣候ハ峯密包擁するが故に冬時ハ
 南陸の諸國より北に特ニ峭寒を覺
 せし云

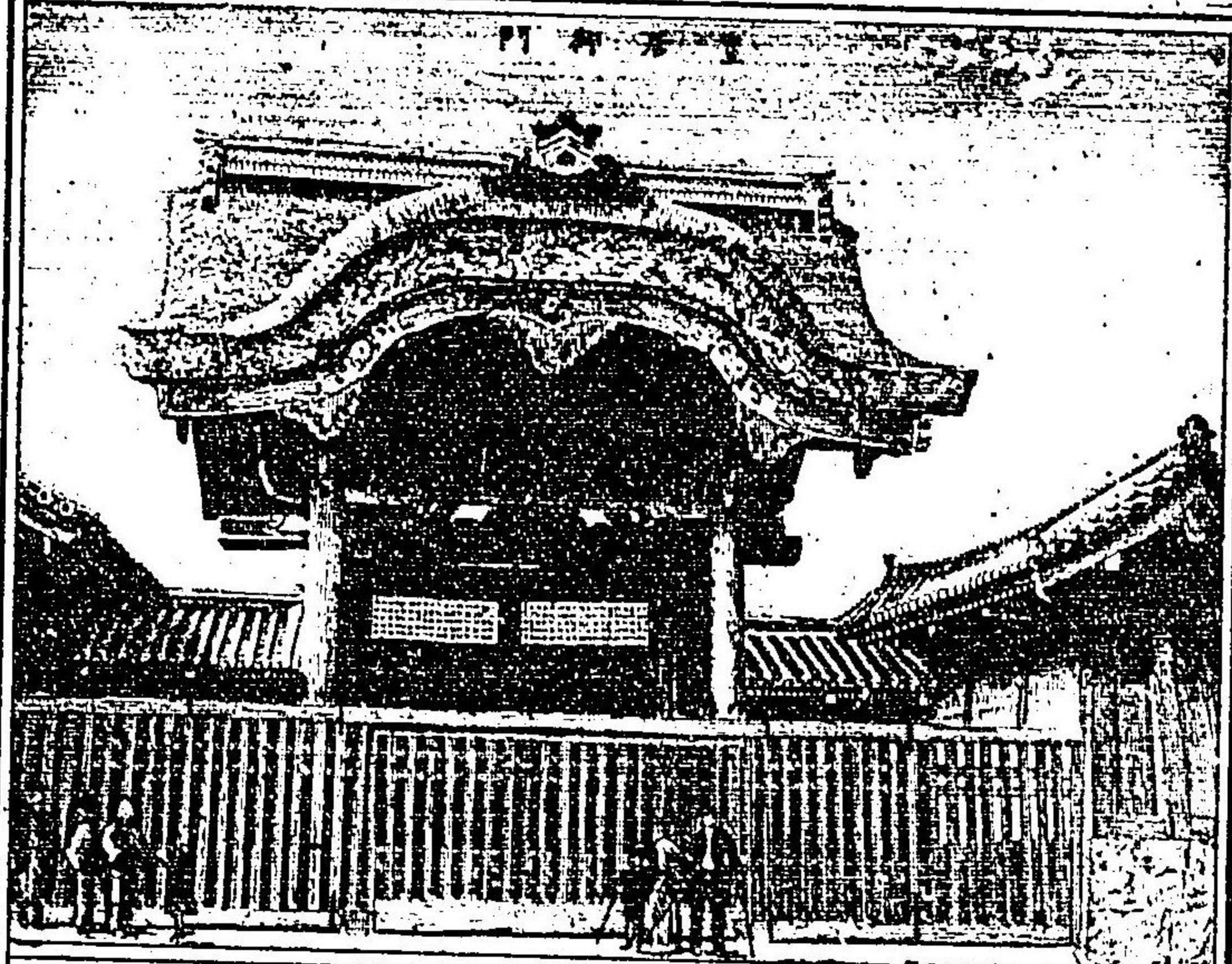
上田維曉 編輯

THE SHISHINDEN, KIOTO.



人皇五十一代桓武天皇此地を都を定給ひ
 今の遷都に至るまで一千零七十六年歴世
 代々の舊都なり 皇宮ハ舊内裏と尊稱し
 市坊の北位にして其面積ハ二拾五萬余坪
 周圍に土封を築き六門ありて中央に内郭
 を築繞し南の方又仙洞御所の舊址林泉ハ
 春秋の光景絶佳なり其外公室緞紳の廢邸
 ハ廣漠たる御苑と変り柳櫻を繁植し春の
 錦や秋の紅葉と風光最も麗美なり内郭に
 義明日華月華の門ありて回廊を繞し南に
 面する正殿を紫宸殿と稱し其外宮殿多く
 星列し宏壯美を極めたれど遷都の後ハ寂
 として履声なく保存せり

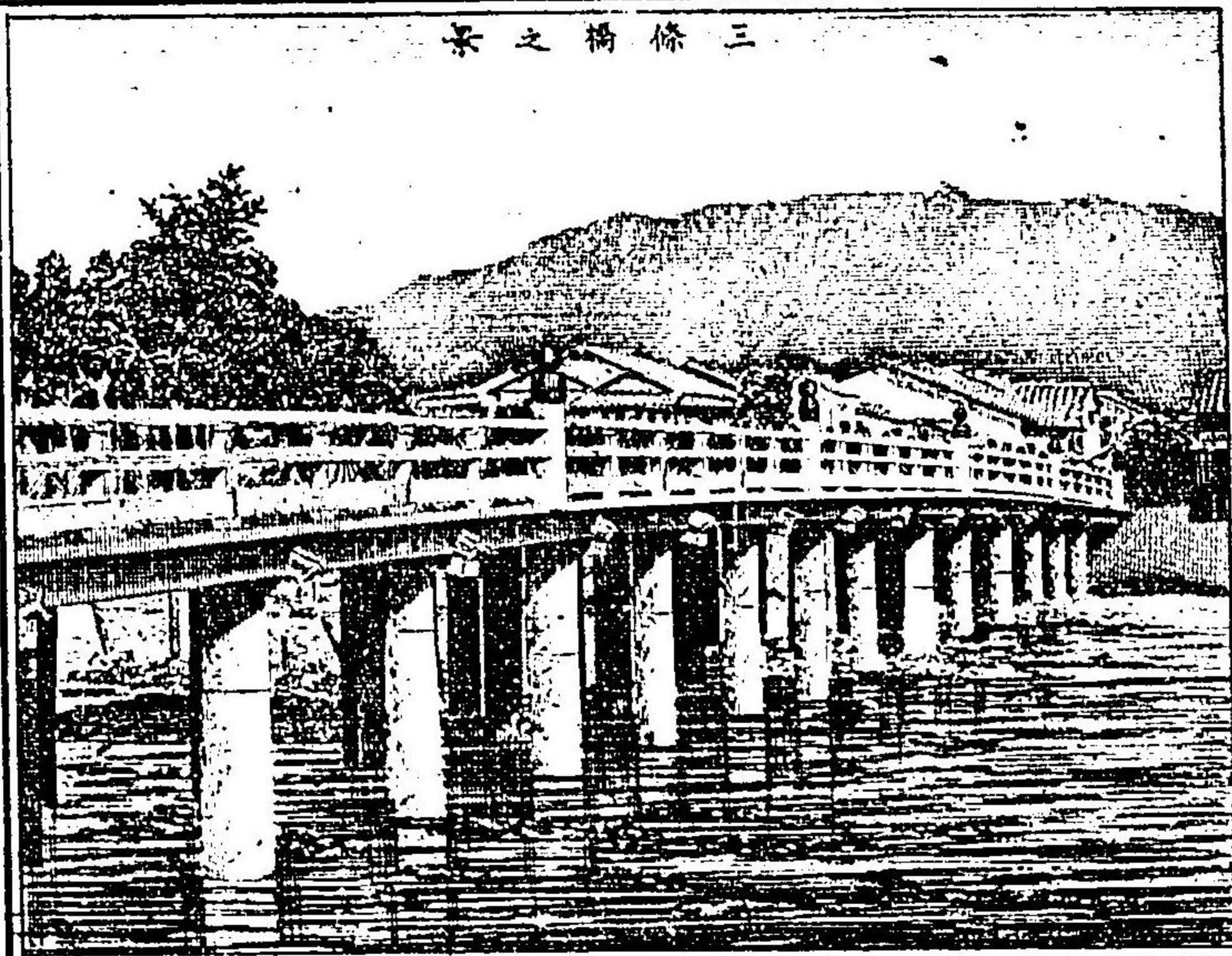
THE GATE OF THE MIKADO'S PLACE.



京都之記

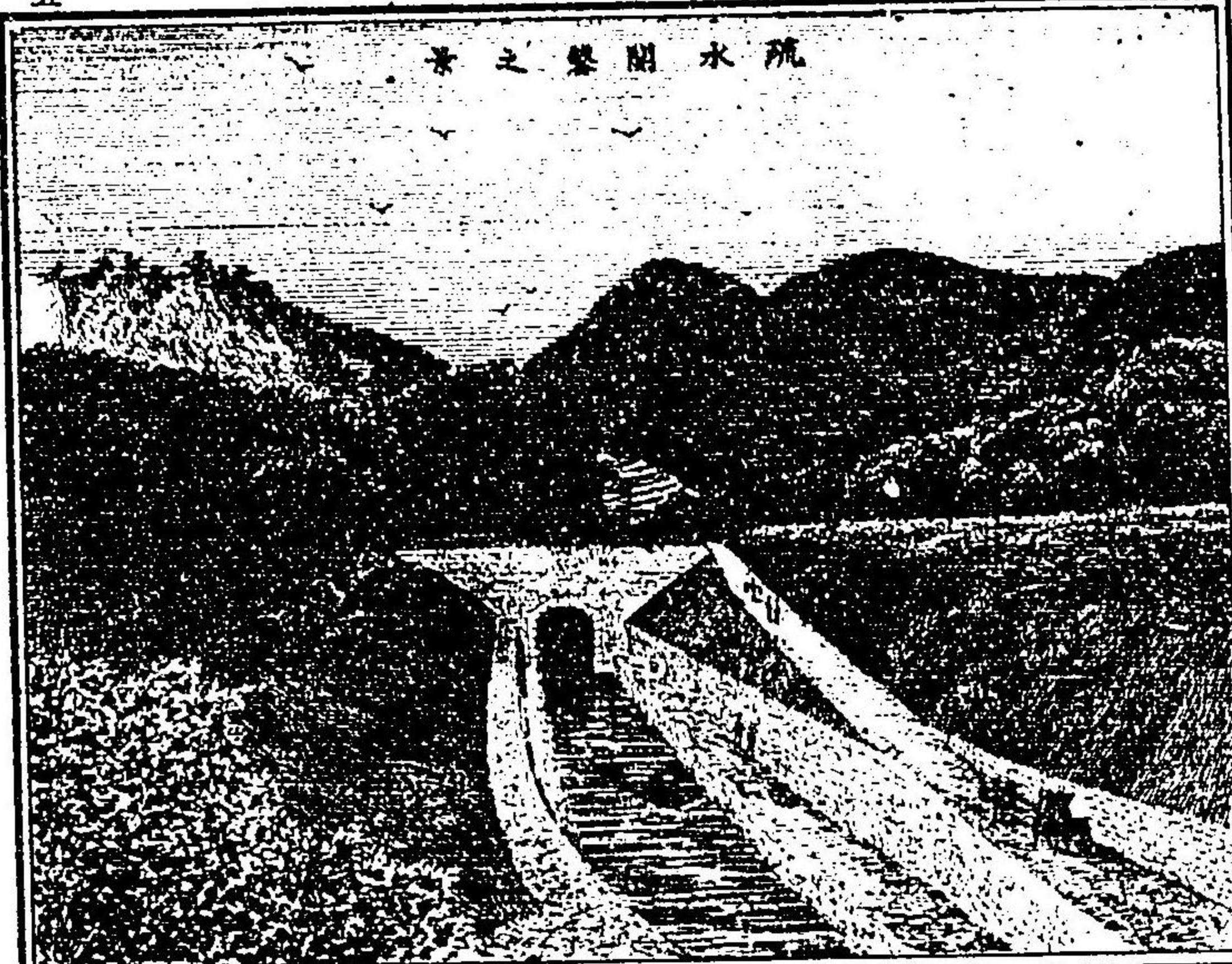
京都ハ本州の愛宕郡又地を占めて市坊の
 其廣さ東西ハ壹里餘南北の其長さ壹里半
 余なり楮て全市ハ三條通を區限とし上下
 の二區又大列し加茂川又は三條四條五條
 と三大橋を架設せり街衢ハ端正稠密又軒
 を並べて建築し家室の製ハ凡て閑雅なれ
 ども職工作業の家多く貿易専門の地又あ
 らざ其地の男女風俗ハ節儉の稱あれども
 服飾の美を好み人情ハ温雅にして言語靜
 穩優美かり古來教多の沿革を経て舊跡の
 遺蹟屢々又存し祠廟寺院の壯麗なる山河
 清美幽邃にして風光限りなき景致あり

三條橋之景

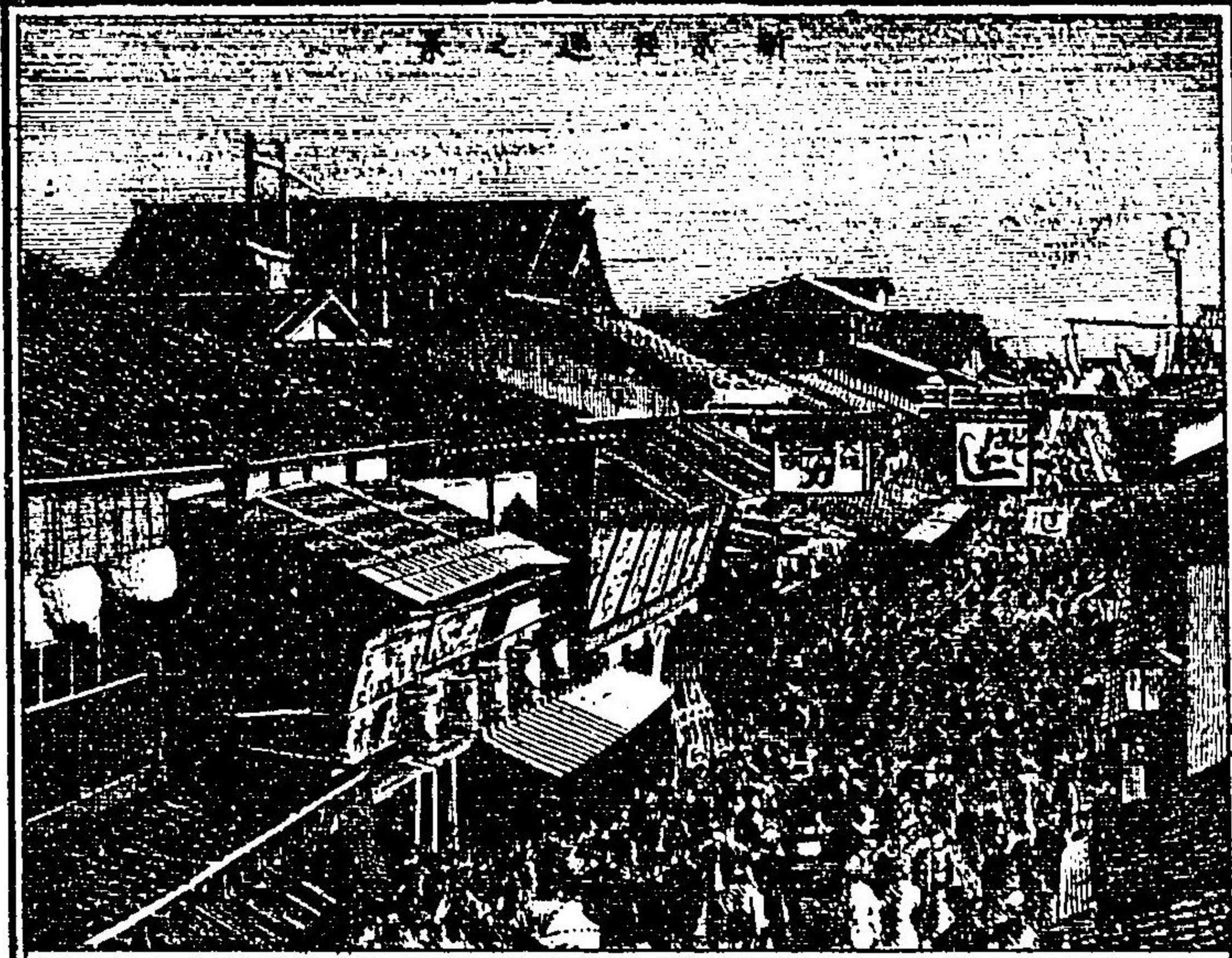


皇門を立去て廣小路に出で寺町通を南に
 たり行ば御靈の社や草堂の觀音閣を拜
 し本能寺又信長公の墳墓あり博覽場や勤
 業場其構造ハ煉瓦石を以て建築し石墨鉄
 柵を繞し花樹を栽頗る美を飾り府下職工
 を勸奨し物産を興立して益世の道を開示
 し織殿ハ各國の航海卒業の職工機械を蒐
 衆め新を競て綺羅錦繡を織出す集産場ハ
 諸産物佳品を陳列し代價ハ安く販かり三
 條の大橋ハ其長さ六十三間幅四間往昔豊
 臣秀吉の架設して東海道や木曾街道旅行
 の喉吭の處とて此邊旅宿の家多く往來雜
 沓繁闐の地なり

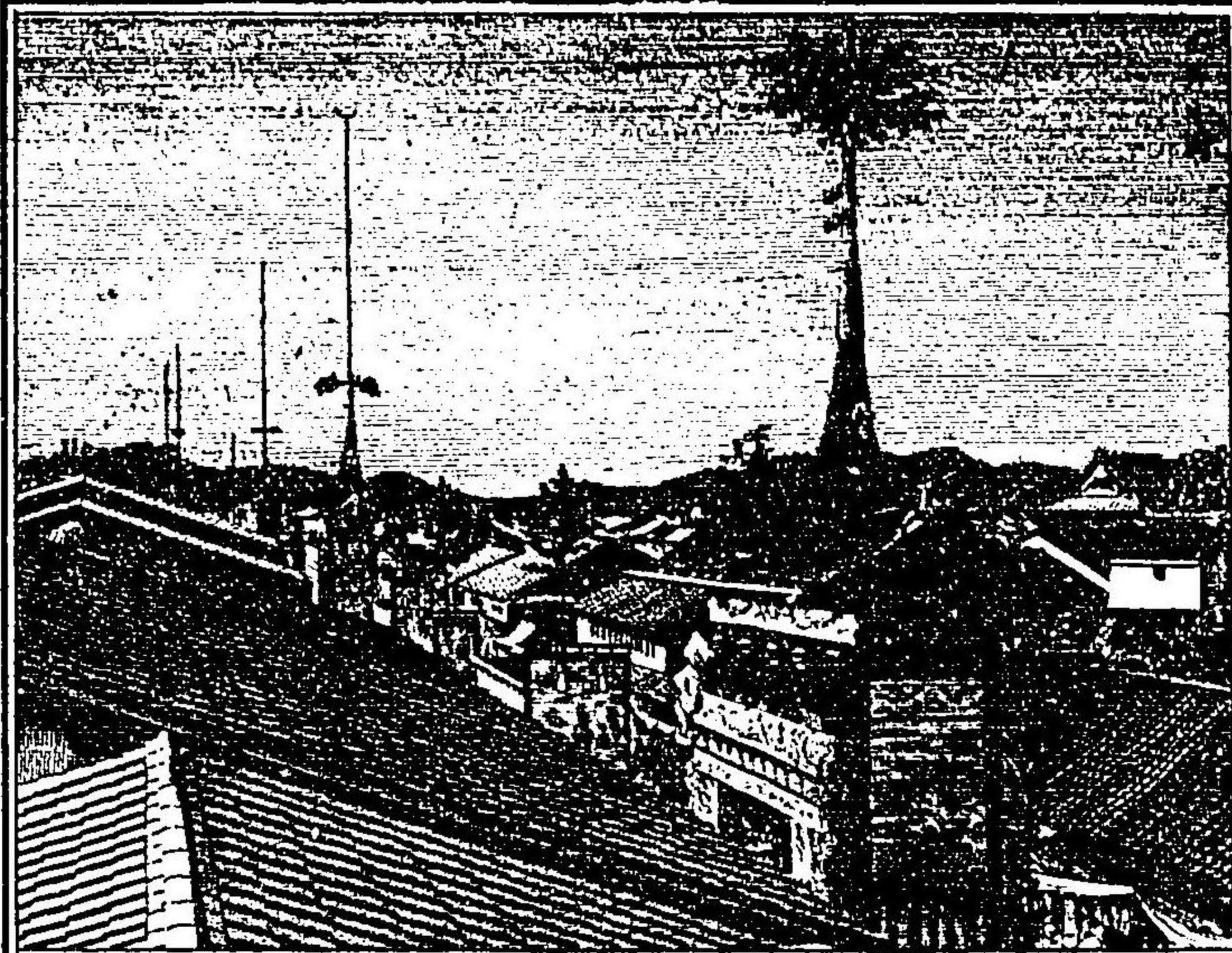
院水關之景



琵琶湖疏水の其初め明治十六年の秋の頃
 府知事北垣氏區内聯合の儀會を開き水洲
 の利益を供儀し先水源を近江國大津の濱
 三保寄又始め三井寺の麓より第一隧道ハ
 逢阪山千餘間を鑿通し山科郷又堀を迂し
 第二の隧道ハ日岡山六百餘間を疏通して
 南禪寺の西まで水路を北に掘り高野村の
 邊より西に流し高瀬は分派して小川頭又
 より更に堀川に南流するの目的なり
 該工事を得る其利益第一貨物の運輸や或
 ハ山邊田圃の暑候の水旱を補助し又處々
 水車を設置して器械工率を供する為な
 りと未だ落成ならざれば其概を記す



新京極ハ寺町の東ニ並び三條通より南ニ
 向ヒ誓願寺和泉式部の墳や軒端梅永福寺
 蛸薬師を過テ錦天神社金蓮寺道場又巨の
 地ハ阪神社旅所例祭七月此ニ神輿を駐む
 を祇園會と云近世關きし新路なれども都
 下便宜の居地を占家屋ハ降次節比して百
 貨の舖や演戯場歌曲の聲ハ旦夕絶間なく
 珍奇奇獸の觀物や喧囂を戸々ニ喚び茶亭
 又榻をかりて愛媛が香煎薄茶を客ニ供
 し藝妓ハ靚粧者を競ひ京樓宴席西洋風を
 擬擬し苑裡ニ池塘を繞らして朱魚や錦鱗
 が浮沈自由ニ游嬉し紅顔の醉客逍遙足躑
 跚たり都の繁昌此地ニ比するなり



八坂神社例祭祇園會ハ人皇六十四代圓融
 院帝天祿元年六月始テ此祭例を行且今
 明治廿一年ニ當テ八百八十九年の星霜を
 經テ毎歲七月十七日及び廿四日の兩日ニ
 あり神輿三社古例ニ因テ甲冑を着きたる
 武者三十余人威儀天々とし祭禮をなほ
 本日上擲ニ掲タル圖の如ク飾車ニ乗タル
 人ハ笛鐘太鼓等ニテ囀を調ヘ幸巡る順路
 ハ四條通の西より寺町を過テ松原通を西
 ニ牽納る舊例なり其裝飾たるや長刀鉾ニ
 ハ小鍛冶京近の銘あり函谷鉾ニ僧空海筆
 跡金襴の古物程々緋の唐縫や蜀江錦を鉾
 臺ニ巻テ賣ニ壯觀かり



八阪神社祭神ハ素戔嗚尊稻田姫八王子を
 合祀せ此ニ二所の樓門あり西ハ四條通祇
 園町の遊里として弦歌の聲ハ旦夕絶る
 どかし又南門又向ふ町を下川原と云此
 巨石の華表あり此邊は酒樓宴席多其長
 たる者を鳥居本中村屋梅尾平野屋と云古
 相傳ふ盃酌女ハ昔より靚粧赤き蔽膝を例
 とす社地ハ廣くして社殿ハ宏壯美を盡し
 攝社末社多し賸人常々多きハ東山諸社の
 魁とすまた社東ニ櫻林あり花ハ重瓣よし



藝妓教人手を揃へ踏歌を舞ひたり
 盛夏夕納涼の名ハ夙ニ在夕陽焔々涼風をかくり樓上醉客愛媛を近づけ窓前又倚て
 涼意を愛し水遣の涼棚幾千人銀燭赫燦として水ようはれる點燈ハ恰も衆星の照す
 れたり

四條鉄橋の兩岸ハ酒樓妓院鱗
 次ニ軒を並べ加茂川の清流ニ
 望で時ち橋頭の往來ハ人馬絡
 繚と織が如く肩摩較擊雜沓し
 橋下の水聲ハ鏗々として玉を
 叩き兩岸の玻藪燈常ニ流水又
 映じ岸頭楊柳ハ風又活ひ西岸
 を先斗町と謂東岸ハ祇園町北及
 び南祇園と三戸の演戯場あ
 り歌舞練場又ハ例歳都踊とて



圓山吉水園之景

堂又架ける復道ハ歩も應じて驚聲を發す
 奇巧あり此は客室あり千疊敷と云庭造ハ
 巨巖奇石を壯麗し緑樹花卉を栽たり其幽
 趣實すべし

圓山長樂寺ハ華頂山ニ隣接する山として
 前ハ祇園の杜真葛原梅園雙林寺の林叢ニ
 對し高樓の宴席あり其名を也阿弥又正阿
 弥或ハ尤阿弥藤の棚等かり春秋又書画會
 の類多く此地又庭を設く就中構造の聳へ
 層樓の天を攀る如きハ吉水園の鏡泉場か
 り浴客毎層室ニ滿ち此又一浴一層を下り
 再び瀑湯ニ沐浴し更ニ三層樓ニ登り跪坐
 て西望すれば京都の十萬戸を一瞰し二條

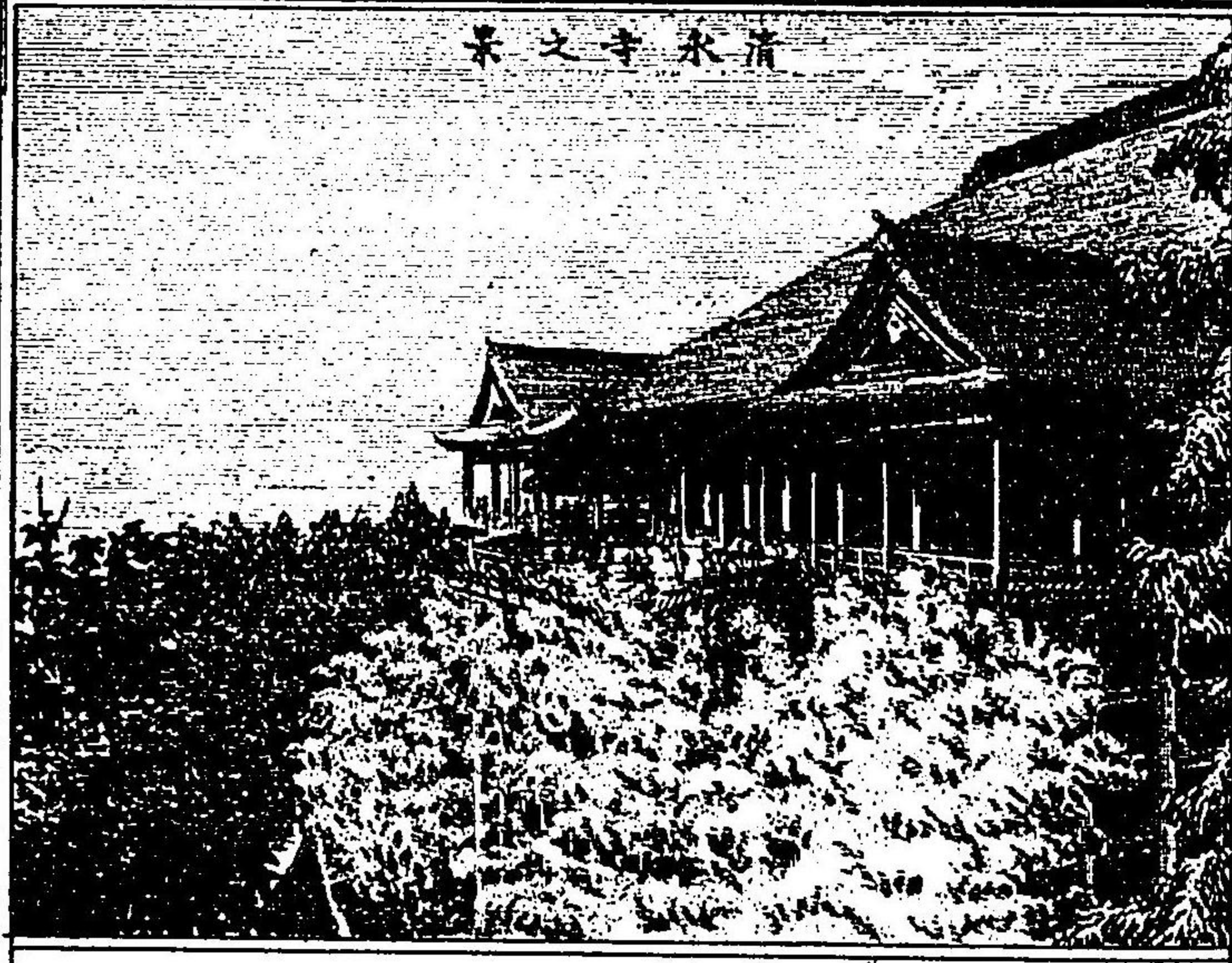


華頂山智恩院之景

て麗艶春風台蕩花爛熳の候夜多少の點燈
 を照し遊客此は集ひ酒宴盛なり本社ノ裏
 門より知恩院ニ杖を曳く順路あり

華頂山知恩院ハ淨土宗の本山として其地
 域四萬三千坪宏壯の山門を構へ前路ハ一
 簇の松林として蹊路鬱蒼し寺境又櫻樹九
 千章あり花時弥望せば錦を敷く如し爛々
 たる香雪地ニ布くその幽艶古人も是を稱
 しより山門を過て石階あり數歩として堂
 舎時ち右ニ梵鐘樓あり巨鐘として高さ一
 丈八尺巨り九尺一度是を撞ハ其響遠く浴
 中を過て西山ニ達と本堂ハ圓光大師の像
 を安置額ハ後奈良天皇の宸翰かりと又後

清水寺

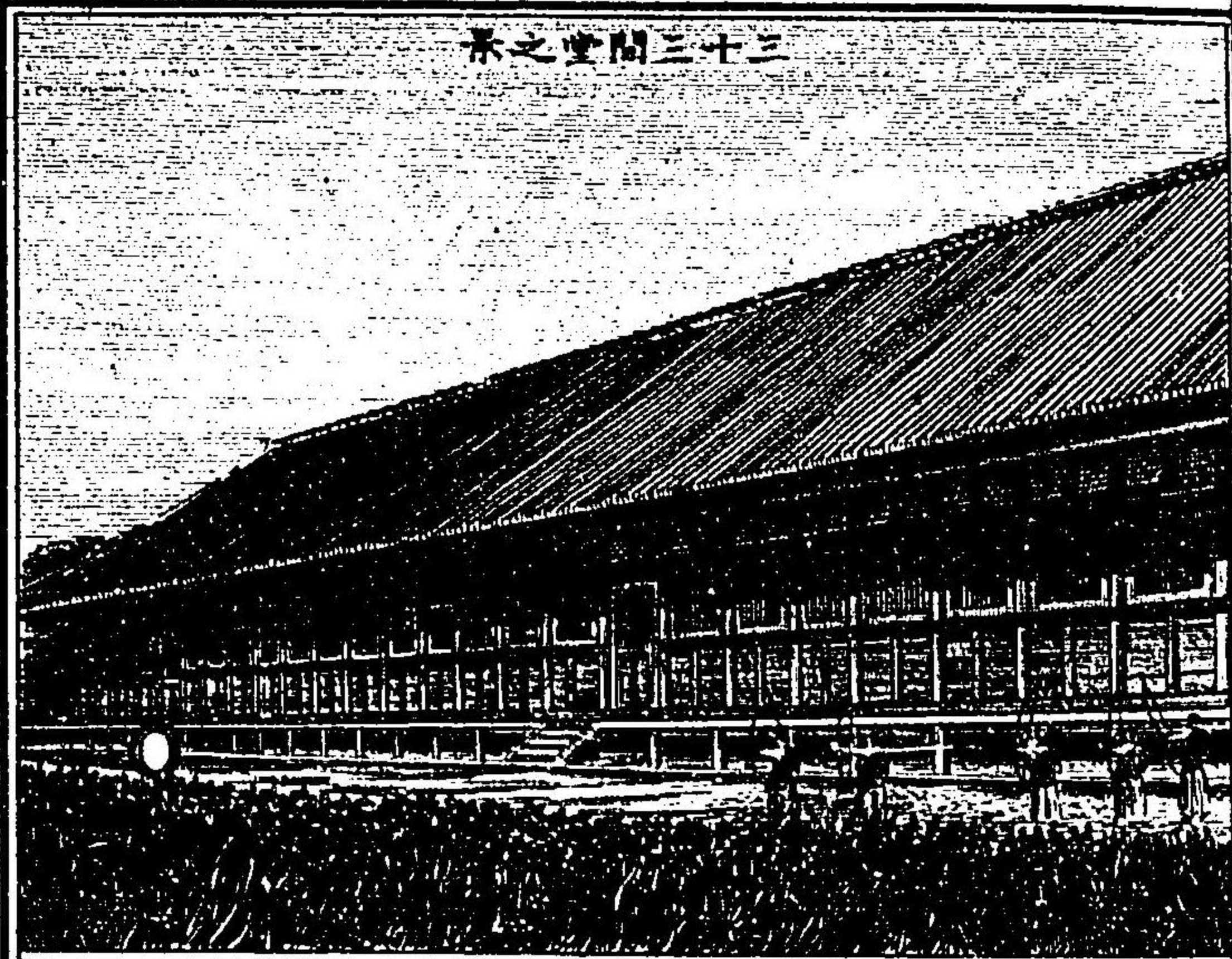


靈山招魂場の高草寺の東山は近畿國
 殉難及び勤王戦死の姓名を彫る石票敷
 百を連綿し又表忠の銅碑あり○安井金刀
 比羅社又崇徳天皇の御廟あり○八坂の塔
 清水寺は大同二年阪上田村磨の創建の觀
 音閣にして堂後の山頭は地主神社を祭祀
 し舞臺は縣涯に架し其基礎最も高く臺下
 を臨み目眩駭栗の心地せり音羽三條の瀑
 布飛流して溪間を流れり此境地標樹多
 く花候は關芳爛熳として錦繡を布か如く
 其幽艶は昔日平宗盛豊臣秀吉公も感
 を起とり○鳥邊山は西大谷に至る通路か
 り晴昔は高貴の人と雖も茲は穢しと云ふ

高台寺

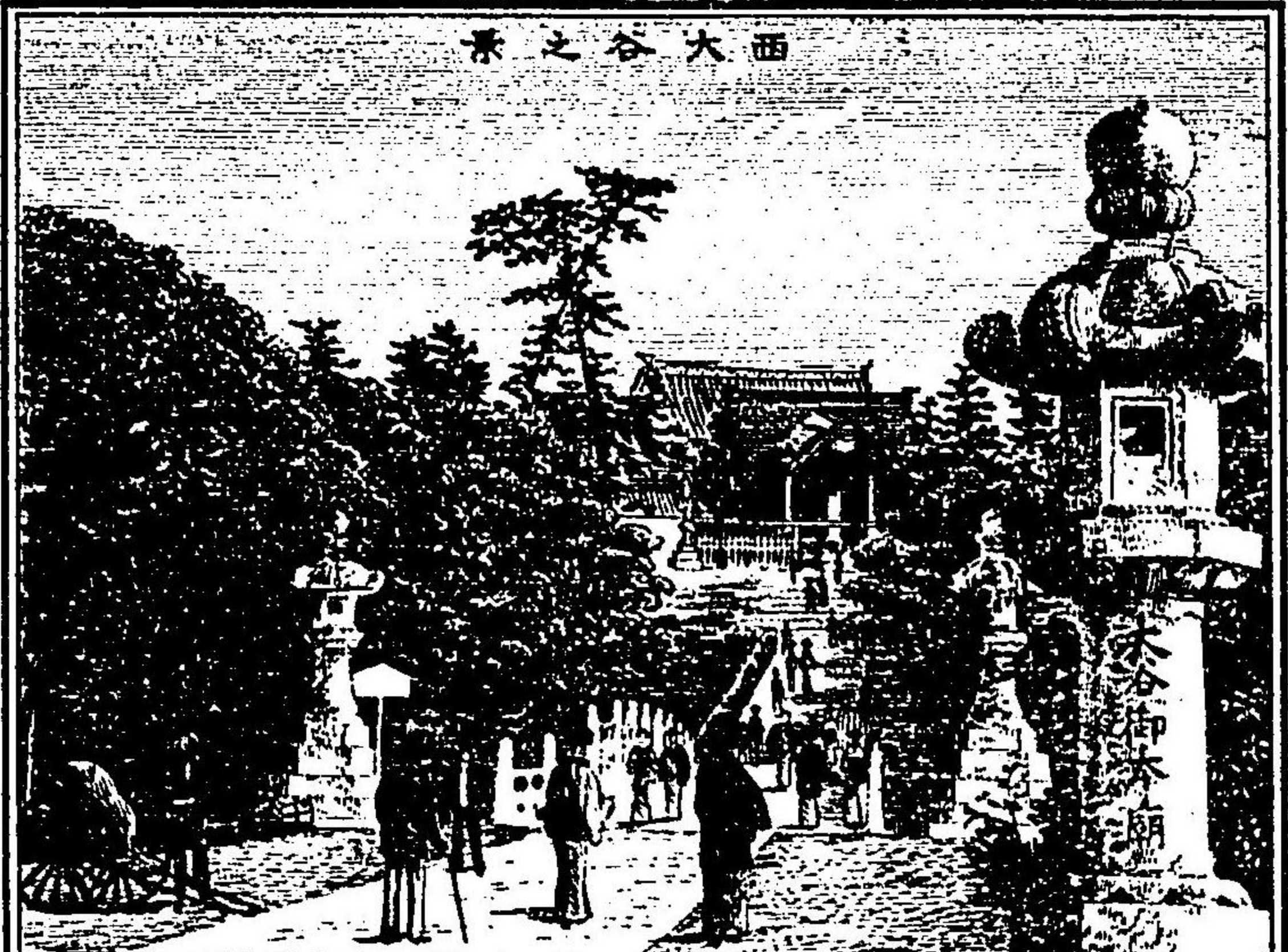


の離宮ハ霞の如く白壁横帯し東寺の宝塔
 ハ林上ニ雲を凌ぎ北ハ加茂ニ葉山西ハ愛
 宕嵐山の峯南ハ越の峯波山寄の川瀬遙
 々眺望し涼笛の聲ハ時々後山ニ響き京師
 第一等の遊觀場かり
 東大谷ハ本願寺代々の庶所かり雙林寺又
 文阿弥てふ冥席あり其邊ニ西行庵芭蕉堂
 大雅堂の遺跡あり
 高臺寺ハ豊臣秀吉公及び高臺院の靈舎或
 ハ時雨亭金亭の茶室ハ世人の知所かり寺
 境ハ往昔より秋萩多くして秋季遠近の文
 人雅客飄を喚し行厨を携へ此ニ花を賞し
 詩を賦し和歌を詠する人多し



景之堂間三十三

豊國神社ハ方廣寺大佛の境内ニ在リ豊臣秀吉を祀ル維新後の建築ナリ此の後山阿弥陀峯ニ席あり又社の側ニ大佛の半像を安置す○耳塚ハ文禄元年秀吉朝鮮を征討し先鋒加藤清正及び小西行長等より敵兵の耳を斬り秀吉の寶檢ニ備しを此ニ埋め國威を不巧ニ傳ふ○三十三間堂ハ後白川天皇平忠盛ニ命じ建築し千駄の觀音を安置す此堂南北六十六間あり背椽ニ時々射術を試る者あり東の方ニ○日吉神社○知積院○新熊野神社同觀音閣あり
東涌寺ハ仁治年中四條天皇已降歷朝の陵廟たり後山ニ社嚴ふるハ孝明天皇の陵



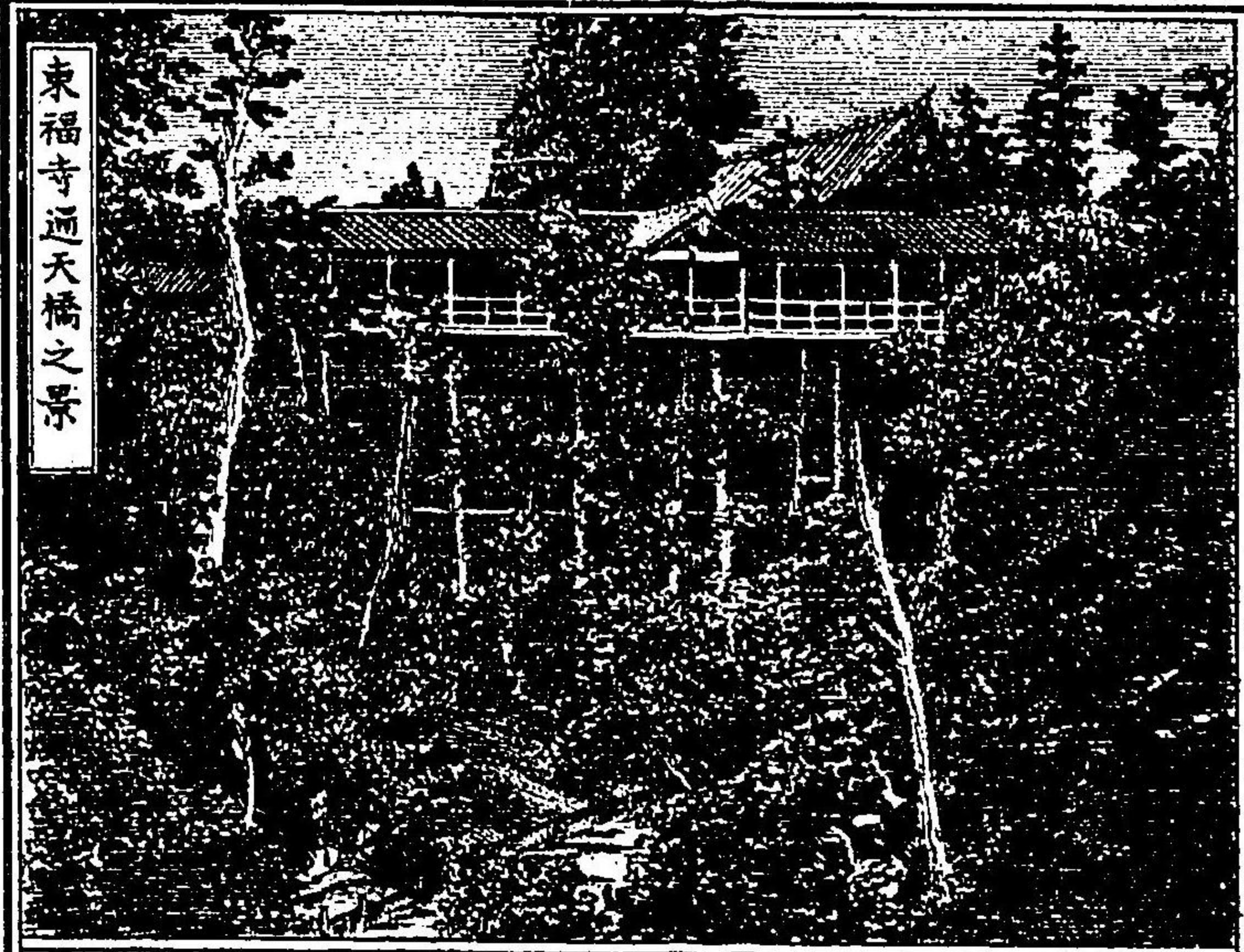
景之谷大西

墓所なり麓ニ卒の谷てふ處あり昔日景清を籠置し處なり○六波羅寺の大慈閣ハ空也上人の創建ニして此邊ハ平氏館舎の地ニして今ニ池殿町の舊名存せり
大谷ハ真宗開山親鸞聖人の場所あり門前ニ石橋あり準剛石を以て架設し橋下ニ水路ニ穴を鑿ちたり故ニ世人眼鏡橋と云ふ又躊躇すれば松の緑ニ花を交へ秋ハ林間ニ紅葉を照し四季の壯觀あり此路ハ五條大橋ニ通ず故ニ五條阪と云陶器製造盛の地其主長たる者を龜亭道八六兵衛と其名聞申建仁寺ハ禪宗五山の一ニして境地廣く老翁翁として堂舎宏壯なり



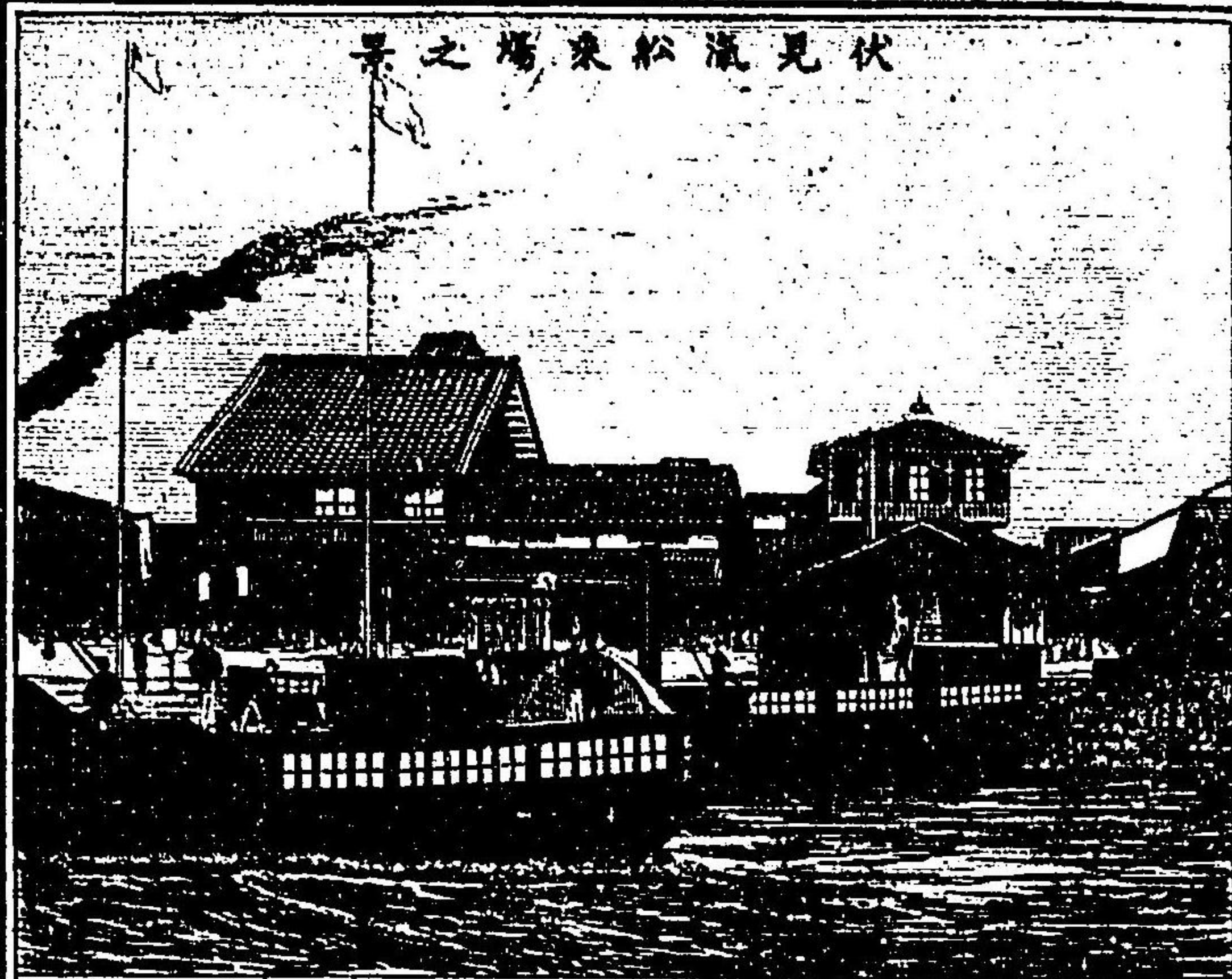
東福寺山萬福寺

欄は倚り盆を傾け其幽趣を愛し詩歌の秋興を賞す勝地なり
 石室寺は石像の五百羅漢を安置せしが今其半を減す○寶塔寺は白蓮日朗上人の遺骨を收むる石塔婆あり此地を深草と字す霞谷てふ梅園あり小町を戀し少將や歌道な名を得し元政の舊趾あり○嘉祥寺の觀喜天○藤社社の例歳六月五日氏地の人々が甲冑を着し競馬の式あり社前東又向官路あり大龜谷と云宇治や山科に至るの通路あり○兩本願寺掛所ハ花山村の東在大石良雄隱棲の舊趾寺となり四十七士の碑文ありの上醍醐及び醍醐寺ハ觀音閣や



東福寺通天橋之景

り又境地は靈泉あり頗る清冷なり寺寶の佛舍利ハ世に名高し當寺を出て伏見街道に向ふ兩側ハ老松樹を列し路を擁し街道の一橋を渡り滝尾社の前は到るなり東福寺ハ禪宗五山の一として聖一國師の創建あり佛殿講堂ハ廊を通じ方丈樓門及び傳衣閣皆山岳に倚て構造す惜哉宏壯なる佛殿ハ近世火災に罹り焉有せり寺寶の涅槃像ハ頗る大軸として兆殿子の画世人の知る處あり
 通天橋ハ寺境の溪川に架設せる廊橋あり秋季ハ紅葉猶も飽き紅錦爛々と清流を隔て璀璨目を奪が如く文人騷客ハ溪間の棚



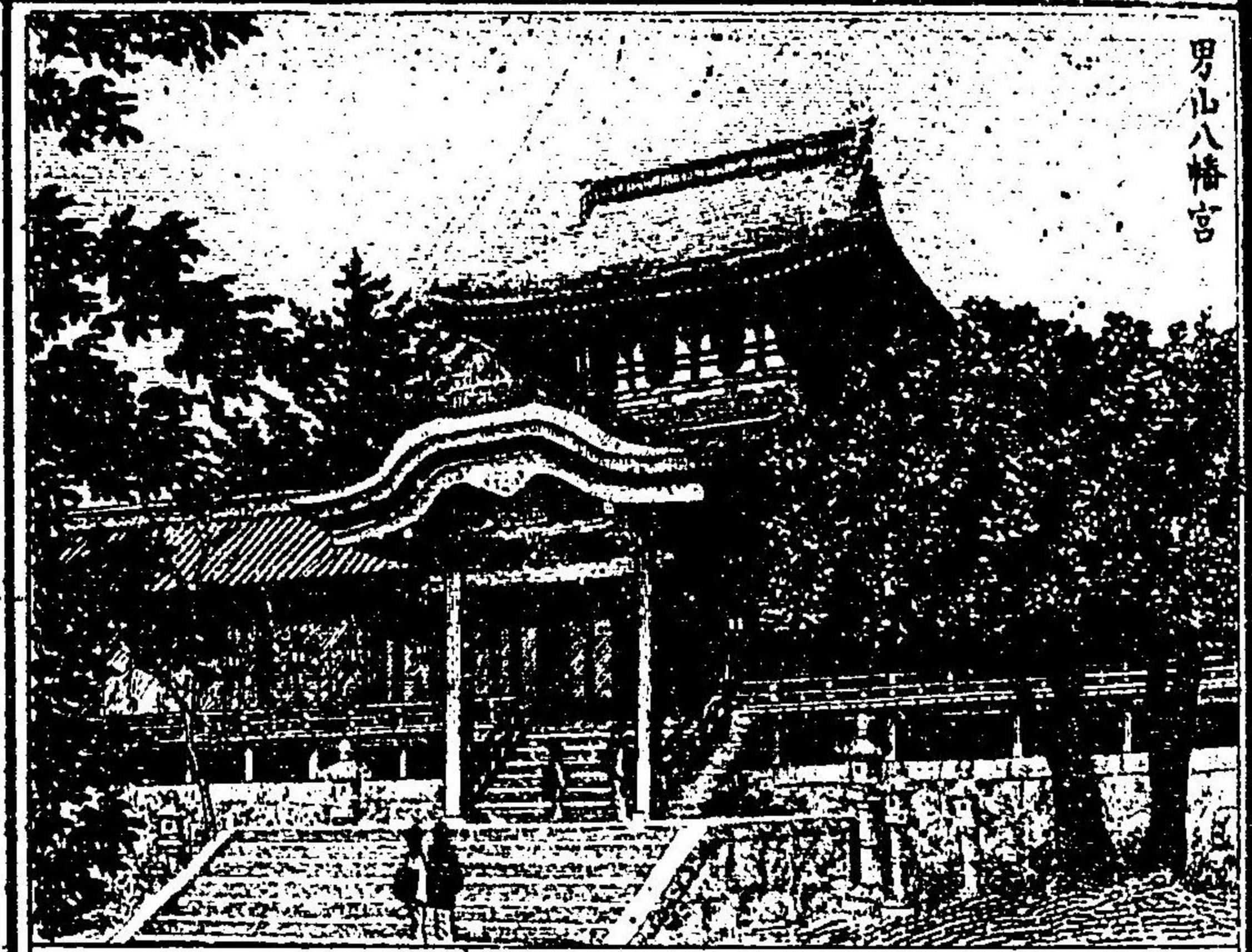
伏見川松東場之景

喜撰法師の朝日山は幽棲し○真聖寺門前の阪路を琴坂と謂ひ歎冬の名所あり此地ハ夏日營多し○縣社や宇治橋の邊は菊屋或ハ萬葉樓の宴席あり此より宇治川の流又添長堤を歩し伏見は向ふ○製鏡場ハ宇治川の水勢を力を用いて機械車を運轉し西洋式諸器の製造日々盛なり○觀月橋ハ舊と豊後橋と云京都より奈良へ至る官路なり橋北は指月山月橋寺共觀月の名勝なり城山ハ文祿年中秀吉の築く處石田三成が兵燹に罹り鳥有せり此邊ハ梅桃多く花時ハ淡粧掩映して頗る端然たる雅地となる此は宇治見臺てふ所あり爰は踏れば宇



宇治平等院

豊臣花見の遺蹟なり○日野樂師の山頂ハ大阪大川の三橋を遠望するの光景ハ絶佳あり
 黄檗山萬福寺ハ支那寺の構造唐僧隱元和尚の開宗○三室戸の觀音閣や木幡の里○宇治郷ハ鬼道稚郎子傳閑居の地明恵上人宋朝より茶の種を齎し方今貿易の一品と成る茲は明治廿年製茶紀念碑を平等院の寺境に設立す○平等院の構造ハ鳳凰の姿又造築し廻廊を羽翼の如く作りとり治承四年源賴政平氏の軍に敗北し此は自害したり其古跡として廟の芝を存したり蜻蛉石ハ紫式部の旧趾あり○離宮八橋○惠心院



男山八幡宮

曲折屏立し躋るふと十有餘町にして天然石は弥勒佛を彫刻す其高さ十間余幅五間計り又虚空藏石其高さ八間文珠石の高さ五間計り又千手の胎内潜とて開裂數丈燄然として屈洞をなす此を窺ふは深暗なり此間ハ怪石争並して奇觀なり此山麓より月瀬の通路あり月瀬の記ハ大和の部を見るべし鷲峰山金胎寺ハ相樂郡ニ在テ大和伊賀ノ降接す高嶺なり役小角天竺の靈鷲山を模擬し養老六年の創建山嶺ニ奇石多し男山八幡宮ハ樵峯鎮座官幣大社ニシテ應神天皇を祀る貞觀の創立なり坂路ハ石階七曲を成し社殿ハ巍々として壯麗を極たり



伏見稲荷神社

治川の緑を凝して觀月の長橋及び巨椋湖を眺望して風光賞すべし伏見驛ハ大邑にして三所の遊里あり墨染撞木町中書嶋と云此濱より日々淀川通の蒸氣船を解纜し大阪八軒家ニ到る巨椋湖の其周廻四里ニ及び中央ニ一徑を通じ官路とす夏日ハ小舟ニ乗じ蓮花河骨の花を愛し水禽の游戲も亦一興あり東ニ堰手の玉川とて山吹蛙聲の古歌多し笠置山寺ハ天武天皇の創建にして後醍醐天皇當山ニ皇居の時楠正成足利の征討を拜命す此時堂舎ハ兵燹ニ罹リ烏有せり此山木津川の水源にして其山路ハ極て峻阻

景之神天岡長



入京を催促し明治元年一月は會桑先鋒し
 伏見鳥羽の関門を逼り開路を示せども
 長兵士の防禦して開かねば會桑勢は堪兼
 て銃砲を放ちて進撃し攝戦數刺及び死傷
 ハ多けれど勝敗決せず日ハ暮ぬ互に軍を
 引上りて賊軍越て兵糧を喫せしが此夜三更
 官軍突然賊軍屯所を攻撃し即時に勝利を
 決し此は征討將軍仁和寺宮錦の御旗を翻
 翻し國威を示し今泰平の御代とぞ成りけ
 る

長岡天満宮ハ関田村に在り傳へ云菅公太
 宰府に移り玉ふ時祐房餘波を暴て御姿を
 此コ馬とぞ社頭ハ岩間躑躅多く花候ハ赫

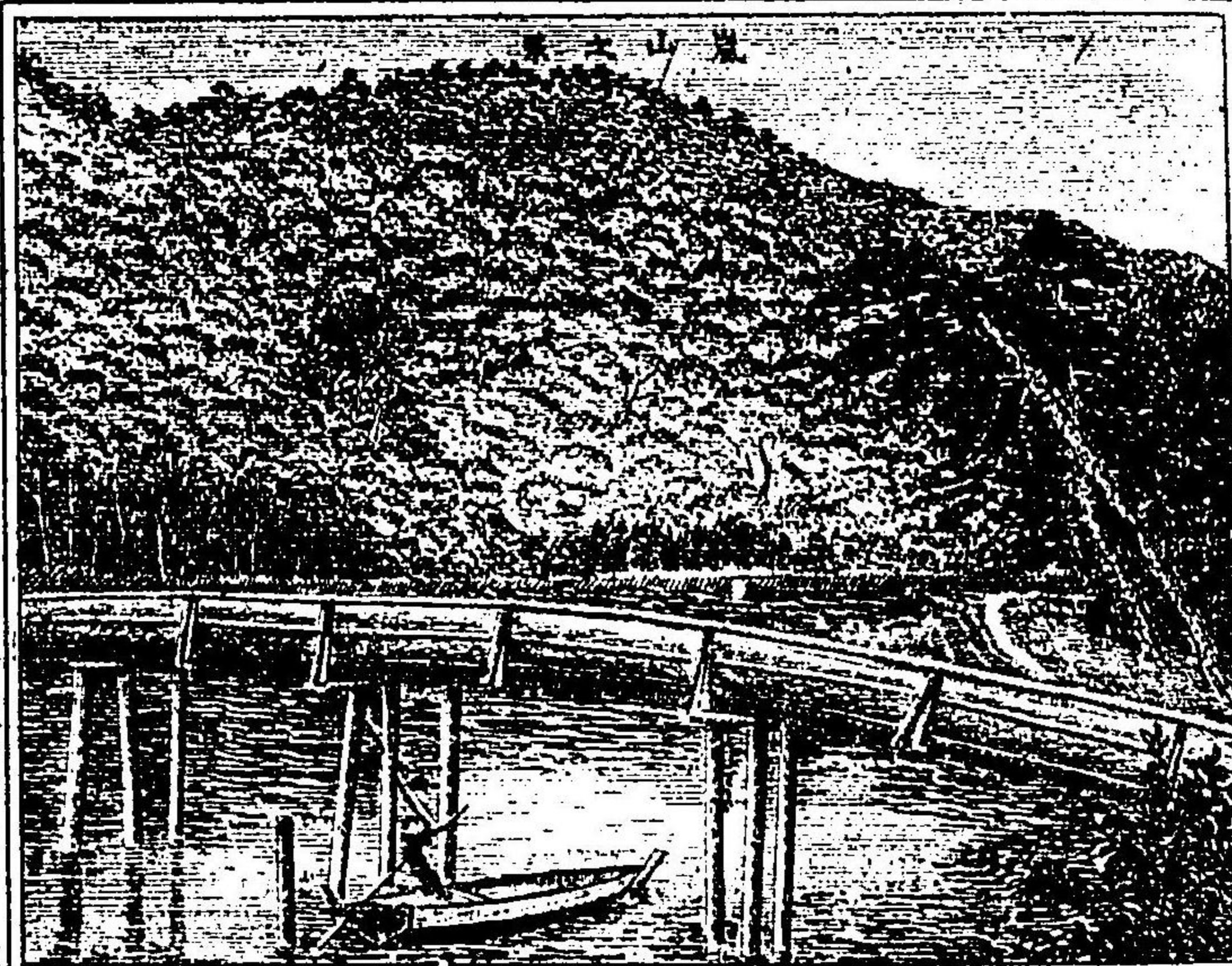
國之爭戰羽鳥



社後又琴堂とて四脚の亭あり此は越ひて
 前山を瞰れバ天王山は對し麓ハ瀛車の往
 復黒煙横帯して絶へず淀川の清流は白帆
 點々泛みて山河の光景絶佳なり

離宮ハ幡宮ハ山崎停車場の側あり明治
 戦争の兵火は罹り方今仮殿なり觀音寺
 ハ天王山寶寺は並列す此邊ハ天正年中光
 秀信長公親子を弑したりし時秀吉西國よ
 還り爰に戦ひ光秀を討て擾乱を鎮たり

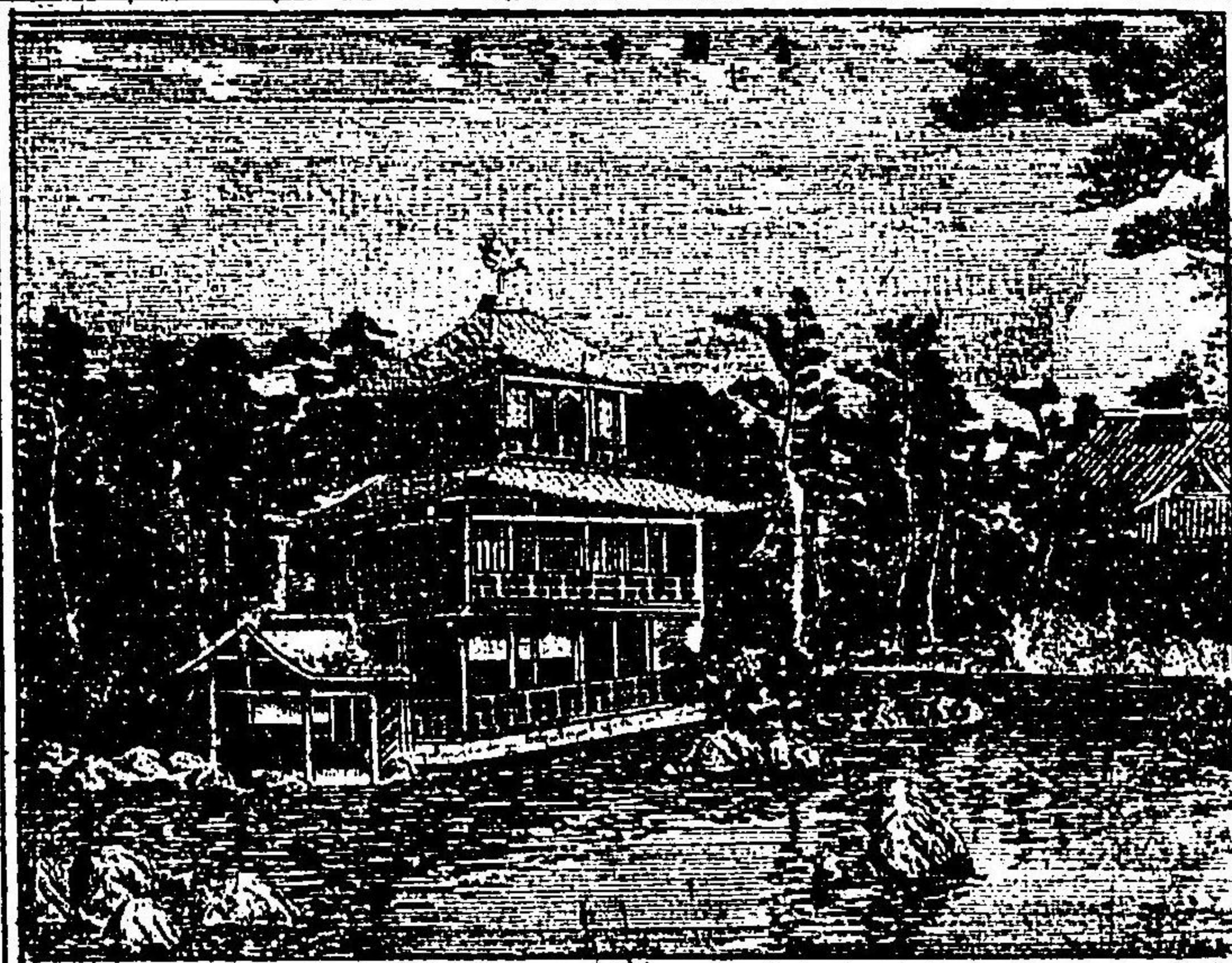
慶應三年冬徳川慶喜時勢を歎じ將軍職を
 奉還上書して大阪城に籠居し朝旨を待諸
 藩の動靜を窺ひけるは朝廷會議は内府を
 漏したり會桑の二藩ハ此を奮激し内府は



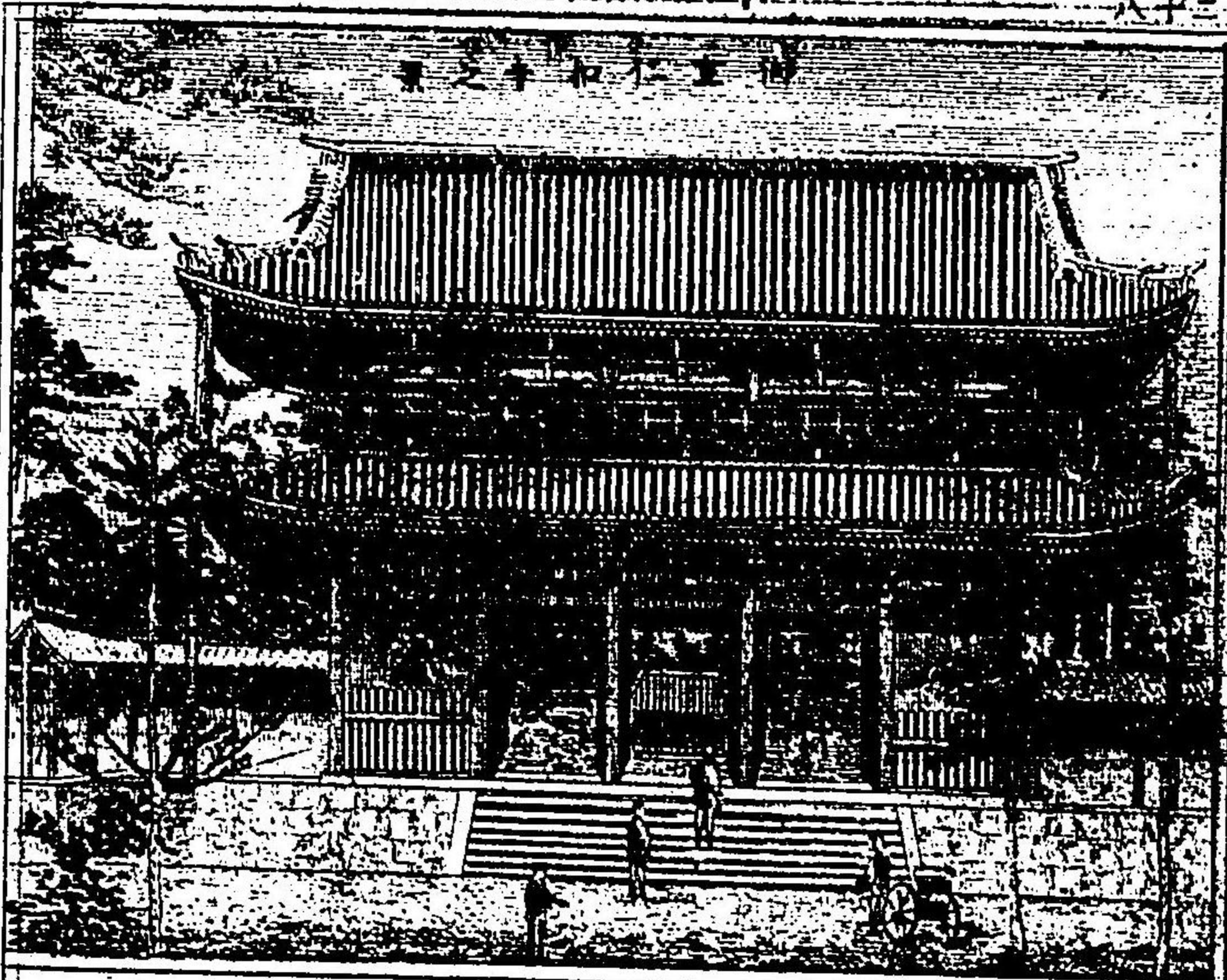
公秋ハ虫音妙ニシテ雅人爰ニ集ル松尾社
 ハ官幣大社祭神大山昨神大寶元年の創立
 富社ハ酒造の神と称し賽入多し梅酒ハ酒
 鮮菓を祀る社地梅櫻多し杜鰲なり製紙場
 洋紙製造日々盛なり
 嵐山ハ龜山天皇の御宇和州吉野の櫻を移
 栽今ニ絶せず公園を成る其山河の光景ナ
 る満山櫻樹多し翠松楓樹を混交し麓ニ大
 堰の大河碧水漾々し渡月橋を虹架して四
 季の景致ハ欠されど花候ハ最も艶麗賞可
 酒樓ハ山ニ對して洋風ニ構造し月雪花や
 社鶯の名を附して緞紳公子の宴席ニ備へ
 たり或ハ河涯ニ添て榻を並べ雅俗の休憩



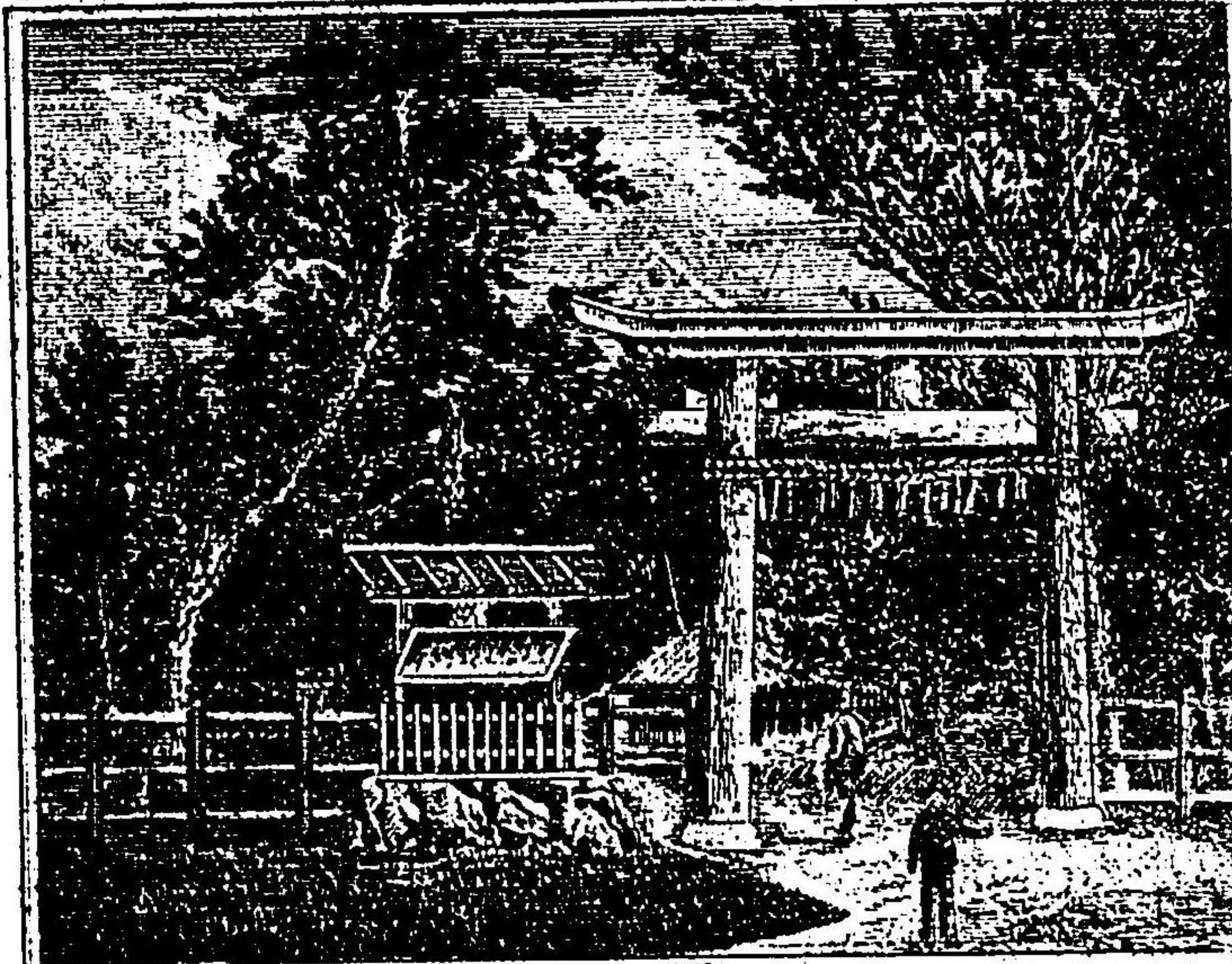
美觀なり社前の池ハ廣々として中央ニ
 往々通じ賽路と云池塘ハ梅櫻楓樹多し
 光景閑雅なり向町明神の粟生の光明寺
 ハ浄土宗西念の元宗當時の構造嚴格ハ殊
 ニ精巧にして工人等操範せし柳谷観音閣
 ニ世俗ハ眼疾治癒を祈りける
 善路観音堂の三塔寺ハ柳谷の北ニシテ此
 山嶺を繋ぎ嶽と云山頂ハ平面にして京都
 及び大阪奈良の犬佛堂を遙望するの絶景
 あり○西岩倉○山嶺山勝林寺ハ花の寺也
 云西行法師の古跡あり○春日社ハ大原野
 村ニ在り○櫻原ハ京都七條の西ニシテ此
 地前ハ郊原後ハ高山聳へ春ハ鶯聲夏ハ郭



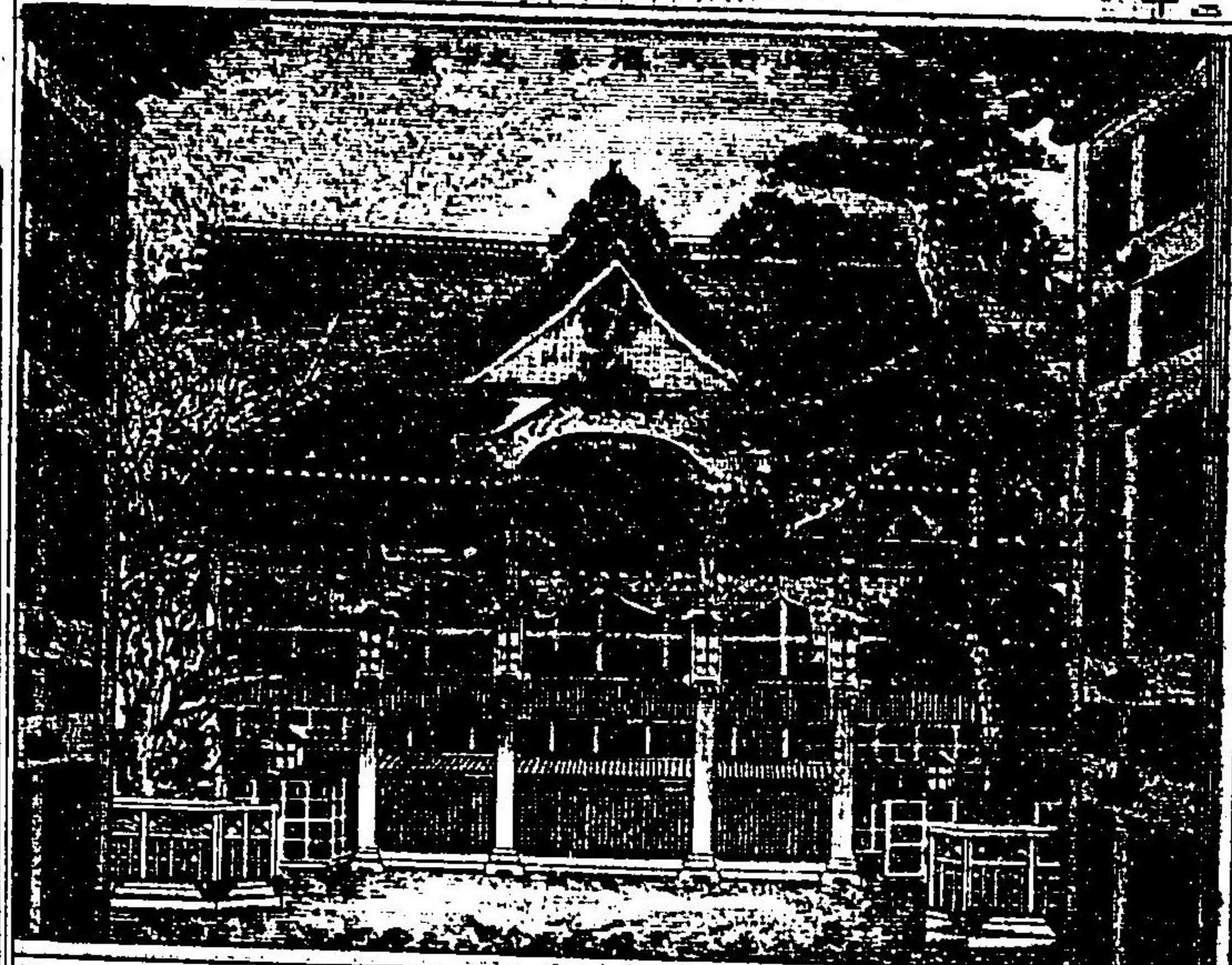
ハ重輝煥然其根照より横狭して開花
 天々爛熳と咲渡淡冶し錦湖を布て如く願
 る美観なり其族や雅人が集り來て愛慕
 錦を競ひは、行厨酒酌を勢へて春の誤弊
 を為かやの妙に寺ハ禪宗の巨利にて境
 の松ハ美観あり此ま、西又双閣を、處
 り歌僧兼好が古跡あり。龍塔寺ハ繁華
 名あり。○等持院ハ皇氏の建設數は足利
 世の木像あり維新前勤王の浪士此首級を
 取て三條河原に棄首せり、
 金閣寺ハ建元として皇氏の山莊として後世
 寺と成る林泉の景致たるや南木花開を樓
 擁し三層の樓閣あり初層を法水院と號し



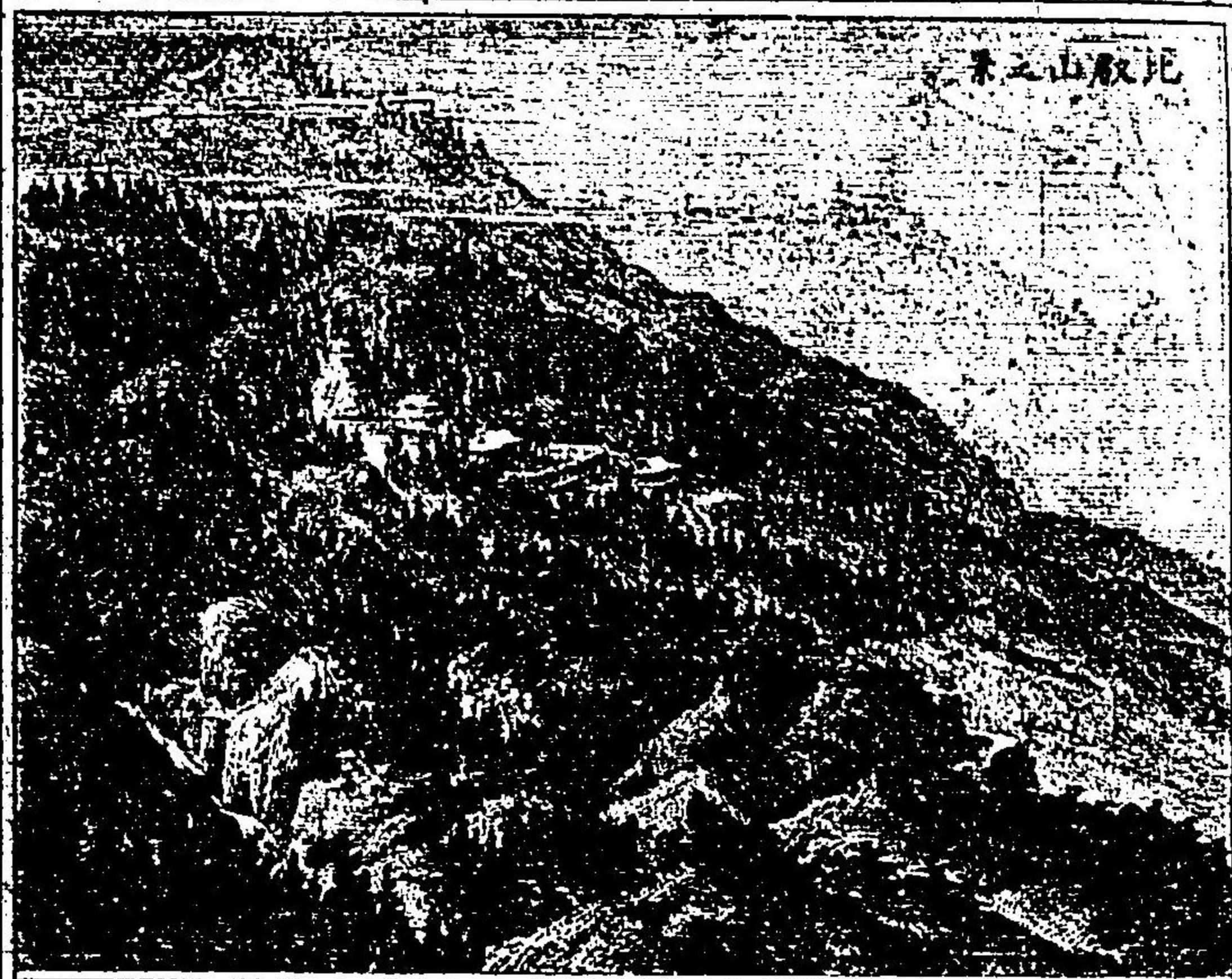
かり此地たすや山谷幽邃にして間水曲折
 岩壁を縫り其響ハ操琴を以てり楓樹千章
 山谷は横狭し紅葉恰も蜀錦を織る如く板
 橋あり白雲橋と云橋下ハ奇石最多し水勢
 巨石は過られ激して玉を碎き潭水の停着
 してハ青靑然るが如くなり橋を歩し山徑
 は踏れば梅尾の梵刹あり境地ハ高く清澗
 全地の景勝ハ盡く眼下ハ一圓は弥望し秋
 興ハ頗る濃の勝地なり
 御室(和名)寺ハ真言宗山門ハ宏壯は境地廣
 く十萬坪に充てり堂塔伽藍全備せり往昔
 及び難波野邊に故又一奇あり其高さ丈余
 一満す一抔軟幹屈曲して枝ハ垂が如し花



社域廣く清潔にして夏日ハ夕涼ありて
賑ひ
大徳寺は紫野に在り堂舎宏壯閣千利休の
寄附又真珠庵ハ一休和尚の住坊遺物を存
雲林院ハ淳和帝の行宮僧正通昭に給て寺
と成る○建敷神社ハ織田信長の靈を祀る
維新後茲に建設す○七社○白峰神社祭神
ハ崇徳天皇明治元年神靈を讃州より遷し
奉りたり
上加茂神社ハ山城國の一宮加茂皇太神別
雷神を祀る天武天皇白鳳五年の創建なり
社前の清流を御手洗川と謂社域廣くして
遊藝なり○貴布祿社より紫野に出る

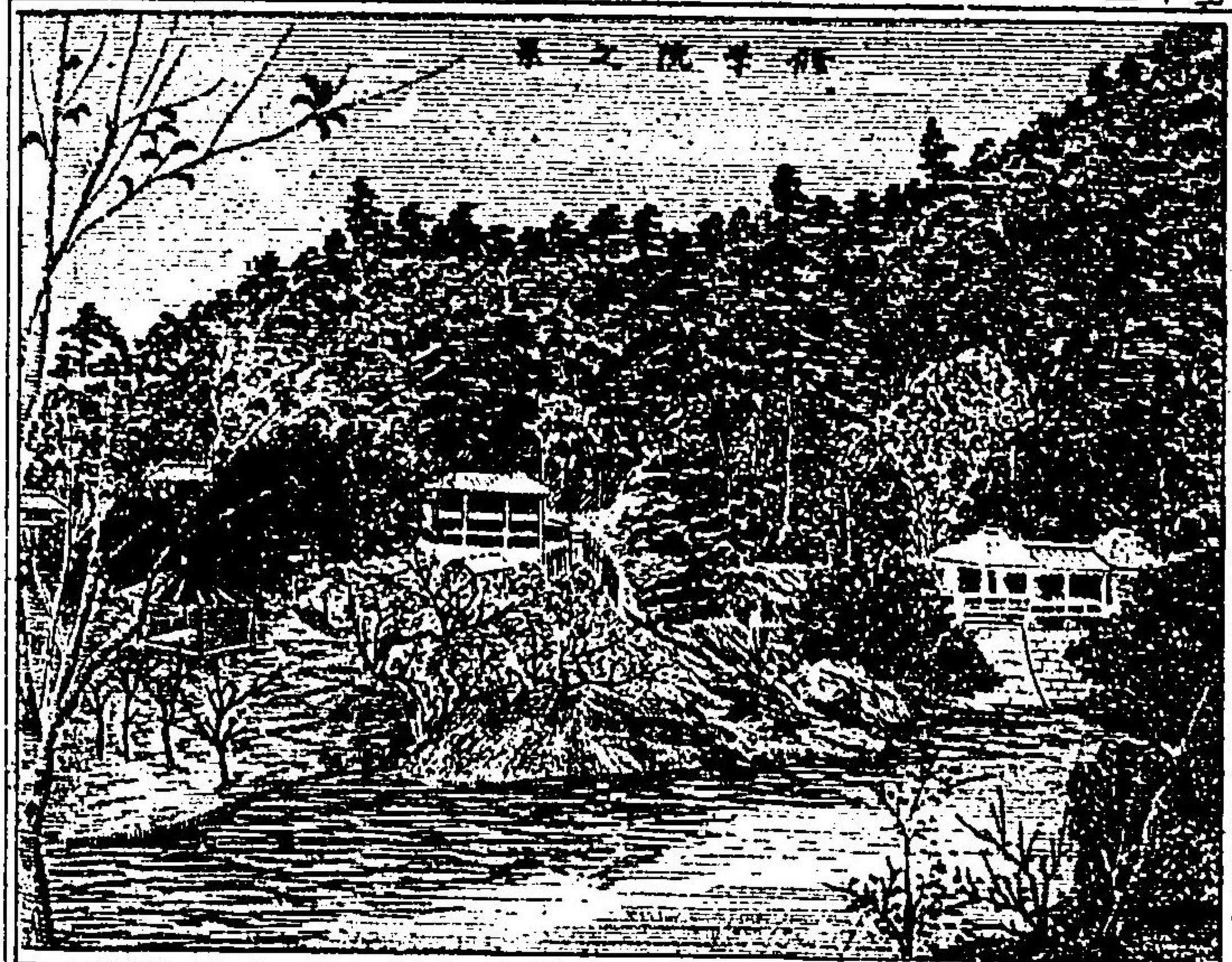


阿弥陀佛を安じ第二層を潮音洞とし第三
層寫意頂と云天井ハ三間軒の一松板を以
て造り四面は金箔を貼り後小松帝の御願
を賜たり又閣前ハ池塘あり鏡池と云奇石
巨巖を以て粧飾し茶室の柱ハ南蜀樹とし
て其木三握あり
北野天満宮ハ天歷九年の創建今の社ハ豊
臣秀頼の建設なり神前ハ大鏡あり裏面ハ
日本國の圖を印す加藤清正の寄附する所
社域廣くして攝社末社多し暮人常々絶
ることなし庶祭八月四日近時再興あり行
装美なり一釋迦堂ハ當社の東ハ焰魔堂ハ
南あり今宮社ハ素盞鳴尊稻田姫を祀る



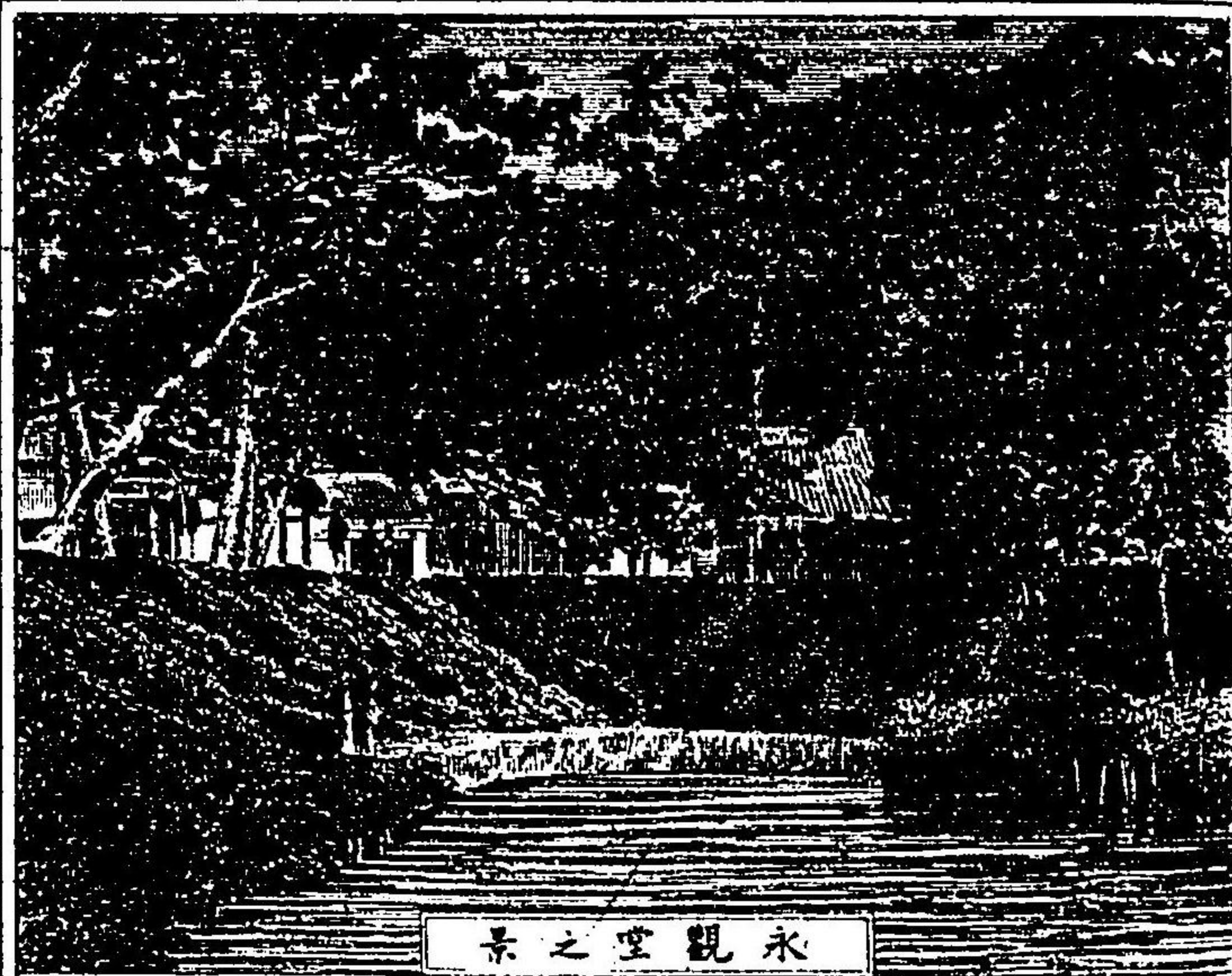
比叡山

筆紙に盡難し。○詩仙堂ハ一乗寺村石川太
山致は隠棲し居室の四面は額を列ね唐床
三十六氏の詩人の像を画き自ら詩賦を書
し樂なる遺蹟なり此より山端を経て八瀬
に出づ爰ハ比叡山の西麓にして西塔は踏
る初路あり
比叡山ハ山城近江に跨る大山にして桓武
天皇延暦七年傳教大師の開宗往昔ハ三千
坊ありと先づ初路を八瀬村より登る阪路
ハ屏立の如く曲折崎嶇として躋り難く此
は鋭意を鼓し漸々西塔に到れば老朽喬松
鬱々と掩擁し頗る冷氣を覺たり故に相輪
塔あり裝飾するは黄金を用ひて美觀なり



静光院

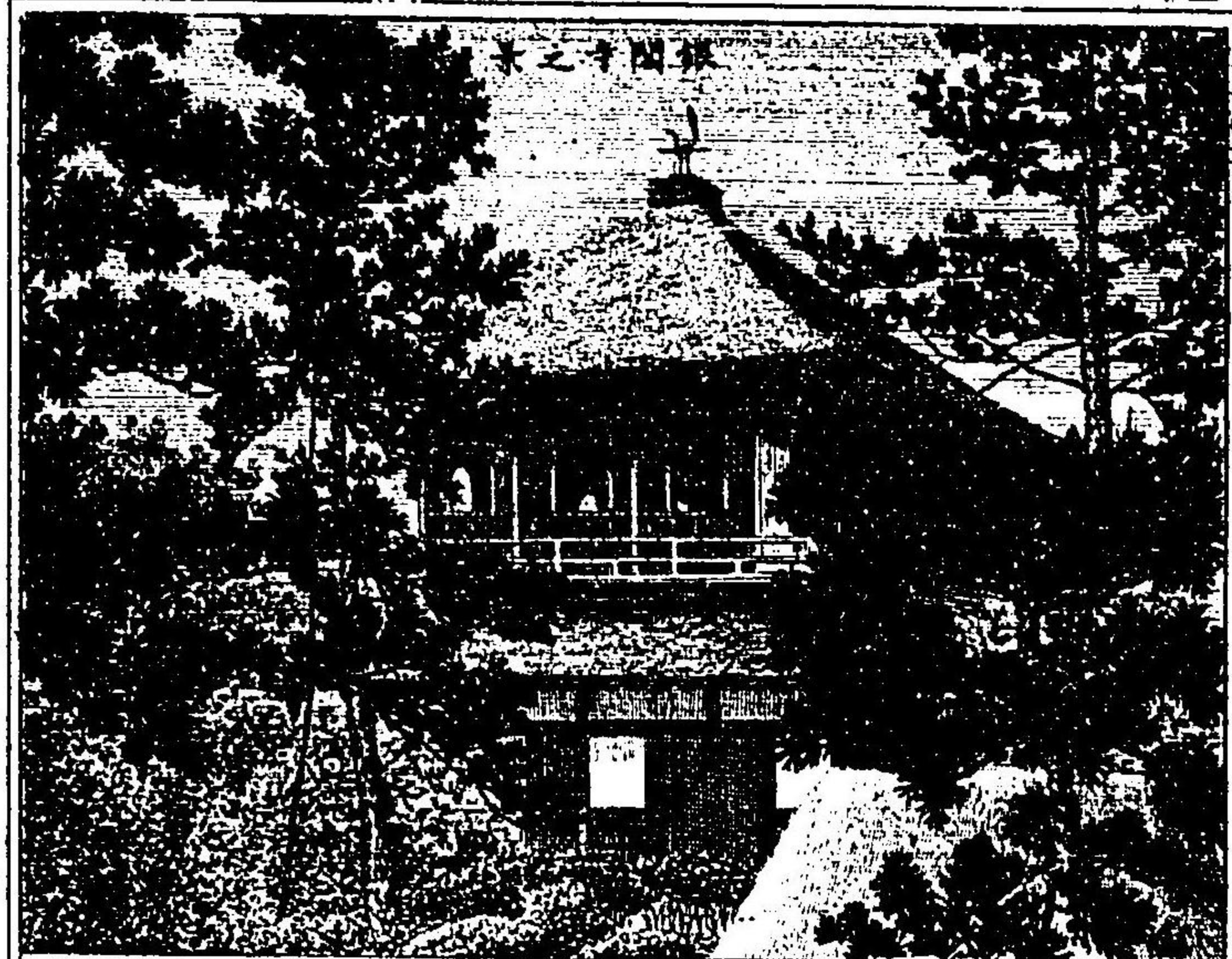
鞍馬寺ハ毘沙門天を祀る源平若九住せし
東光坊の舊跡あり僧正谷半若丸銀法を鎌
磨の趾とて岩石は刀劍痕は似たる磁裂の
石あり是より静原峠を越て大原郷に出づ
し寂光院ハ高倉天皇后建礼門院開居の地
此頃白川上皇御幸ありと云ふ
修摩院ハ後水尾天皇の離宮にして上下の
花苑あり下花苑の亭を晴月觀と云林泉ハ
櫻及び楓等々上の花苑は山に倚る亭を都
雲亭と謂林泉ハ較廣く此池を浴龍池と云
奇巖怪石を用て庭造り池中心に嶼あり茲は
止々齊或ハ窮遠軒の二亭あり橋梁を架せ
り池塘ハ翠松櫻花楓樹等々其清趣幽遠ハ



永観堂之景

又は音羽の瀑布其高さ二丈有餘とす此邊ハ華剛石を産出す里人の石工を營業とす銀閣寺ハ足利義政の別業として逝去の後又寺と成る苑裡ハ緑松園擁して二層の樓閣あり上層を心空殿とし下層を潮音閣と云苑池又ハ迎仙龍背の二橋を架設し池塘落照岡として踰躑多く銀沙灘又向月堂の一亭あり凡て庭造ハ奇石を集め其形状又曰て銘を附し茶道四時の觀をなす又後山を如意嶽と謂ふ此山腹又皇居又對し巨大の大字形の堀を成し列歳八月簾を照す初晝の一點九十二間あり

鹿谷ハ靈鑑寺の前を東又躋り致又淡合谷



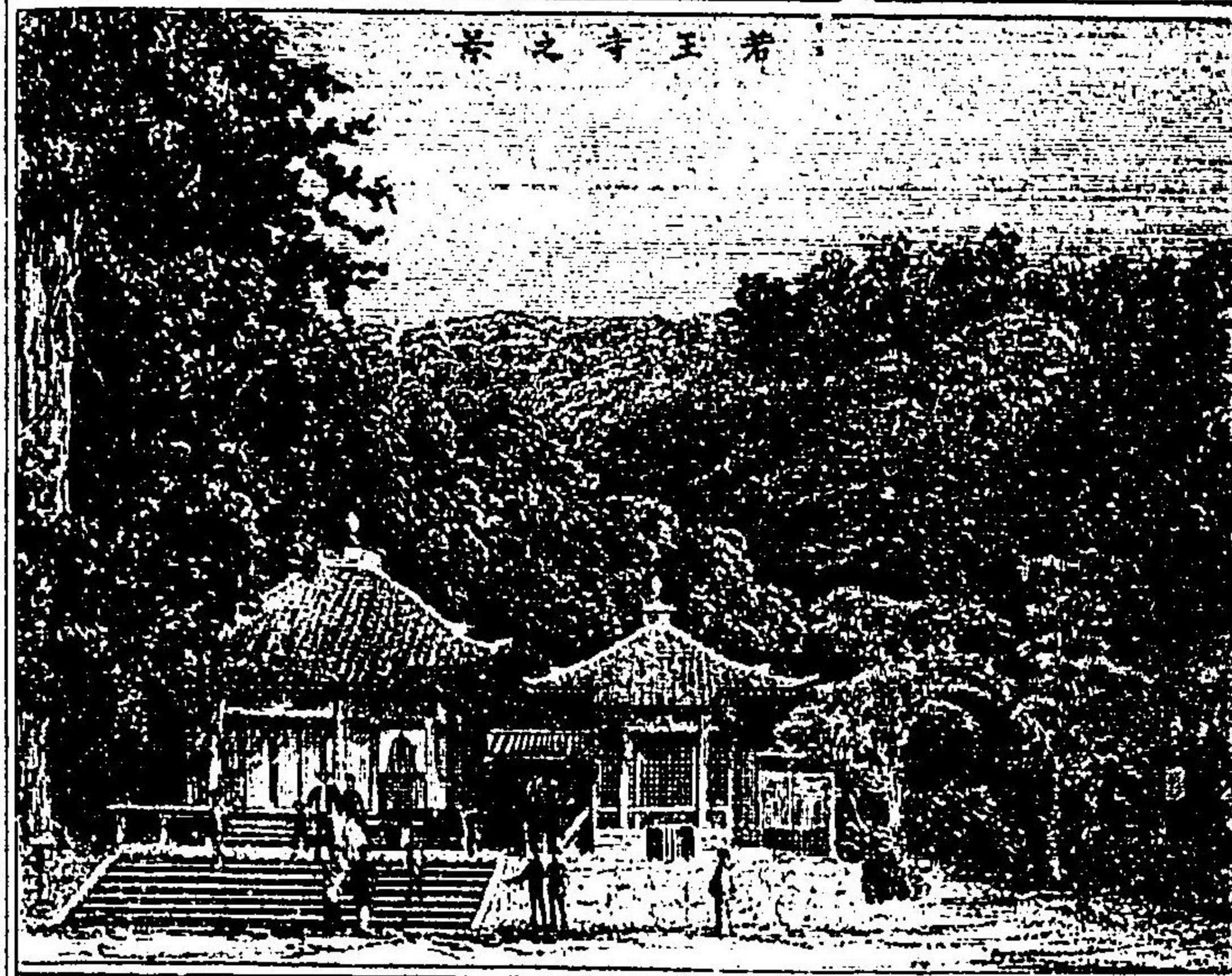
銀閣寺之景

横川ハ江州坂本日吉社又達る路あり此を奈良坂と云是より山嶺四明嶽又躋り躋を遠近又放てハ花洛の萬戸羅列して瑞霧淡相映帯し千岳萬峯此を園雅し遠く西海を瞰る諸東北ハ琵琶湖を一向又觀る青靄綠又異ならず竹生嶋及び沖嶋ハ湖上又浮瀛松黒烟を吐て去來し多少の漁船ハ蚊蠅の乱飛乎と疑ふ比良三上の山峰ハ露々湖外又時ち弥望の風光飽されど高山久く駐り居難く歸路を東塔又廻り中堂講堂及び戒壇堂を経て無動寺又到る此路頭ハ湖上を眺望して景我絶佳なり不動堂や辨財天の祠を過て雲母越坂又杖を曳き白川村



南禅寺之景

黒谷ハ浄土宗の本山として堂舎宏壯の巨刹として東山は三層の寶塔あり文珠佛を安す○真如堂の境地ハ櫻楓共賞觀あり吉田神樂岡齊場所の本社ハ八角構造の萱葺として日本大小の神祇三千余座を勧進し○百萬遍知恩時境地の櫻ハ美觀あり下加茂神社ハ官幣大社として御祖神玉依姫を祀る賽路鴨川荒神橋を虹架し喬木森々と河合神社あり櫻馬場ハ花候麗艶たり華表を経て樓門ハ其構造燦然として回廊を擁し社殿ハ整然美麗なり社東ハ亂森あり靈泉を涌出す此下流を御手洗川と云ふ河涯又沿て宴席軒を列べ板橋を架し盛夏



若王寺之景

とて往昔倭寛ガ山莊の地致ニ樓門の瀑布あり高さ九丈幅壹丈此山ハ峻嶽ニ隣接し白雲嶺頭ニ遊り人跡稀有の地なり若王寺熊野神社の山中ニ瀑布あり紀州那智の滝を模倣したり盛夏避暑或ハ紅楓の候雅俗此ニ遊觀集ふたり永觀堂ハ龜山帝離宮の地境池の林泉を常池と云此地紅楓ニ富其葉姿各異として色も亦種々ニ添る銘木あり秋季ハ錦繡を布し如く艶麗なり雅俗相觀の勝地とす南禅寺ハ往昔龜山法皇閑居の地六萬三千坪の巨刹なり堂舎宏壯山門の前ニ巨大の石燈一基あり近世癡狂院を方丈室ニ開く

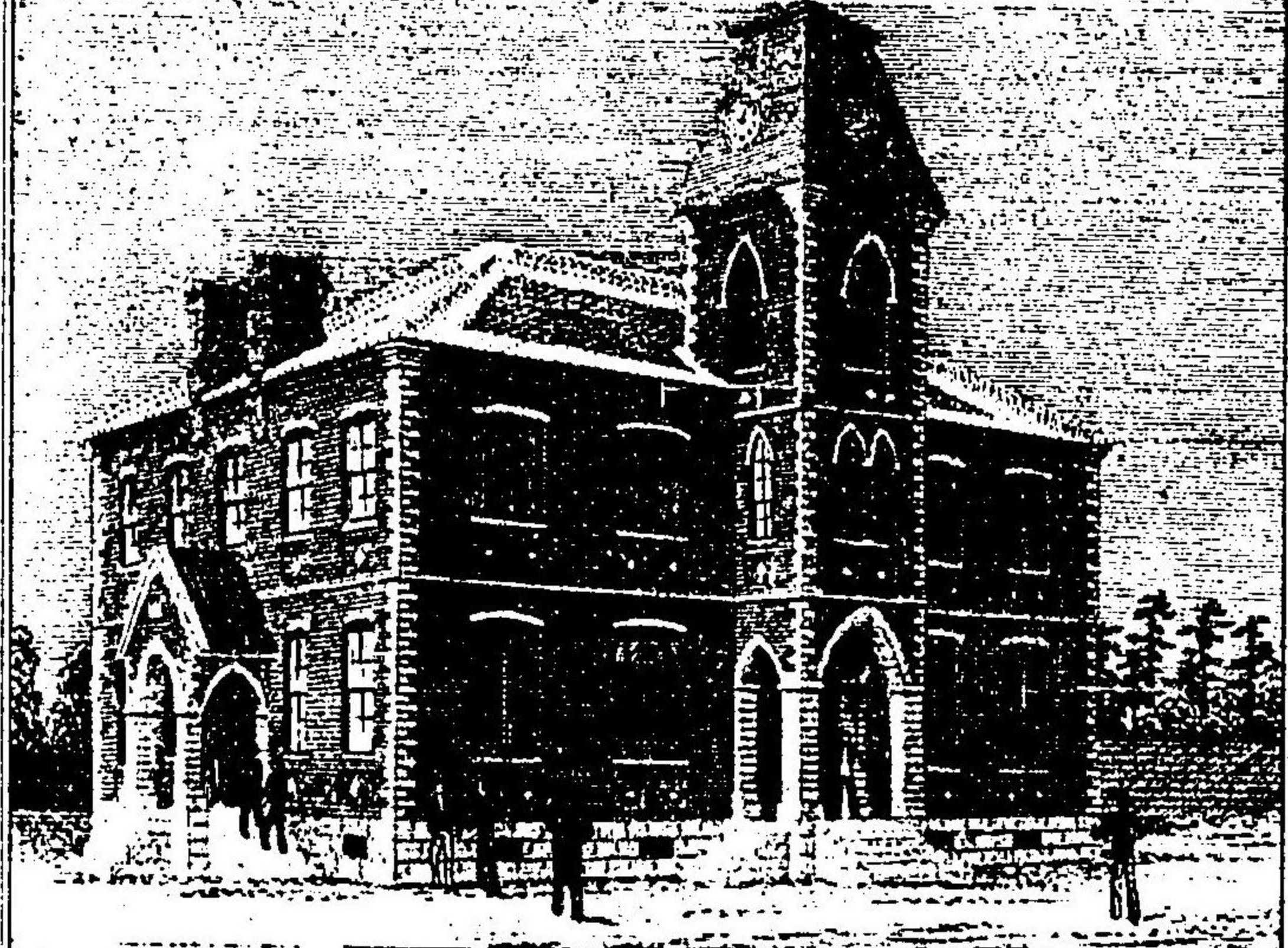
新島襄氏之像



郷に混びんとせしが幸よして一生を萬死の間は快楽するを得たりと雖も為めは大に麻痺の
 健康を害し學業上障礙を受けること極て甚しとせず然れども苟も學業の餘暇あれば必ず諸州
 を歴遊し山河を跋渉し務めて建國の規模を探り風土人情に通ずるを以て事とし到る處の大

て最も美麗なり今同校設立の主意書を友人に求め之を一讀するは此基礎として今
 日之結果ある應は堪へず聊か世を益するものなるを以て尤も全文を掲ぐべし
 幕政の末路世運傾危人心動亂の時又際し、夙に海外遊學の志を懐き脱藩して函館に趣き暫
 く時機を觀察してありしが元治元年六月十四
 日の夜半路に國禁を犯して米國の商船に搭し
 海上幾多の困苦を嘗め一年の星霜を経て米國
 に到着するを得たり爾來益々志を決し他日大
 に我邦の爲に竭すことあらんと欲し遂にアム
 ホルスト大學に入り日夜學業を淬勵せしが未
 だ幾年を経ざるに數々篤疾に罹り形骸空しく異

同窓社之圖



納涼の遊地とす其趣たるや四隣の大樹鬱
 蒼し炎熱の日と雖も涼風颯々樹間より来
 り灑然閑裕たり黄昏又及び少少點燈を照
 す予も此に遊び夏日の煩勞を忘れたり
 相國寺ハ禪宗五山の一足利義滿の建設境
 地ハ廣寛にして喬松鬱鬱し堂舎整然たり
 相國寺門前の一の學校あり同志社と云ふ
 是ぞ新島襄氏の設立にかゝる関西無二の
 私立學校なり數十棟の屋宇又は生徒充満
 し教ふるは内外の學科を以てす英語の如
 きは外國博士數人を以てし生徒の方正な
 るは基督教の本義としられたり附屬教會
 書籍館は近年の建築練瓦石の三層樓とし

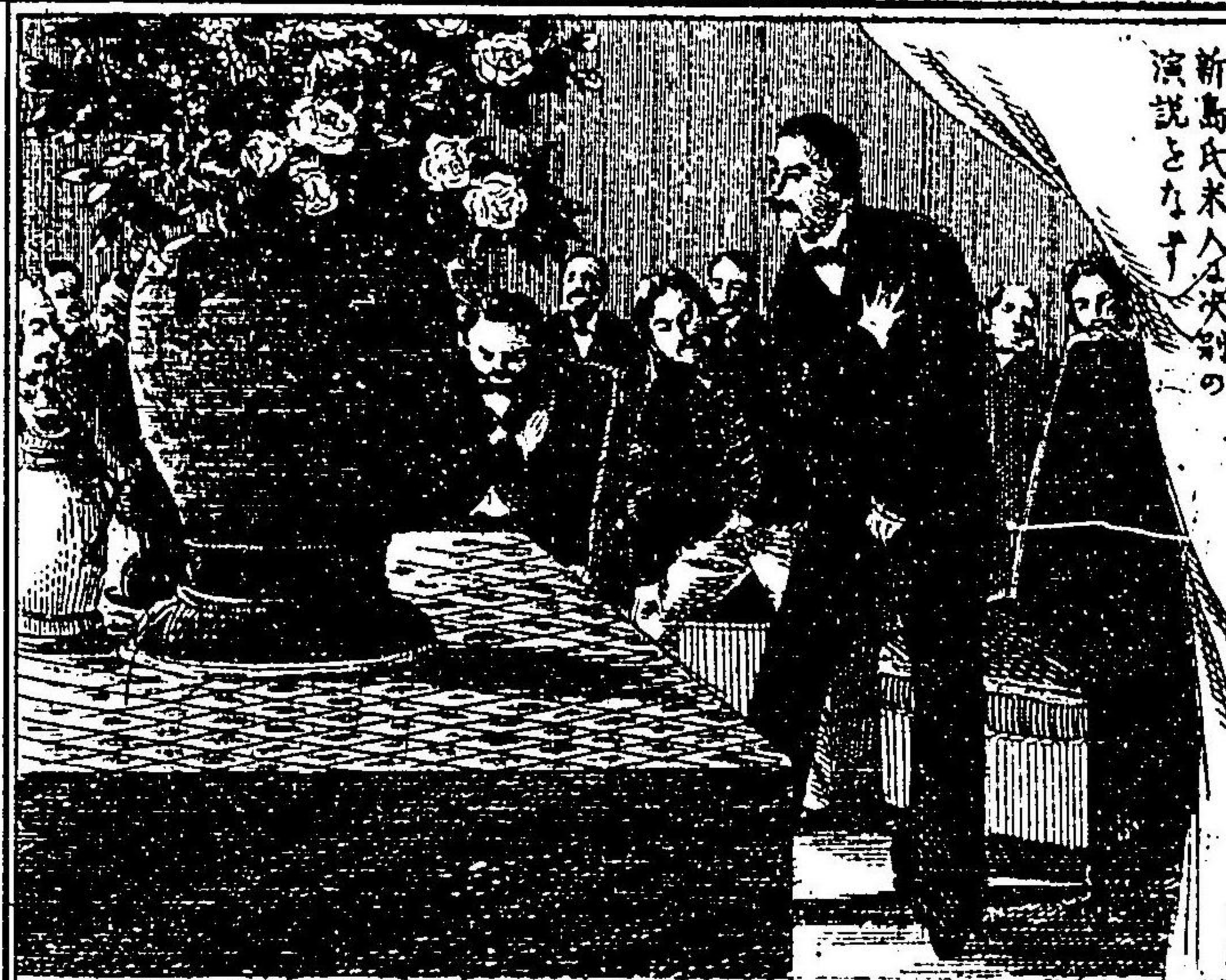
中小學より博物館書籍館盲啞院幼稚院其他百工技藝の講習所百種物産の製造所に至るまで概ね之を檢閲し或ハ諸州の學士有名の人物ニ接見し親ク其議論を聴クを得て大ニ悟る所あり以為らく蓋し北米開明の起源ハ學校ニ在リて其能ク制度文物を隆興せしめたる所以のものは要するニ教化の力ニ在リて其教化の力の如此偉大なる所以ハ教育の法其宜を得たるにあることなり是又於て身の秀才淺學なるをも顧みず自ら他年歸朝の日は必ず善美なる學校を起し教育を以て己ガ責任となさんことを誓ひたり

我明治の初年故岩倉特命全權大使の米國ニ航せられしや文部理事官田中不二磨君之ニ隨行し歐米諸國の教育法を檢閲せらる時正ニアンドウア邑ニ在て勤學せしが亦召れて理事官隨行の命を被ふる 敢て之を辭せず直ちニ旨を奉じて理事官と偕ニ北米中著名の大中小の學校を巡視し終て歐洲ニ赴き蘇格蘭英倫佛蘭士瑞西和蘭丁抹獨て魯西亞等の諸國を巡歴し學校の組織教育の規律を初とし凡テ事の學政ニ關する者ハ總て之を究察し其周到善美を盡せるを觀て感益々切なり惟らく抑々學校は歐洲の規明にして彼の燦爛として學術の清輝を放ち近世の所謂文明の大光を噴宇間發射せしもの主として之が恩澤ニ因らざるはなし而

して教化は文明の生命として教育は治安の母たることを悟り愈々歸朝の後ハ必ず一の大學を設立し誠實の教育を施し真正の教化を布き以て社會の安全を鞏固ならしめ以て我邦の運命を保ち以て東洋ニ文化の光を表彰せんことを望み進次ニも頼希し又敢て之を忘るゝことなかりし且又隨行ニ先だちては 泰なくも我邦大政府より特旨を以て曩ニ國禁を犯せし罪科を免除せられ加之數々登官の恩命を蒙りしが 敢て以て將來真正の開明文化を我邦ニ味さんことを望むの切なるより固辭して拜せず理事官と歐洲ニ別れ再び米國ニ航しアンドウア神學校ニ歸り勉學年を累ね遂ニ卒業の初志を達するを得たり

明治七年の秋 某の將ニ米國を辭し去らんとするや偶々碧山州ロトランド府ニ於て亞米利加傳道會社の大會議あり 某の友人として議會ニ與る者頗る多きニ因リ諸友 某を要し勸めて臨會せしめ且訣別の詞を需む 遂ニ會場ニ趣き演壇上米國三千有餘の聽衆紳士ニ見ヘ平素の宿望を開陳して曰く凡ソ何れの國を問はず苟も真正の文化を興隆せんと欲せば須らく人智を開發せざるべからず社會の安寧を保全せんと欲せば必ず真正の教育ニ依らざるべからず方今我邦日本ニ於てハ現ニ戊辰の變亂を経て舊來の陋習を破り封建の迷夢を醒して明治の

新島氏米人演説の演説となす



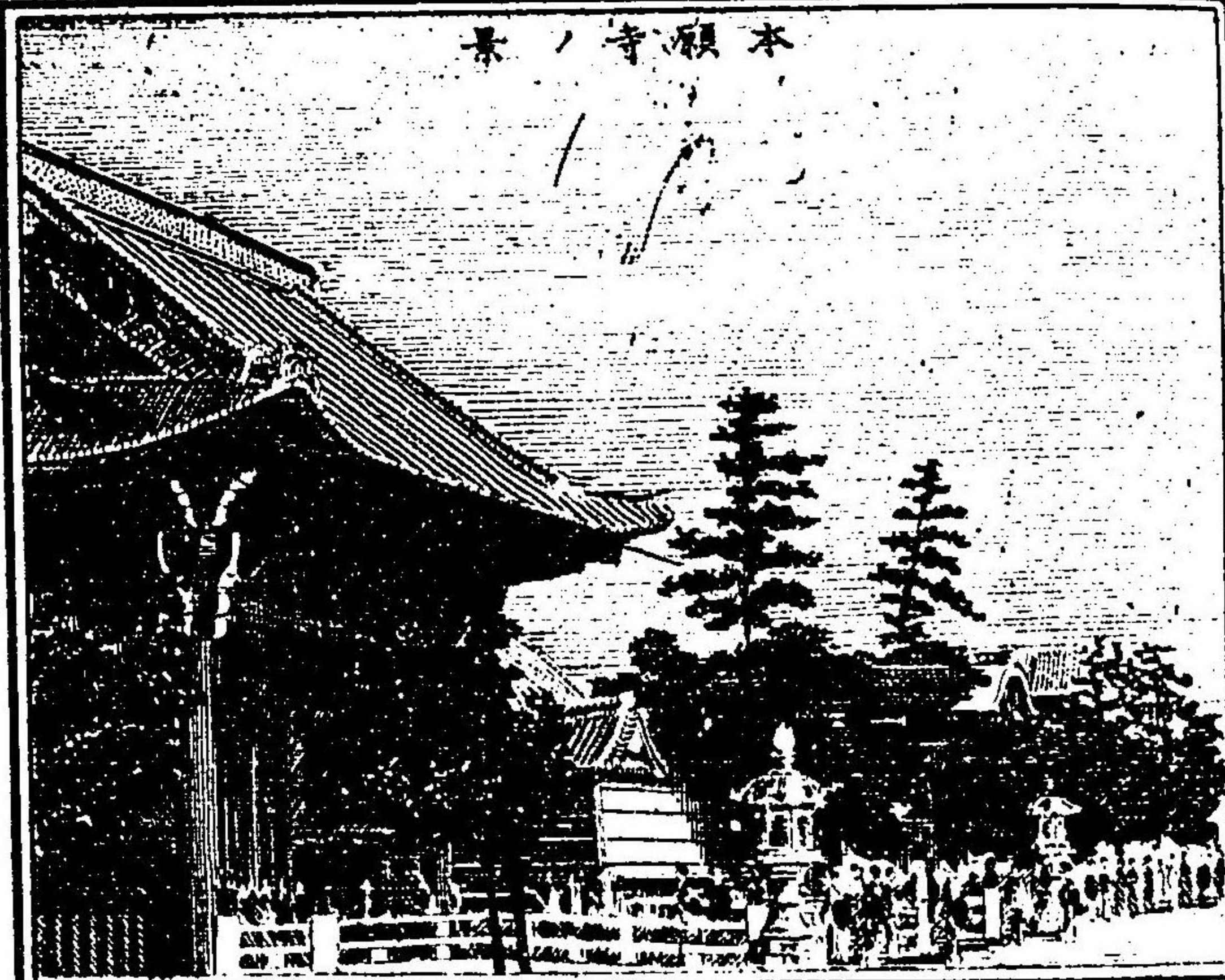
新政を行ふの際真正の教育を布き以て治國の大本を樹立し以て人智を開發し以て真正の文化を興隆せざる可らず回顧すれば今を去る十一年前眞の郷國ありしや當時の國勢日々に危きに傾するを觀て憂憤の心は堪はず慨然五大洲歴遊の念を發し人情難弁父母弟妹郷友を別れ一片訣別の辭もなく衣食住の計もなく幕府の大禁を犯して一身の窮困を顧みず愈々蹶で愈々奮ひ生命を天運に任せて成業を萬一二期し孤影飄蕭長風萬里の波濤を越へ遂に貴國に渡來せしも亦只真正の開明文化と真正の自由幸福とを我日本國に來さんことを祈るの丹心以外ならず蓋

し我邦同胞三十餘萬の安危禍福は政柄の運轉固より重大なりと雖も一は教化の烈徳其力を効し教育の方針其宜を得ると否と云ふ條はるゝと昭々乎として疑ふべきも非ず今や貴國紳士諸友と袖を分て恙なく國を歸るを得ば必ず一の大學を設立し之が光明を假りて我國運の進路を照し他日日本文化の爲に涓埃の報を爲す所あらんとす嗟呼滿場の聴衆よ兄弟よ眞の赤心寔は是の如し誰か我が心情を洞察し其素志を翼賛する者ある乎哉と且つ懐じ且問ひ憐愍悲憤の餘り不覺教行の感涙を壇上より注ぎ情溢れ胸塞り言辭を中止する其幾回なるを知らず何ぞ圖らん聴衆中忽ち人あり背後より直立ち揚言して曰く新島氏よ子今氏が設立せんとする學校の爲に一千弗を寄附すべしと是なん華盛頓府の貴紳醫學博士パーカ氏にてありし其言未だ畢らざるに碧山州前府知事ヘージ氏も亦起て一千弗寄附するの約を爲せり之は又次ぎ五百弗二百弗二百一十或は五十三十弗贈與の約ありて靜肅なる場中忽然として歡呼の聲沸くが如し既にして懇懇又良朋諸士の好意を謝し離別を告げ將に演壇を下らんとする時一老農夫あり瘦身極瘠を纏ひ徐々進下其の前より驟然止まらず懐中より金二弗を出し黙然涙を垂て曰く陋い碧山州北の寒貧農夫なり此二弗は今日陋が歸路車に乗んとして携へし所な



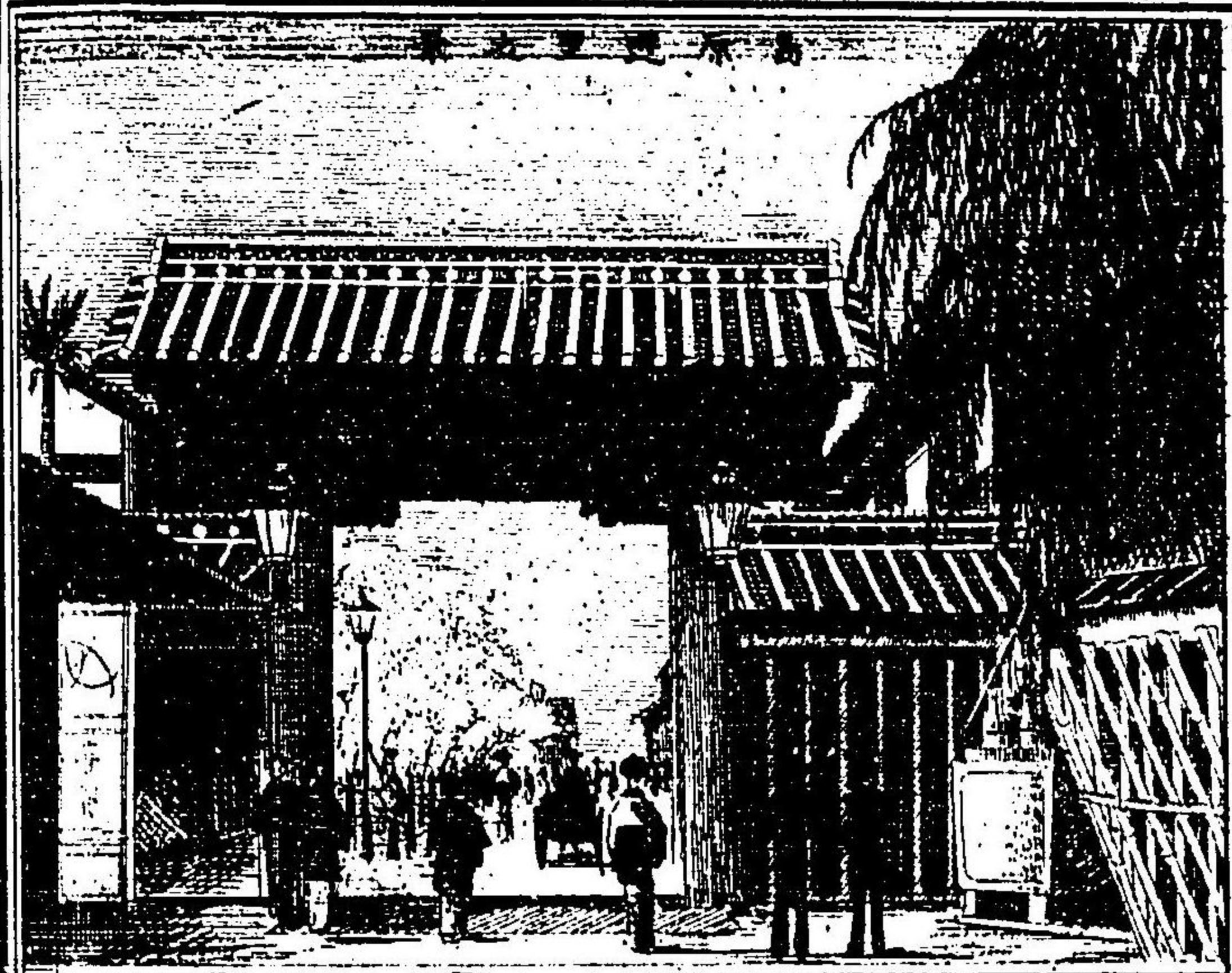
り然れども今子が演説を聞き深く子が愛國の赤心に感激せられ自ら禁ずる能はず假令陋翁老たりと雖も兩足尚能く徒步して家歸るに堪ずれば固より僅少敷ふるに足らざるも子が他日建設する大學費用の一端は供するあらは陋の喜ぶ何ものか之は過なやと已として會致し、亦ロトランド府を出て行くも未だ一里ならざる時忽ち背後より對を呼ぶ者あり顧みて之を視れば一の老婦なり急ぎ近づき絮々語つて曰く、近村の一寡婦として貧殊に甚し然れども教育の一筆は於ては聊か子が素志を助けんとするの意あり、今囊中僅に有る所の金二帛を呈

す然るに最會場は於て敢て之を言ひざりしは誠其輕少なるを愧て而已寡婦の微志幸に領收あれよと言畢て泣く、寡婦益々米人が我邦を愛するの熱篤なるを思ひ感喜之を受け曾て友人に語つて曰く、ロトランド府集會は於て最も寡婦が衷情を感動せしめたる者は彼の老農夫と老寡婦との寄附金とでありしと、其後四方有志者の贈る所陸續集集し來り、寡婦が宿志を達せんとするの基本畧定るに至れり既にして纜を糸港に解き明治七年の末始て本邦に歸着し日夜學校設立の計畫してありしが八年一月大坂に至るや偶々故内閣顧問水戸孝允公の在坂せるに真正教育の要理を以てし併せて平生の宿望を吐露せしむ公は深く之を稱賛せられ加ふるに公は曾て在米の日より寡婦と相識るを以て専ら政府の間を周旋し、寡婦が志を貫徹するに務め賜へり、乃ち地を京都とし前文部大輔田中不二磨君前京都府知事植村正直君の贊助を得、遂に山本覺馬氏と結社し明治八年十一月廿九日私塾開業の公許を得て直に英學校を開設したり、同十六年二月更に社員三名を増し敷地壹萬一千八百有餘坪校舍十棟書籍一千四百有餘卷及び本校に附屬する器械財産は本社に所有且つ維持する處たり、是即ち今の我同志社英學校の設立せし始末の大略なり



景ノ寺願本

五層の寶塔ハ林間ニ聳たり大師堂ハ晴昔
大内裏の鴻爐館なり僧空海ニ賜り寺とす
境地の東ニ池あり瓢池云杜若多ク花時漢
紫雪白と艶麗なり又蓮花の池あり都人茲
ニ三夏幽趣を賞観すとかや
本願寺ハ境城二萬二千坪真宗の本山とし
て親鸞聖人の開基大門ハ堀川の流ニ臨で
時ち茲ニ石橋を架し堂舎整然宏壯なる巨
利なり賽入常ニ絡繹として絶ず茲ニ飛雲
閣あり豊臣秀吉の好造閣上画ハ元信之筆
蹟清泉あり滄浪池と云龍背橋を架し池塘
を隔月坡と謂又櫻林を踏花場とし梅園を
艶雪林と號く茶亭を青蓮謝或ハ燒花亭と



京都府ハ下立賣五丁目洋風の建築巍々整
然として宏壯なり○二條の城ハ慶長七年
徳川家康の築造する処明治十九年離宮と
ナ神泉苑社ハ池中の嶼ニあり小野小町和
歌を詠じ降雨を祈しと謂傳ふ○壬生寺毎
歳四月大念佛の狂言ハ一種の風致あり
六角堂の観音ハ聖徳太子の開基として都
下第一の古刹なり○本國寺ハ日蓮宗の本
山として境地廣く加藤清正の庵あり
島原の遊里ハ足利の代ニ始り今ニ存在す
東寺ハ教王護國寺と云境地廣寛喬松老松
蒼々として南ニ面するを羅生門と云金堂
ハ豊臣秀頼の再建東山大佛殿の模形あり



云幽艶の雅趣を備たり寺後高麗あり大
 教授と云
 東本願寺地域ハ高麗八千六百餘坪親鸞聖
 人十一世聖人嫡子教如聖人徳川家康の命
 以て慶長年中創建維新の際兵燹ニ罹り
 方今再建中なり
 停車場ハ七條通馬九大厦高樓煉化石の構
 造にして花樹を培植し林泉の風致を成し
 此邊ハ肉樓茶肆榻を列べ路頭ハ人車較撃
 雜沓たり鐵路ハ東近江大津より西ハ攝州
 神戸の海岸ニ達して敷設し漁笛の聲ハ時
 々ニ發すなり夫より乗車して比叡の高
 根や東山を後ニ成し梅小路を横通し東寺

の塔は林頭ニ聳へ北ハ御室の山を遠見し
 柱の長橋奥々と渡り向日町の停車場過れ

ば山裾の竹藪の路長々と山城攝津の國境
 南又男山鳩ヶ峯を眺望し北又ハ天王山聳
 へ半腰又宝寺の三層塔や東西の觀音寺眼
 前ニ透り山崎停車場離宮及び好喜庵ハ茲
 又連り無瀬川を渡り廣瀬東大寺左の郊野
 又往昔櫻井仄の趾とて楠公が正行又訣別
 の碑あり神南の森を通過して上牧本證寺
 右ニ梶原一乗寺七瀬川を越へ松原を経て
 高槻停車場は城下を南ニ視て茨川及び如
 是川を越へ富田を南ニ見總持寺の東を西
 へ向き茨木停車場茨木川を渡り吹田停車

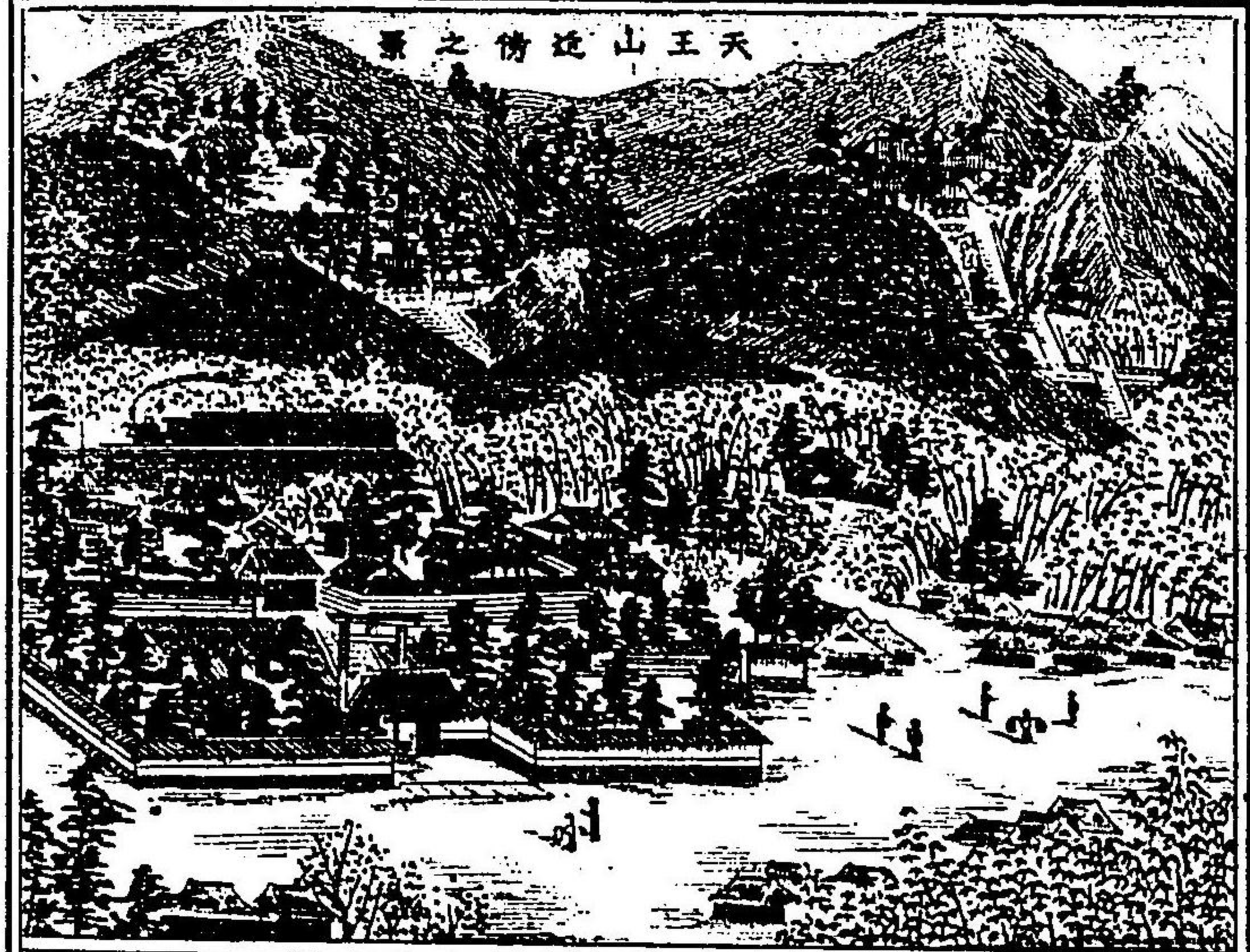
場神崎川や中津川を渡り大阪停車場ニ到
 着す

山城國物産

- 砥石ハ愛宕山○準剛石ハ白川村○大蘿
- 藤聖護院村○大蕪菁○水菜○芋○慈姑等
- ハ近村○蓴菜○藍○芍薬○栗○枳○竹○
- 筍○松葉○鯉○鰯○年魚
- 織物○繡物○漆物○絲條類○針○金銀
- 銅錫器○金銀箔○漆器○陶器○紙○石灰
- 白粉○光紅○土偶人○扇○團扇

驛路

東海道 京都 三條大橋 近江大津 ●大阪道
 京都 三條大橋 淀川橋本 河内牧方 或ハ鳥



羽を遊渡し至る三里幸●山崎街道 京十
 向日町三山崎七攝州茨川●大和路 京十
 伏見三長池十王水三木津二大和奈良 合計
 伊賀越 京 伏見 長池 王水 木津 十
 加茂郷北村三北笠置三北大河原三伊賀
 島ヶ原合計 十六里
 大津別路 京八瀬十小出石村十八近江掾
 生四里十
 近江路龍華越 京八瀬十小出石村十八近
 江掾生 合計里
 丹波路 京三櫻原三丹波龜岡 合計五里
 丹後路長阪越 京十枚坂三西河内三丹波
 山國 六里
 三手

攝津國之部

本州ハ畿内五國の一として東ハ河内ニ隣り西ハ播磨ニ接し南ハ和泉及び内海ニ頻
 面す北ハ山城丹波ニ到る此國ノ廣狹ハ東西九ノ十二里餘南北ハ九里余なり其地勢
 ハ北部ニ山嶺連り西ニ赴クニ隨ヒ漸々險峻となり島上郡本山能勢郡尾山等の山
 岳高く國境ニ聳ヘ東南ハ平野闊け土地概ね肥沃なり氣候ハ溫和ニ穀菜果物又富み
 且つ漁網ノ利少からず而して十二郡あり東成 西成 住吉 島下 島上 豊島
 能勢ノ七郡ハ大阪府ノ管轄 河邊 武庫 菟原 八郡 有馬ノ五郡ハ兵庫縣ニ属
 す楮テ名邑ハ 天王寺 難波 平野 住吉 高槻 富田 茨木 吹田 池田 尼
 ケ崎 伊丹 湯山 三田等なり本國ノ人口ハ七十六萬四千三百有余人なり
 國中水脈甚だ多し其尤も大なるものを淀川と云山城より來り河内ノ國境ニ沿テ流
 れ江口ニ到り西ニ分るを神崎川と尼ヶ崎ニ到り海ニ入る本流ハ南ニ赴キ長柄ニ來
 り西ニ分派するを中津川と云其下流を傳法川と成り茲ニ分流するを正蓮寺川と謂
 ふ本流尚西ニ繞り大阪市街を貫流して内海ニ注ぎ落るなり

徳武帝之圖



抑心仁徳帝ハ應神天皇の第五太子なり父
 帝此太子ハ仁徳の寛仁敷才を愛し即位を遺詔
 し崩御し給ふ後三歳兄弟互に即位謀議の
 志厚く位を空す故に庶民貢獻の道を失ひ
 憊死す此は大鶴鶴尊自害し幾り玉へ雖
 英道稚郎子尚三皆位又即王はず書博士
 王仁諫奏して即位を催進し和歌を咏ず
 浪も津又突やほむ冬もり入夜素(と)ほむの花
 帝因て即位し節檢を專とし王ふ一日高臺
 に登り民戸炊烟の乏く衰微の景況を察
 あつて課税を許し王ふ事三歳帝再び臺に
 躡り炊煙の隆盛を眺み自歡の味吟あり
 高臺に登りてこれ煙を民のほむはほむけり

大阪之記

大阪は舊と浪速と唱へ應神天皇に關け始め仁徳帝に和し豊臣の代より今の繁盛と
 なる市街ハ東成西成の二郡に跨り東西の直徑一里余南北の廣さ三十三町此を東西
 南北の四區又大別す東區は丘陵を上町と云鎮臺本管を備へ又繁華の地を松場と云
 本町通及び心齋橋筋は豪商の家連り高麗橋は東區に架し諸方の行程此に基たり
 西區は北土佐堀より江戸堀京町堀阿波堀立賣堀長堀及び堀江道頓堀江の子島松島
 富島二巨の地府廳を設置し外國人居留地西岸に對せり南區は島之内道頓堀及び難
 波新地に到る部内は熱鬧の地にして五戸の演戲場遊里は所々あり又停車場あり
 て線路を泉州に達す北區は川崎に造幣局を構造し又繁華の地を天満及び堂島と云
 ふ西に波止場あり諸國入津の船泊帆檣常々林立し旅客雜沓す海陸輻輳の地百貨輸
 出日々盛なり人民富庶中國の樞紐なり風俗は優柔なれど頗る奢靡を流れたり
 市中の溝渠ハ縱横し疏通し運輸便なり就中東堀及び西横堀道頓堀等は最も長流
 として木津川に再會し海に注ぎ出るなり

大阪之記

大阪は舊と浪速と唱へ應神天皇と開け始め仁徳帝と和し豊臣の代より今の繁盛と
なる市街は東成西成の二郡に跨り東西の直徑一里余南北の廣さ三十三町此を東西
南北の四區と大別す東區は丘陵を上町と云鎮座本堂を備へ又繁華の地を船場と云
本町通及び心齋橋筋は豪商の家連り高麗橋は東堀又架し諸方の行程此に基たり
西區は北土佐堀より江戸堀京町堀阿波堀立賣堀長堀及び堀江道頓堀江の子島松島
富島又豆の地府廳を設置し外國人居留地西岸又對せり南區は島之内道頓堀及び難
波新地と到る部内は熱鬧の地として五戸の演戲場遊里は所々あり又停車場あり
て線路を泉州と達す北區は川崎と造幣局を構造し又繁華の地を天満及び堂島と云
ふ西又波止場あり諸國入津の船泊帆橋常と林立し旅客雜沓す海陸輻輳の地百貨輸
出日々盛又人民富庶中國の樞紐たり風俗は優柔なれど頗る奢靡と流れたり
市中の溝渠は縱横と疏通し運輸又便なり就中東堀及び西横堀道頓堀等は最も長流
又して木津川と再會し海と注ぎ出るなり

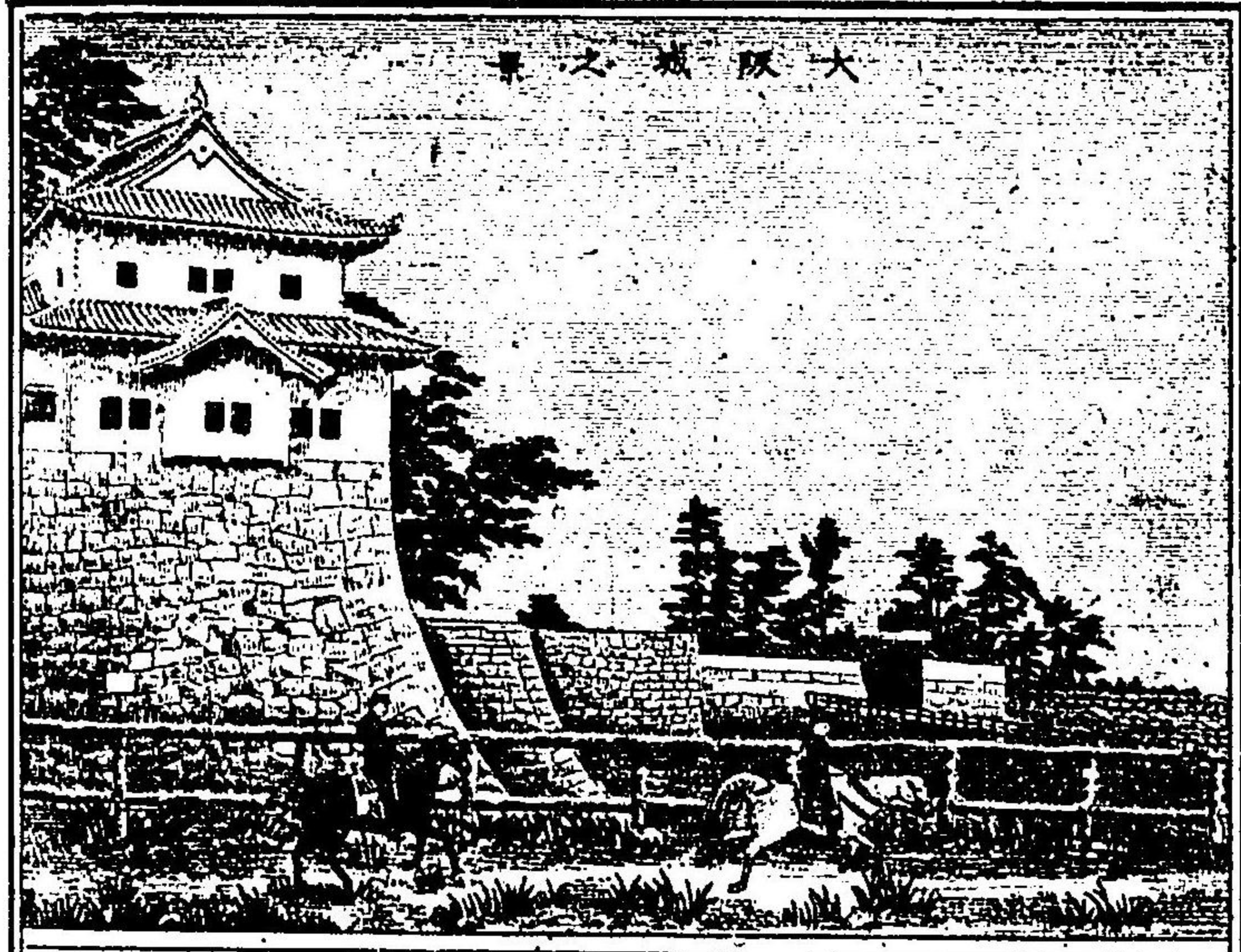
仁徳皇帝之圖



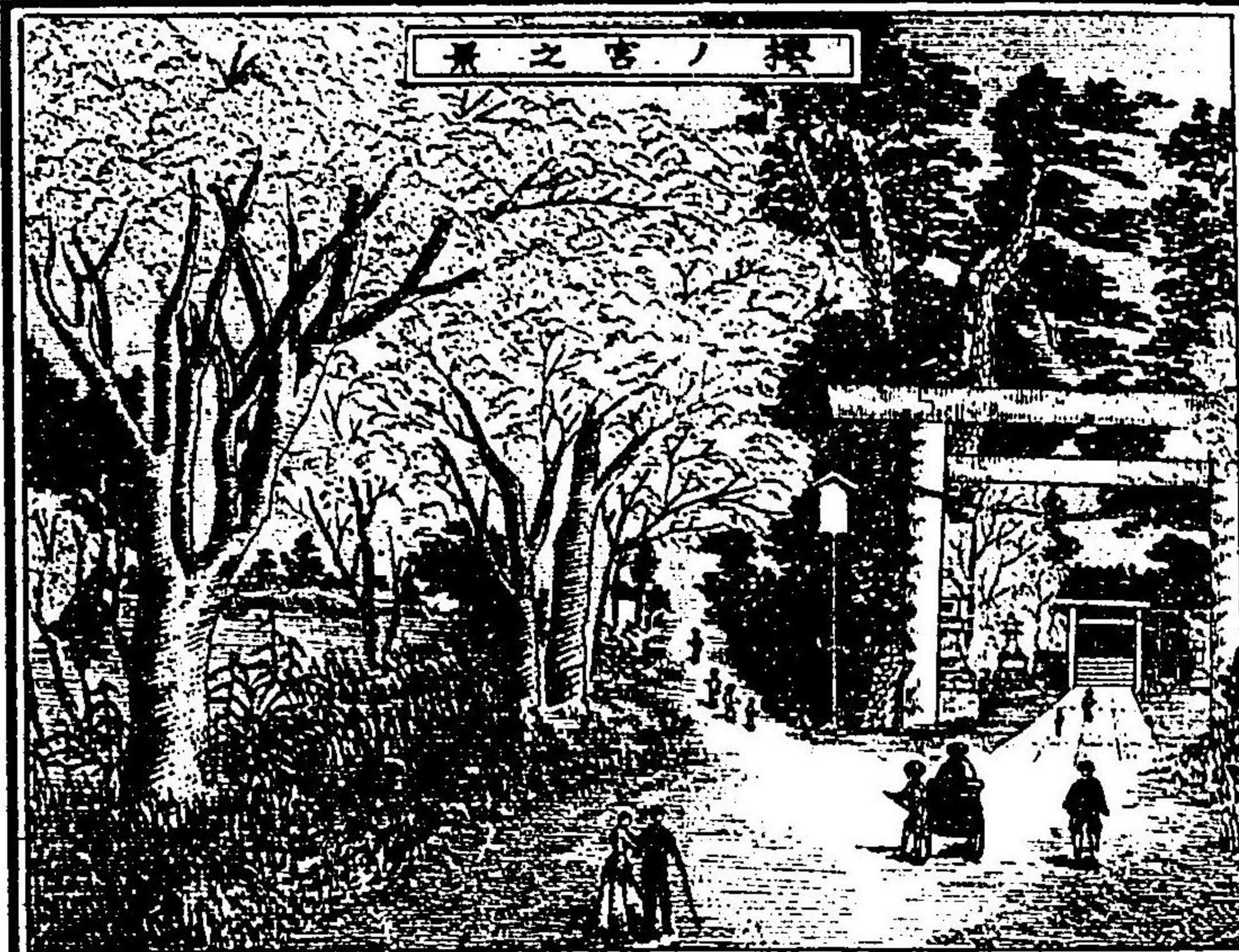
抑仁徳帝は應神天皇の第五太子なり父
帝此太子の寛仁敏才を愛し即位を遺詔
し崩御し給ふ後三歳兄弟互に即位謀議の
志厚く位を空す故に庶民貢獻の道を失ひ
慷慨す此又大鶴鶴尊子自害し幾り玉へ雖
菟道稚郎子尚三皆位又即玉はす書博士
王仁諫奏して即位を催進し和歌を咏す
浪を津又吹やほむ冬も入り今残春と吹やほむの花
帝因て即位し節儉を専とし王ふ一日高臺
又登り民戸炊烟の乏く衰微の景況を觀察
あつて課税を許し王ふ車三歳帝再び臺に
躋て炊煙の隆盛を眺み自歡の咏吟あり
高臺に登りてこれ煙たし民のかほと後ひけり



三大鐵橋ハ市街の大河ニ架設せり各長さ百有廿間○天満橋は中間ニ横路を開きて備前島京橋及び櫻宮ニ到る路を通じたり○天神橋は南の濱を八軒家と守り淀川瀧船の着岸として時々漁笛を吹き京都通の乗客を喚び北の濱は野菜の市あり日々曉天より熱開の地○難波橋ハ中之島の洲岸を隔て虹架せり此地公園として豊國神社麗然と社側ニ洗心自由の京亭水又臨下時ち社地櫻樹多し楊柳嫩枝垂々と風又漂ひ社昔ニ明治紀念碑高く聳へたり此薩肥暴動防禦の爲戦死の靈魂を吊祀す天満宮の社は社麗く賽人常ニ多し賑ハリ

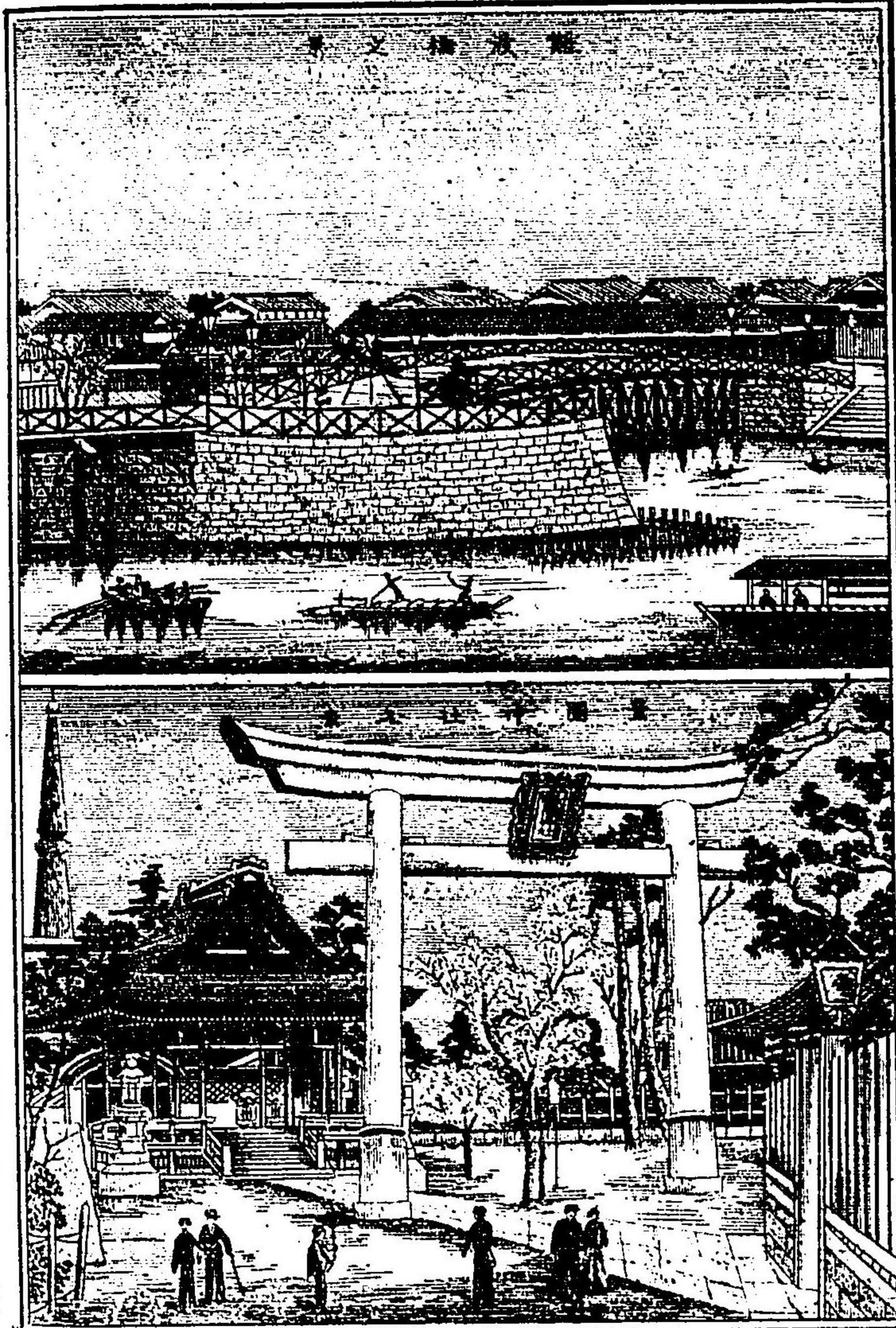


大阪城の概畧天正十年豊臣秀吉逆光秀を山崎ニ討て致し城郭を築く周圍一里余石壘高く遼深ふして大手京橋青屋王造の四門を開き宏壯堅固なる内國第一等の城郭ニ七層の天守を構築せしが元和の兵燹ニ罹り今其基礎を殘す豊臣武威盛ニ終ニ朝鮮を伐ち慶長十二年秀吉薨す元和元年徳川家康兵を起し當城ニ攻撃す豊臣の家臣軍儀利を失ひ名将盡く戦死し秀頼亡ぶ徳川故城を修繕し城代を置きしが明治維新大阪を府と爲し鎮臺第四木管を備へ精兵常ニ統率し講武練兵場砲兵工廠の設けありて製作日々隆盛なり



櫻宮之景

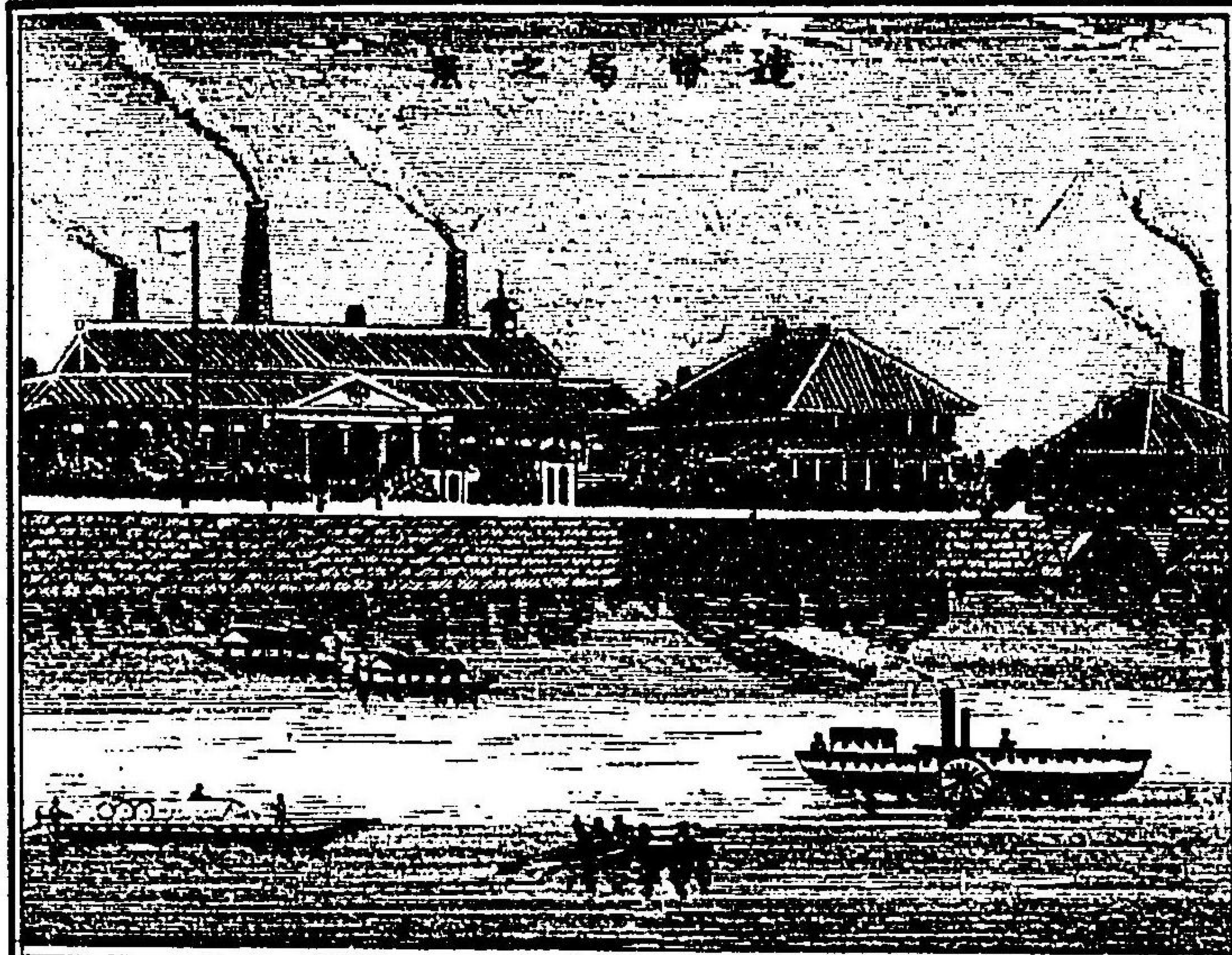
大融寺ハ真言宗の古刹にして境地清麗也
 櫻宮ハ中野村ニ在リ社頭ハ淀川の東塘又
 して西岸造幣局ニ對シ一族の古松社を擁
 し社側ハ東樓宴席軒を連ねたり此邊は往
 昔より櫻花の名勝なり去明治十八年季夏
 洪水の為堤防大ニ崩壞し補築舊堤ニ倍し
 頗る清潔南北十有餘町櫻樹數株を補栽し
 春風和煦花輝々と咲き堤頭恰も錦繡を敷
 如く清流又映じ其眺絶佳焉少の遊客馳を
 携ふあり或は樓船を浮べ興するあり各自
 詠樂を恣にする實ニ泰平の恩澤と知るべし
 母恩寺ハ櫻祠の北蓮池あり季夏花清麗又
 馨し騷人雅客其幽艶を賞觀す



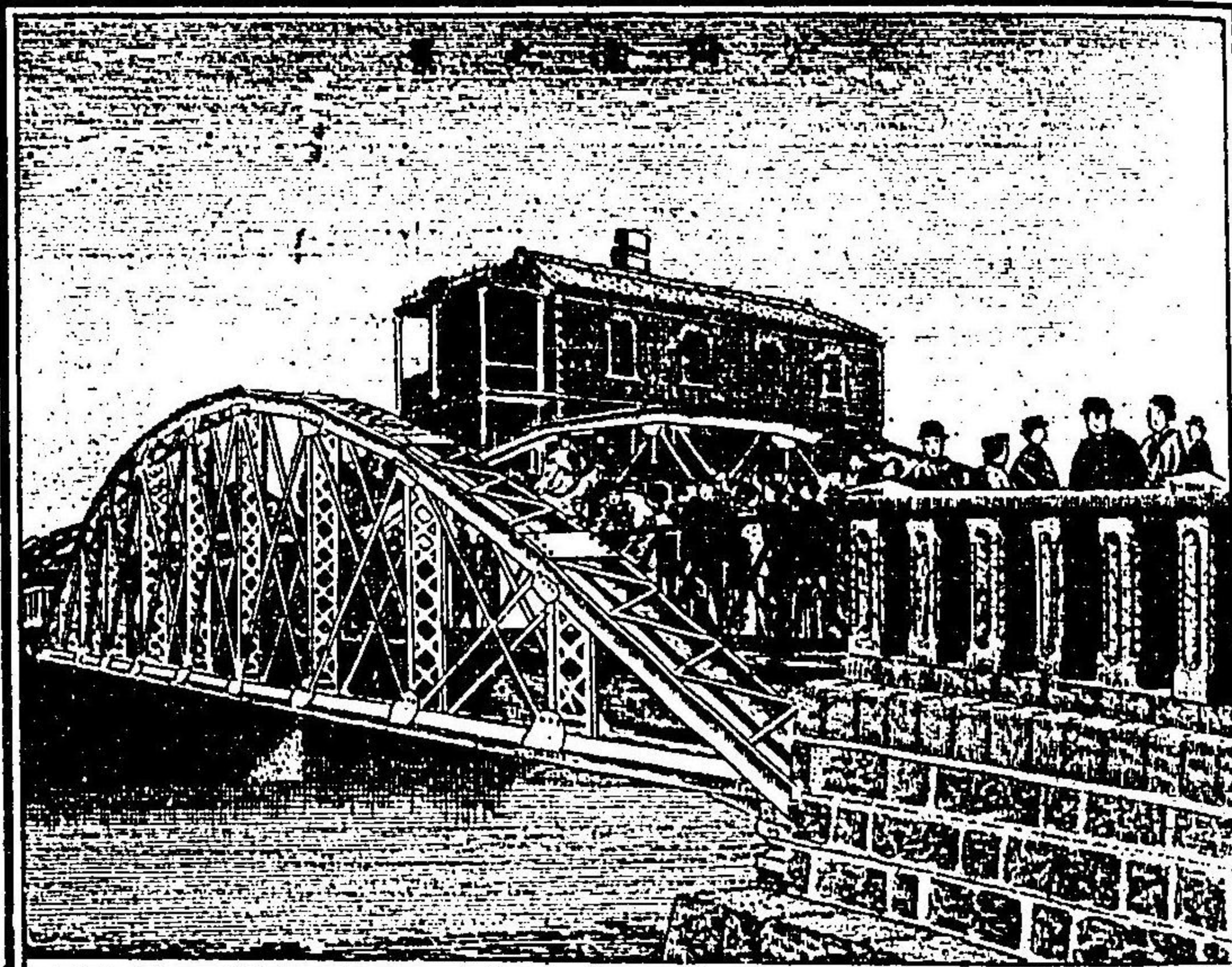


菜花は北郊より長柄豊崎ハ崎昔離宮の
 舊趾十三の邊より浦江大仁福島曾根崎及
 三番邑より亘るの地一圓の菜園として三番
 三番邑あり此樓上の眺望ハ恰も黄金を敷
 む似て花咲馨く薫風席を満ち中津川又浮
 む白帆ハ點々花中又遮る光景亮筆に記し
 難し近世鐵路ハ際し離亭を設く其構造車
 輪を梁とし車軸を柱とす故に車茶舎と云
 鶴の家牡丹亭秋の屋と日を追て増加し方
 今廿余亭と成る春の花秋の月と四時野遊
 の地にして頗る賑ひたり
 浦江歡喜堂は菜花に飽き杜若蓮花より且し
 野田春日社は紫藤寺林中の古樹に纏ひ

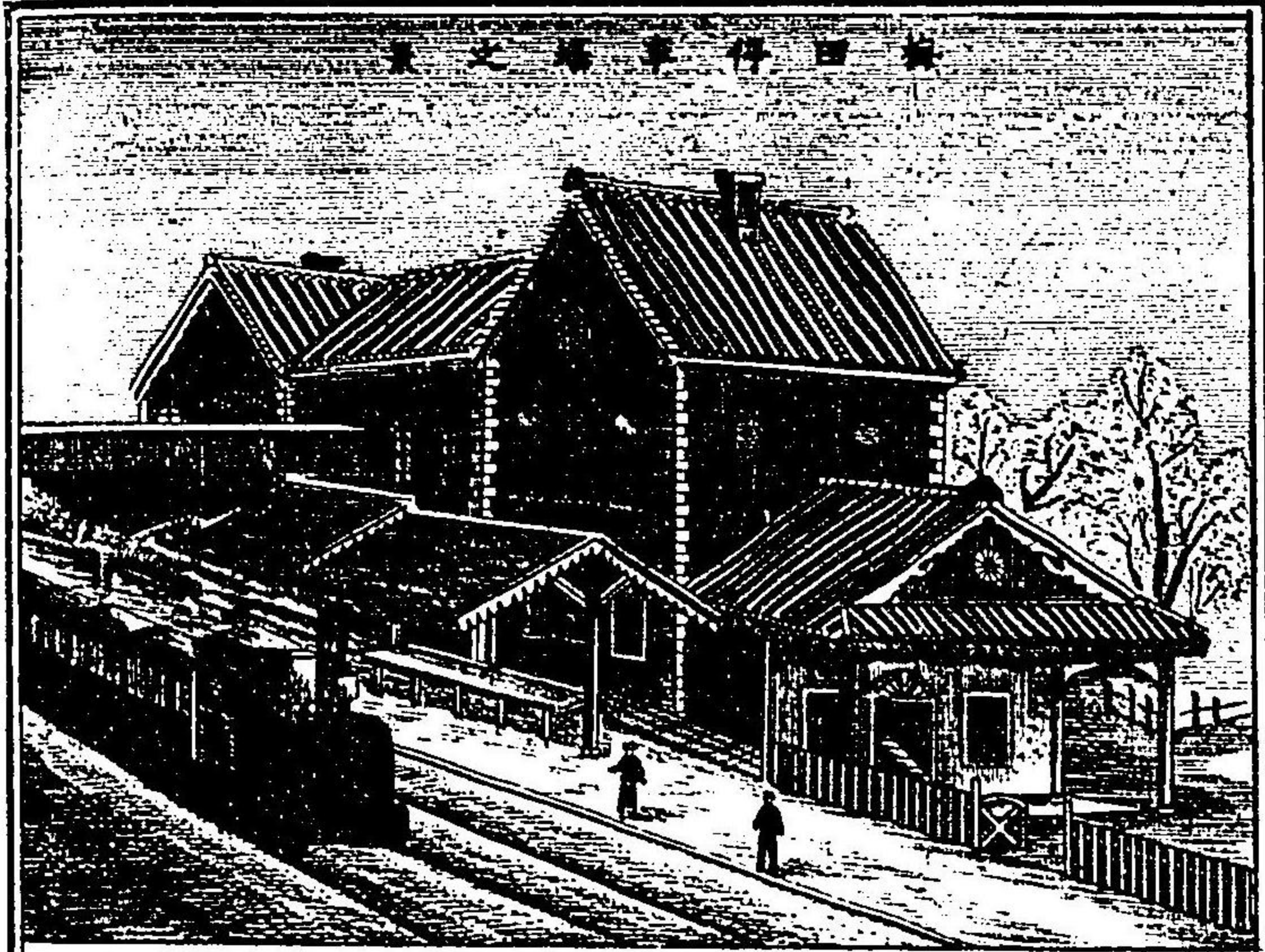
日本卷之一



造幣局ハ川崎に在東櫻祠に對し石壁高く
 淀川の清流に臨み南北二十餘町石を砌し
 鉄柵を築繞し洋風の大厦軒を列らね數個
 の烟筒天を攀て黒煙を噴き金銀貨幣の製
 造日々盛に樓閣客殿は巨麗奇巧を極め又
 林泉は蒼々として画が如く夜陰は多少の
 瓦斯燈を照して白日の如く内國第一の構
 造春風溫和の候柵外の櫻花爛熳と咲く列
 旅三日衆庶の縦覽を免れたり
 鶴崎寺ハ絲櫻の大樹或ハ黄色藍葩の櫻あり
 寺境の邊は堀川の樋の口にして櫻木号
 し閑花の頃は錦を晒す如く道芝青々と緑
 を布き雅俗子娘を随ハ路經漫遊の地なり



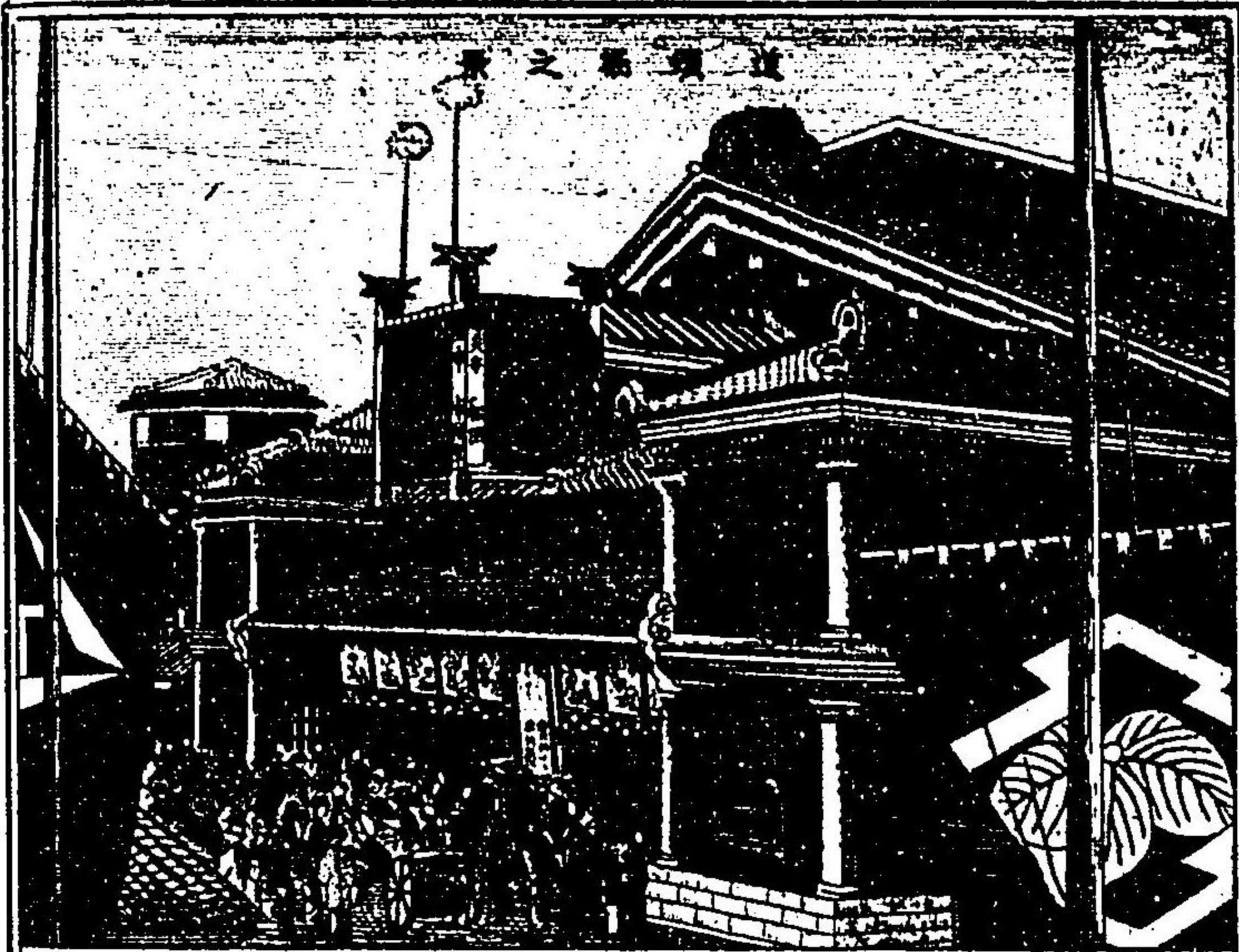
心齋橋通は北平野町より南心齋橋を越て
 戎橋道頭堀濱に亘るの地波速第一等繁花
 の地人車往復鼓撃喧し人行絡繹如く肩
 摩し書林多く招牌を掲げ名を題し西洋和
 漢の書籍充棟廬棚に充て學校生徒を喚び
 又舶来布帛の店頭は綺羅錦繡や肌着印華
 布縮緬湯染は時様最新を競ひ令娘婦女の
 需に應ず或掃眉塗澤の具洋服社立舎端幅傘
 時表提囊袂袋巻烟草や銅鑄磁器古玩物
 文房品や石盤鉛筆墨汁綫紙の類眞錦画
 各國の名勝山水は足を勞せず眺望し其公
 の肖像は故人を雖も對顔又異ならず其外
 尋て有らざるなく求るに欠あとなし



花候は其幽艶を愛し雅俗愛し集ふ此地往
 昔豊臣度々遊覽ありしと謂傳ふ
 梅田停車場は其域廣寛として教株の樹を
 栽自ら林泉の風致を成し高厦は煉化石を
 用て構造し樓上は官局樓下は待合客室又
 備へ前へ東西二路を通す西は緑橋に向ひ
 東は堂島櫻橋を経て大江橋を渡り淀屋橋
 に至る明治廿年二月 朝帝本地に御臨幸
 あり衆庶拜賀の為各所を花門を装置す其
 高さ八間敷行日章の旗を靡し提焼を夥多
 掲たり其盛況は禿筆の及ぶ處にあらず
 ○西隣ハ郵船會社にして溝渠に望で倉庫
 を列し貨物の運輸日々繁盛なり



高津宮は市坊の東岡として社頭壯麗南面
 し老蒼たる喬松は驛路の両傍に列し又近
 世社側は舞臺を新築し致し躋て西望すれ
 ば幾万の人家鱗次揃比一眸に集め數千の
 煙筒空を向て黒煙を吐は製造盛なる証す
 べし猿轎の擔簇するは演戯場の繁昌を露
 し高廈の時は兩本願寺洋風構造白亜皎々
 たるは府廳の火見臺又帆橋の林立するは
 安治川及び木津川の港口なり六甲武庫山
 は眇々と海外を時ち洋々たる海面金波蕩
 揺し日光反照し麗耀と正視し難く千船を
 浮め瀛嶼黒煙を吐て去來し貿易繁盛推て
 知べし○此邊は植物園あり吉輪と云牡丹



道頓堀戎橋南岸東へ日本橋の頭を登て二
 井戸高津宮と亘の間は四季熱鬧の地五戸
 の演戯場あり其名を浪華中角朝日辨天座
 と云四時興行互交絶す又遊里尋く隣接す
 各地は島之内九良右衛門町阪町難波新地
 と唱ふ藝妓娼婦の巢屈たり法善寺金毘羅
 祠の邊は俄狂言演史軒を連ね茶亭は愛媛
 客を喚び自安寺妙見堂は賽人常より多し
 千日前は近世關し遊地烹樓肉店糕菓舖又
 揚弓場手踊狂言走索足藝曲馬或は西洋手
 品の觀物多し常は雜沓せり○日本橋の頭
 ハ紀泉兩國の喉口として旅舎軒を列す又
 他國より來る人も必ず茲に草鞋を脱す



天王寺之塔

花天々爛熳し老若酒飲行厨を携へ賑たり
 天王寺は聖徳太子の創立地域二萬有五千坪佛法最初の精舎なり衡門の額銘云釋迦如来轉法輪所當極樂土東門中心と書す小野道風の墨跡七堂伽藍の莊嚴太子堂龜井の水涌出して流れ絶えず五層の寶塔は此として天を擎けて幻出する如く此又登臨すれば白日煌々と心魂失する意をなす西の市坊彌望して海面近く眺め涼車い煙を吐て山麓二百足の道如とく又
 淀川神崎木津の三川は通ふ白帆は鷺鷥の翱翔たるも駢駢たり東に比叡山より南諸峯連列して屏風の如く青々たる麥圃は洋種を敷くも似たり○家隆郷の墓碑ハ愛深堂の傍らあり

り



桃山之景

の培植は秀で花葩頗る大又色も亦種々白入り
 菊園は高津社の東梅ヶ辻あり列年十月門を開く培植巧として其花英種々咲き色澤も各異なり一莖數品を發くあり大菊又至ては其葩の直径尺又満るあり或は枝を挽めて演戲人物の形状を装置し頗る壯觀梅屋敷は菊園の東に在り春季園裡の梅花一向咲き清香芬々として黄鳥枝上又好音し風光馨く風流の好士筆墨を弄し嬌艶なる阿嬾花下又集ひ酒宴を開き賞觀す
 桃山は小瀬及び真田山産湯の清水又亘るの地一圓の桃園として弥望し幾千株の桃



花天々爛熳し老若酒飲行厨を携へ賑たり
 天王寺は聖徳太子の創立地城二萬有五千坪佛法最初の精舎なり衛門の額銘云釋迦如来轉法輪所當極樂土東門中心と書す小野道風の墨跡七堂伽藍の莊嚴太子堂亀井の水涌出して流れ絶えず五層の寶塔は屹として天を擎けて幻出する如く此又登臨すれば白日煌々と心魂失する意をなす西の市坊彌望して海面近く眺め氣車ハ煙を吐て山麓二百足の道如とく又淀川神崎木津の三川又通ふ白帆は鷺鷥の翱翔たる又鬚髯たり東に比叡山より南諸峯連列して屏風の如く青々たる參圃は洋種を敷く又似たり○家隆郷の墓碑ハ愛深堂の傍らあり

り

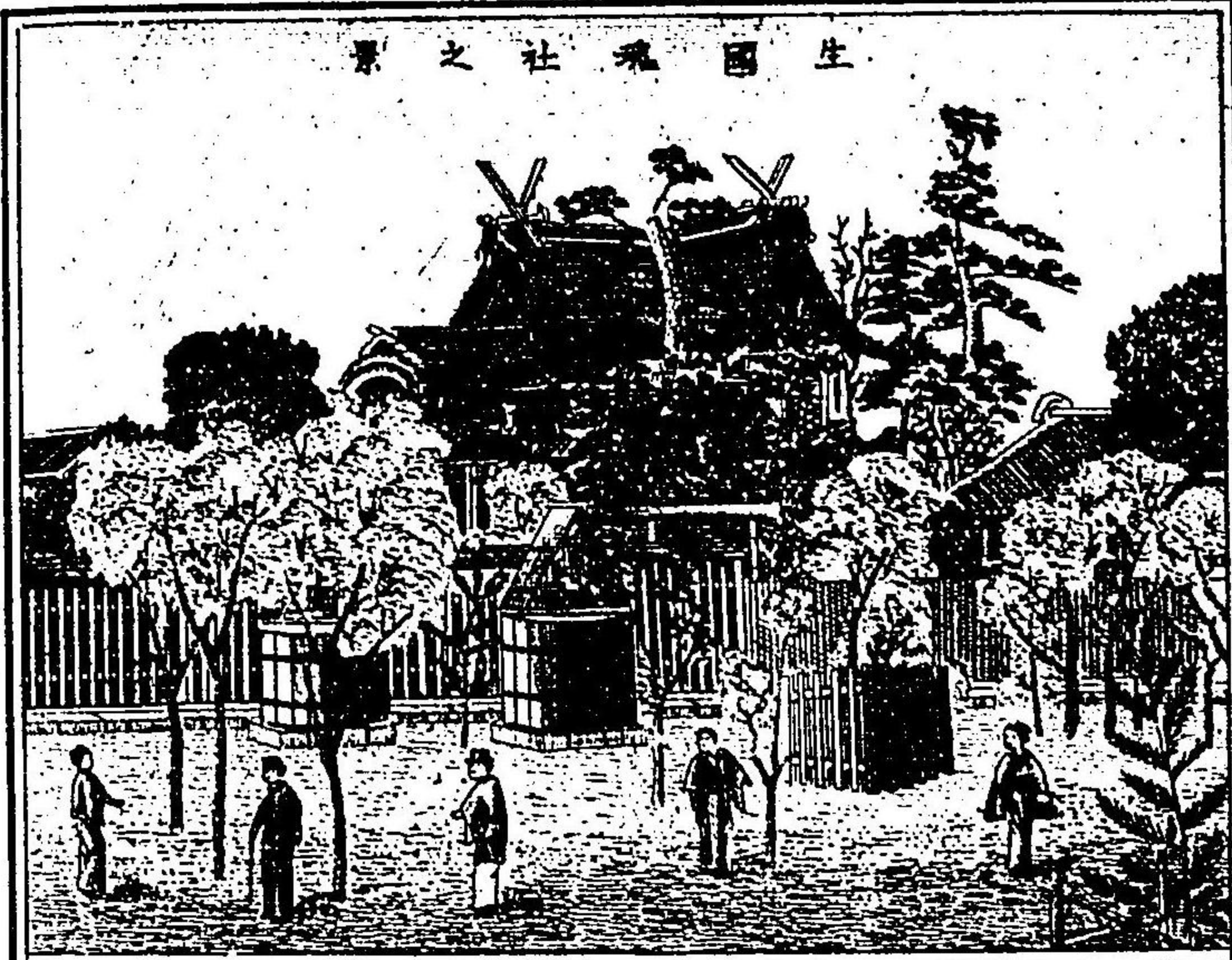


の培植又秀で花葩頗る大又色も亦種々白へり
 菊園は高津社の東梅ヶ辻あり列年十月門を開く培植巧として其花英種々又咲き色澤も各異なり一莖數品を發くあり大菊に至ては其葩の直径尺又満るあり或ハ枝を接めて演戲人物の形狀を装置し頗る壯觀梅屋敷は菊園の東に在り春季園裡の梅花一向咲き清香芬々として黄鳥枝上又好音し風光馨く風流の好士筆墨を弄し嬌艶なる阿嬾花下又集ひ酒宴を開き賞觀す
 桃山は小瀬及び真田山産湯の清水又亘るの地一圓の桃園として弥望し幾千株の桃



廣田神社 ○ 蛭子社 ○ 瑞龍寺 ○ 鉄眼和尚の
 中興禪刹にして此三所共難波村に在り
 和光寺は堀江にて世人阿弥陀池と云池中
 寶塔あり常燈を照し浪華の精舎とす
 新町の廓は古き花街にして諸國輻輳の地
 なれば弦歌の聲ハ旦夕絶ず又九軒町ハ
 櫻木を栽花候は燈を照し夜遊光景賑ハリ
 西本願寺は第十二世准如上入元禄年中の
 建設地域廣く本堂及び對面所等宏壯なり
 東本願寺は第十二代教如上人徳川に依りて
 此地を賜り其宏壯西本願寺に異ならず
 御堂社 ○ 座摩社 ○ 難波宮此三所境地ハは
 演戯場及び演史の席ありて常賑ハリ

日本卷之一



一心寺は天王寺の西淨土の梵刹にして圓
 光大師の舊蹟又大坂城元和年間戰死を此
 又葬 ○ 茶臼山雲水の邦福寺ハ禪刹にして
 客室を遊息亭と云西海を眺望し園裡ハ春
 花秋楓殊ニ積雪の光景を賞す常ニ客の需
 應じ善茶の調理を供す ○ 新清水寺及び
 安居天神の境地ハ櫻樹多し
 生國魂神社は官幣大社近世社側ニ新路を
 開き社域廣く櫻木社殿を圍擁し春風和暢
 花華々と咲綻び恰も錦幕を垂る如く其麗
 絶なる遊客花に酔ひ吟行乱舞して愉快を
 極めたり又蓮池あり盛夏花葉朝風露を拂
 い清馨芬々として頗る幽艶なり

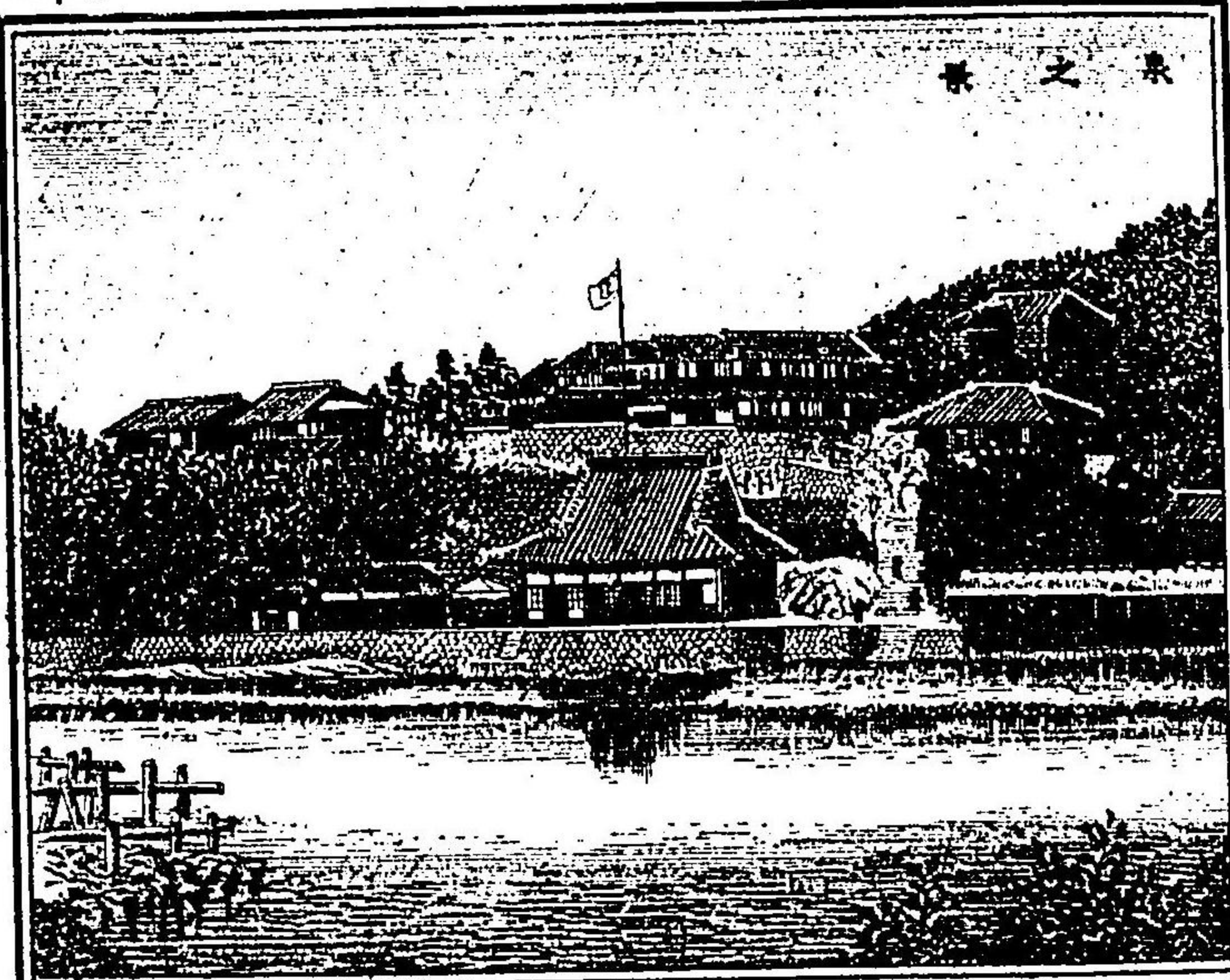


多田院は往昔源満仲公の館なり後世寺と成し又神廟を管轄す○鞆ヶ龍は名のみ残り其川急流として珠を飛すか如く白浪濤濤なり初夏の頃は鮎此より多く衆る尻風巖は猪名川に臨んで岩面屏風を建てるが如く高さ二拾間六折の形状を成し清流を激して風致よく春は躑躅を咲照し壯觀なり満願寺は曠昔素盞鳴尊降臨の地なる故に神秀山の称あり又西明寺の瀑布あり高さ五丈岩に浴て飛瀉し春ハ岩懸つゝし咲乱て風色斜ならず○昆陽池○鴻池とて其廣さ三百畝の大池あり其來歴日本記に詳なり又辻碑と云あり

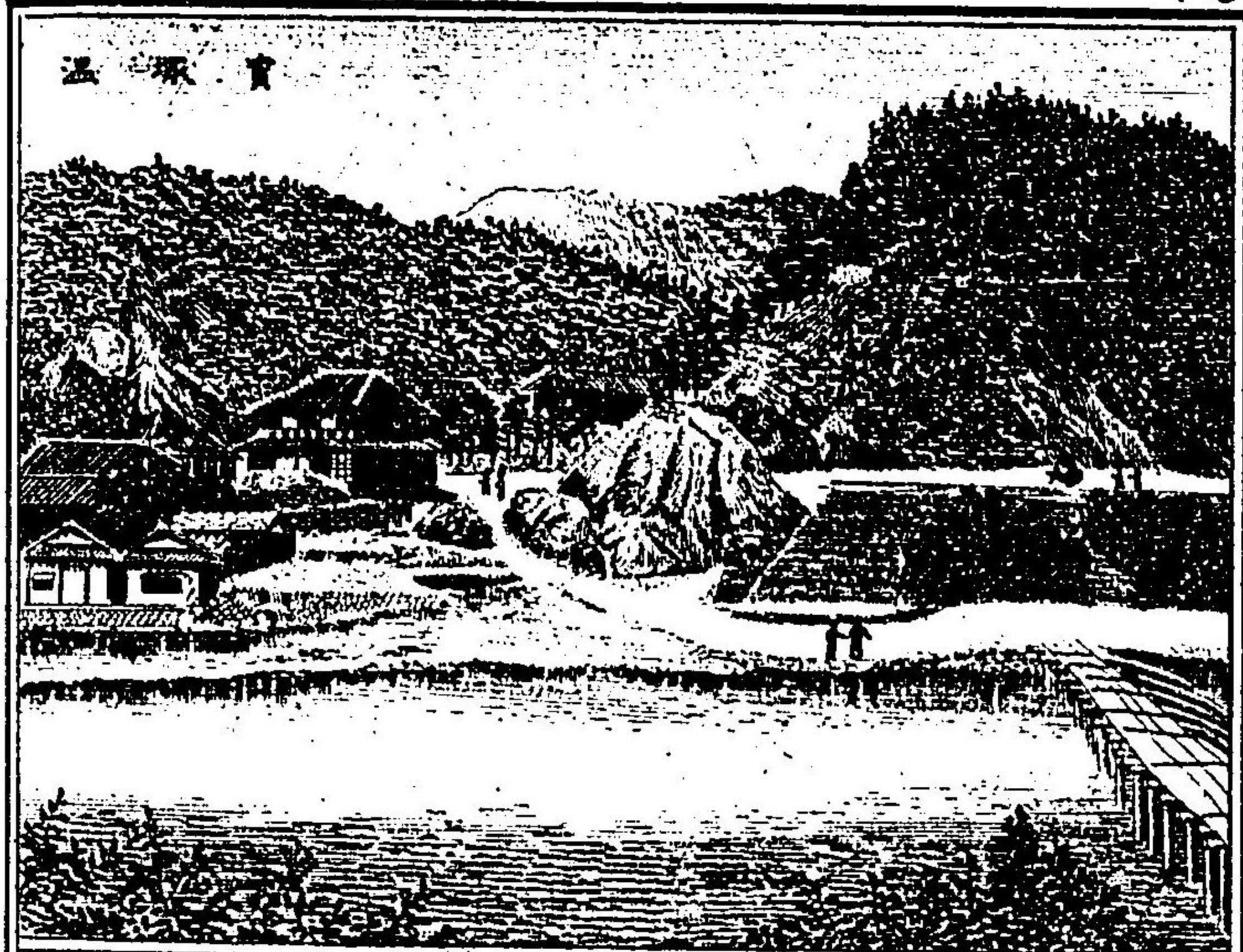


風吹直しては紅葉紛と墜て水又浮み其色艶々錦の如く歩を進て瀑布の前は到る巖頭より飛瀉する其高さ拾一丈幅三間として飛沫雨の如く恰も岩面白布を引又似たり山水の秀麗明媚として拙筆に細記し難し又龍の右側より○勝尾寺に到る徑あり

箕面山麓安寺ハ豊島郡に天台修驗道木社より十八町山奥に瀑布あり此に到る山径は四顧皆楓樹十一月中旬予杖を杖を曳く天暖春日の如く社頭を右折し山崖に浴て路甚だ狭く溪間流水漸々として多少の紅葉春花より麗艶なり此に板橋あり兩岸紅楓燦爛閃灼なり山高



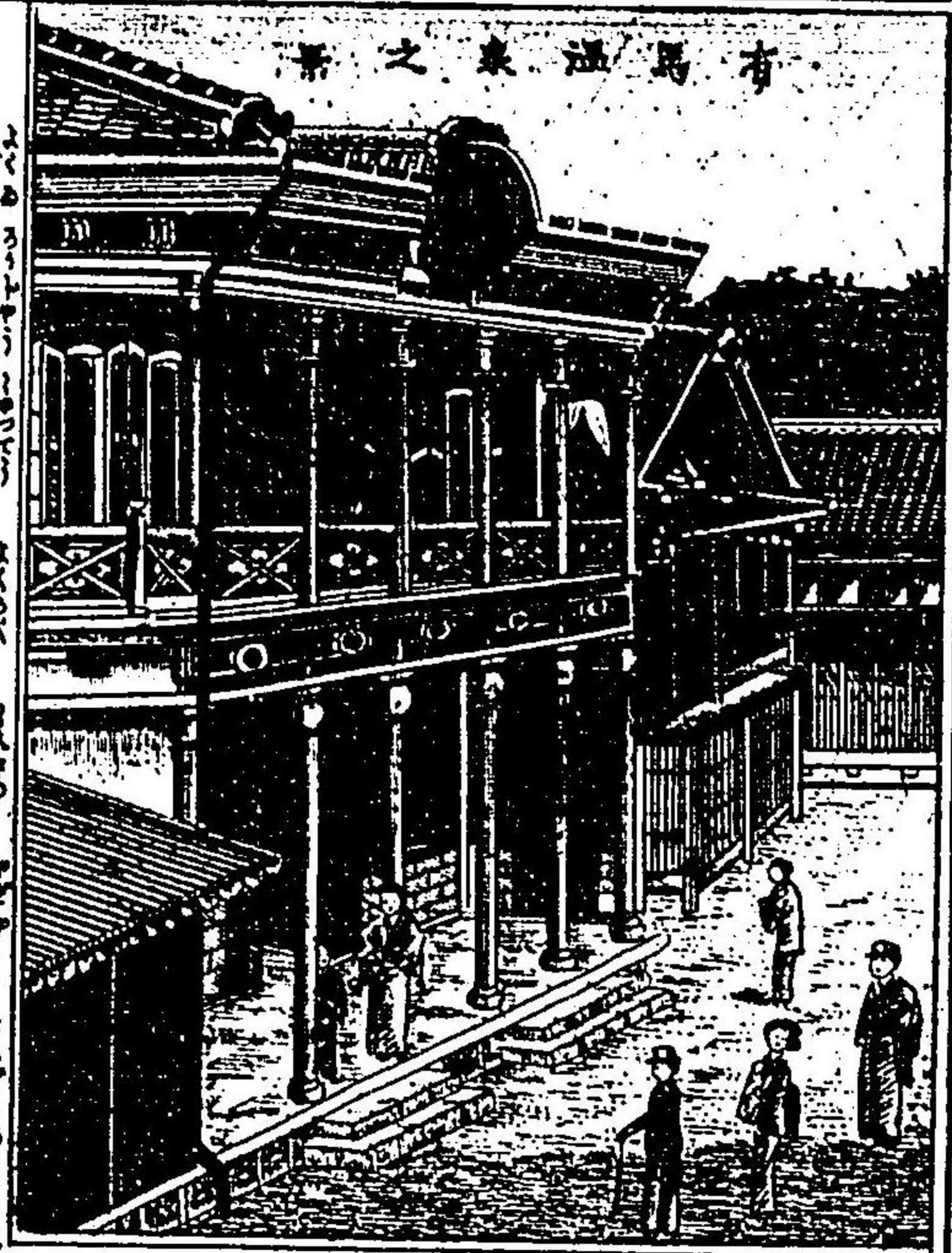
泉之景
 寶塚温泉は武庫山麓の東麓伊ノ志村に在り其地景後山を擁し東南は生瀬川を帯て平野開けたり近世鑛泉を發見してより山腹に新路を開拓し上は生瀬より下は西宮に車馬を通じ浴場は清流に臨み構造し其清潔なる官邸の如く三等に分ち蒸氣機械を用て温め測量器を以て温度を適宜にす其泉質は炭酸を含み有馬温泉と異ならず旅舎は山腹より河岸に建築し又梅林に近して春は梅花清香芬々たり夏は龍の眺點に宜し秋は岩間を萩花咲觀月虫の音は幽趣あり予は山水を愛し愚詠あり



中山寺觀音閣ハ境地山腹に在て郡内第一寺の名勝なり香爐青燐に柱り鐘聲白雲と和し殊に山中櫻多し花候は風光麗美なり山嶺に躋れば尾ヶ崎西宮の浦々遠く眺望て沖の松山麓の青圃に雁り頗る絶景なり清荒神社に蓬萊山清澄寺境内にあり中山寺より山阻の徑あり境地総櫻あり垂々と枝長く垂れ花も艶麗なり此寺の園裡に花木多し滝ありて廬山の景致を露し閑雅也伊丹に小都會として市坊二十八町商賈多し京坂有馬三田の驛なり酒匠の家六十餘戸あり美酒教斛を造醸し諸國へ運輸盛なり其銘は老松或は富士白雪等種々あり



神戸港ハ五港の一横濱又更ぐ貿易場其地
 後ニ山を背ひ南は海ニ面し海岸より山麓
 又巨り入畑稠密ニ建築し二大公園あり一
 は海濱一は居留地の東端として何も清潔
 を極め俱樂部ハ相生町ニ在り諏訪山は神
 戸遊宴の地として温泉及び烹樓あり管弦
 の絶る夏なし眺望ニ於て港灣を瞰下し遙
 ニ泉山祀海淡島の光景絶佳なり故又紳士
 豪商各所より来る者一遊を試さるハなし
 海灣常又各國の商船軍艦を碇泊し海岸又
 棧橋を凸架し舢舨を借らず直ニ貨物を陸
 揚す内外諸般の貿易日々又頻繁なるは此
 地の殷富ニ赴く源なるべし



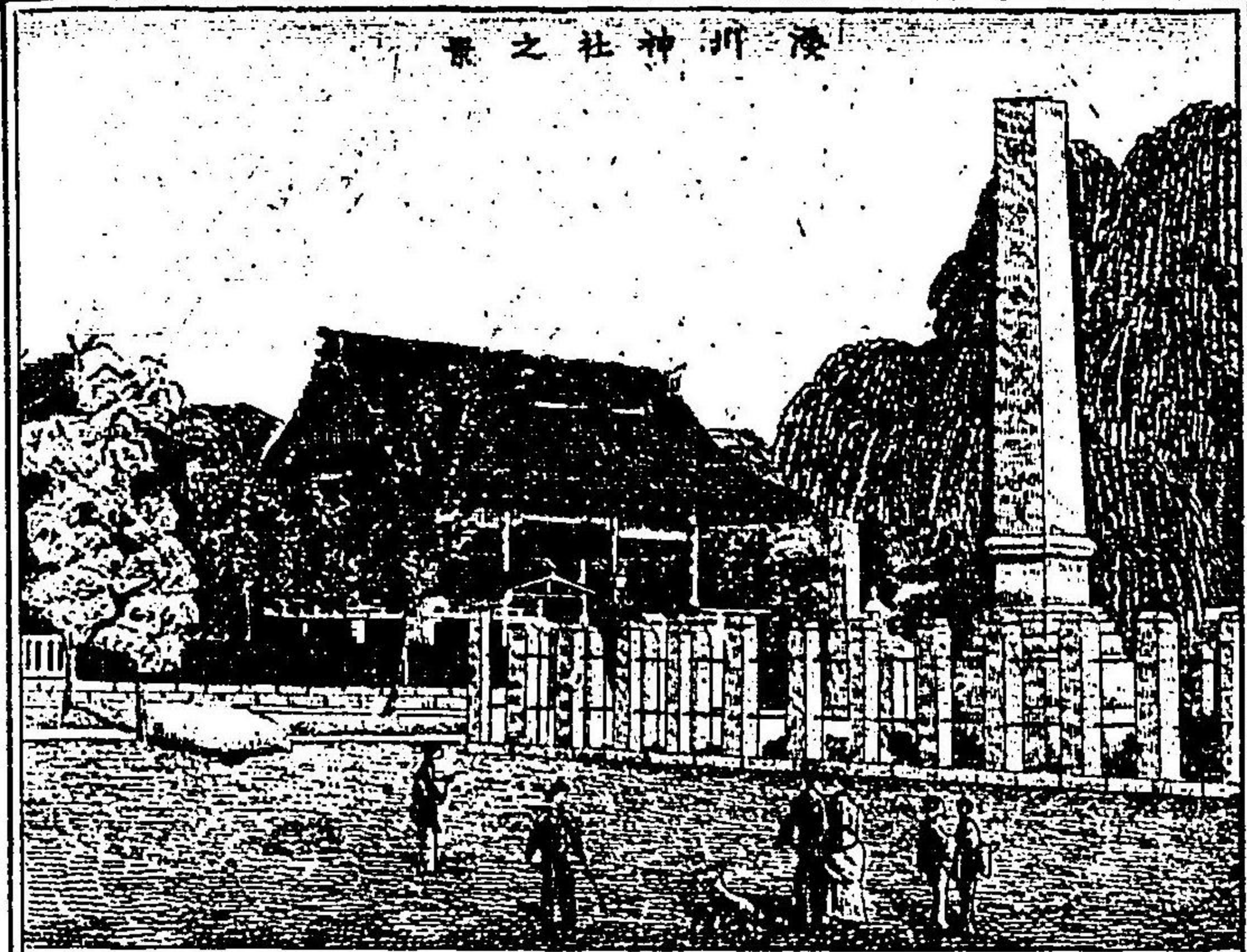
浴醫樓上ニ出張し浴客を診察し客舎は三層樓ニ構造して密井なり名勝ハ落葉山鞍
 ケ龍温泉神社愛宕祠鳥地獄炭酸水等なり此地は武庫山の西麓として山を越ては住
 吉停車場ニ到る又河原越ニ向へば四十八ヶ瀬又屏風岩の巨石を眺がめ生瀬又出づ
 る

有馬温泉は遠く神代より傳る事
 日本記ニ詳記す豊臣秀吉再興あ
 りしより衰へず又維新以來は諸
 君衛生の道を知り此温泉は炭酸
 の氣を混じり瘡濕脚氣又効驗ある
 を了り避暑或は病療の爲又浴客
 四方より集り繁盛なりしニ聯
 より若干の金を貸與し明治十五
 年今の如き西洋風の構造と成り



水の流は噴出するを發頭し是を以て温泉場を設け浴客日々増盛して賑わひたり
 ○摩那山ハ布引瀑を距るおと山路十八町又して頂上は遠く觀音閣の前より須磨明
 石の眺望は絶妙なり又城趾あり元和年間赤松則村官軍に屬し北條の兵と此に戦が

布引瀑布ハ神戸港濱を距る凡
 十八町東北の深山幽谷に在り
 雌雄の二滝となる一を雌滝と
 云高さ七丈幅二間是より遠處
 と蛇行して登る凡五町又雄瀑
 あり高さ十五丈余の壯觀なり
 何れも山水の絶景又富り下て山
 麓に到れば數十余の家屋あり
 此酒樓茶舎として近頃は炭酸



淡川神社は楠正成を祀る前街は多門通
 して晝夜人肩相摩す繁花の地社内は楠氏
 の墓碑あり元禄年間徳川光國の建設又演
 戲場茶亭あり社側ハ一大都趾の福原とし
 て藝妓娼妓の巢屈たり此より西は向へバ
 兵庫の地和船破泊の澳なり昔平相國清盛
 が海面は三十余町の築島を造り和田岬と
 云此は燈臺を設く其高さ五丈燈光不動赤
 色照射五里に達す此地の人民は着實とし
 て古風を貴む者の如し
 生田神社ハ往昔源平の古戰場にして社後
 を生田森と云今尚鬱蒼なる樹林なり茲に
 奇なるは林中に松を見ず

驛路 行程大坂高麗橋を元標とす

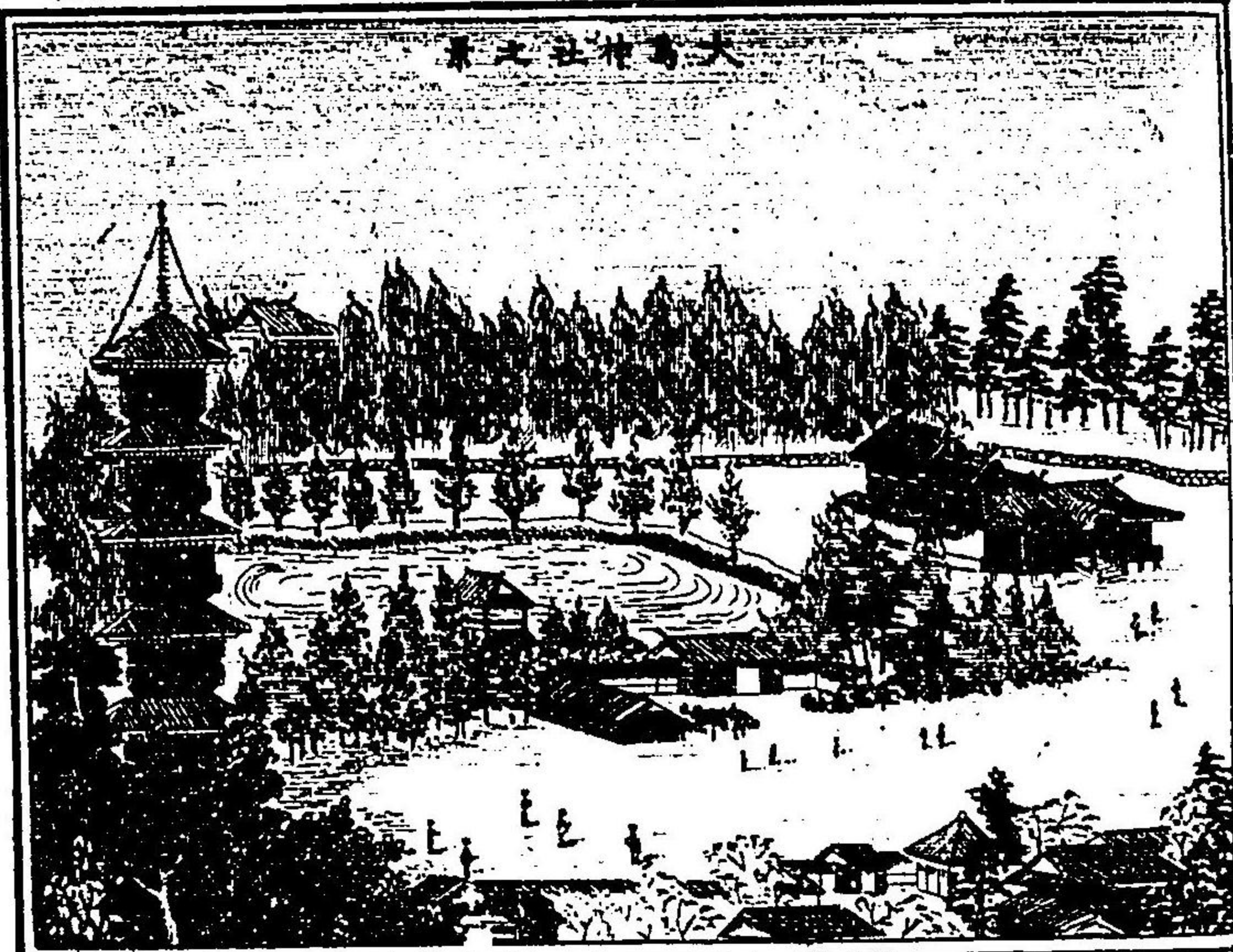
京都道 大坂二里 河内守口三里 同牧方二里 山城橋本一里 同淀一里 伏見二里 京都
 中國道 大坂二里 神崎一里 半尾ヶ崎一里 西之宮四里 兵庫四里 播磨明石合計十五里余
 山崎道 大坂二里 郡山二里 瀬川二里 昆陽二里 西之宮三里 別路西宮三里 三壺温泉場
 高槻道 大坂五里 茨木一里 富田一里 高槻七里 山城山崎 向日町 京都
 有馬道 兵庫二里 住吉村一里 余湯山町四里 別路住吉村傳車九手湯山町温泉場
 紀州道 大坂三里 和泉坂田寺津和田十手 貝塚二里 信達十三里 紀州山中五里 和歌山
 大和道 大坂二里 深江二里 河内神立合計四里半
 丹波路 大坂二里 神崎一里 伊丹一里 小湊一里 生瀬二里 道場河原一里 三田二里 廣野
 同列路 大坂二里 十日市三里 餘野四里 丹波龜岡九里
 播磨別路 大坂六里 池田二里 多田院村二里 安倉村三里 湯山町一里 西尾村三里 播磨
 淡河 合計十七里半

和泉國之部

此國の東ハ河内紀伊ニ隣リ南ハ紀伊ニ接シ北ハ攝津國ニ類シ東西九ノ四里半南北凡六里なり其地勢東南ハ山ニ憑リ即ち妙見山鉢ヶ峯植尾神於山七瀬嶺葛城大鷲山飯盛の諸山列リ大和川石津津田近木大井關男里の諸川皆西流して海ニ注ぎたり西北ハ海を負ヒ土地隘少と雖も土質甚だ膏腴にして五穀又宜く漁塩又利益あり諸水州ニ面するを茅渚海と云海岸ハ坂港より南濱寺及び岸和田港黒崎谷川觀音崎等を經て紀海ニ連屬す而して四郡あり 大鳥 泉 泉南 日根等なり大邑ハ龍海 淡 下條大津 岸和田 貝塚 佐野 尾崎 全國人口は二十一萬四千五百余人也

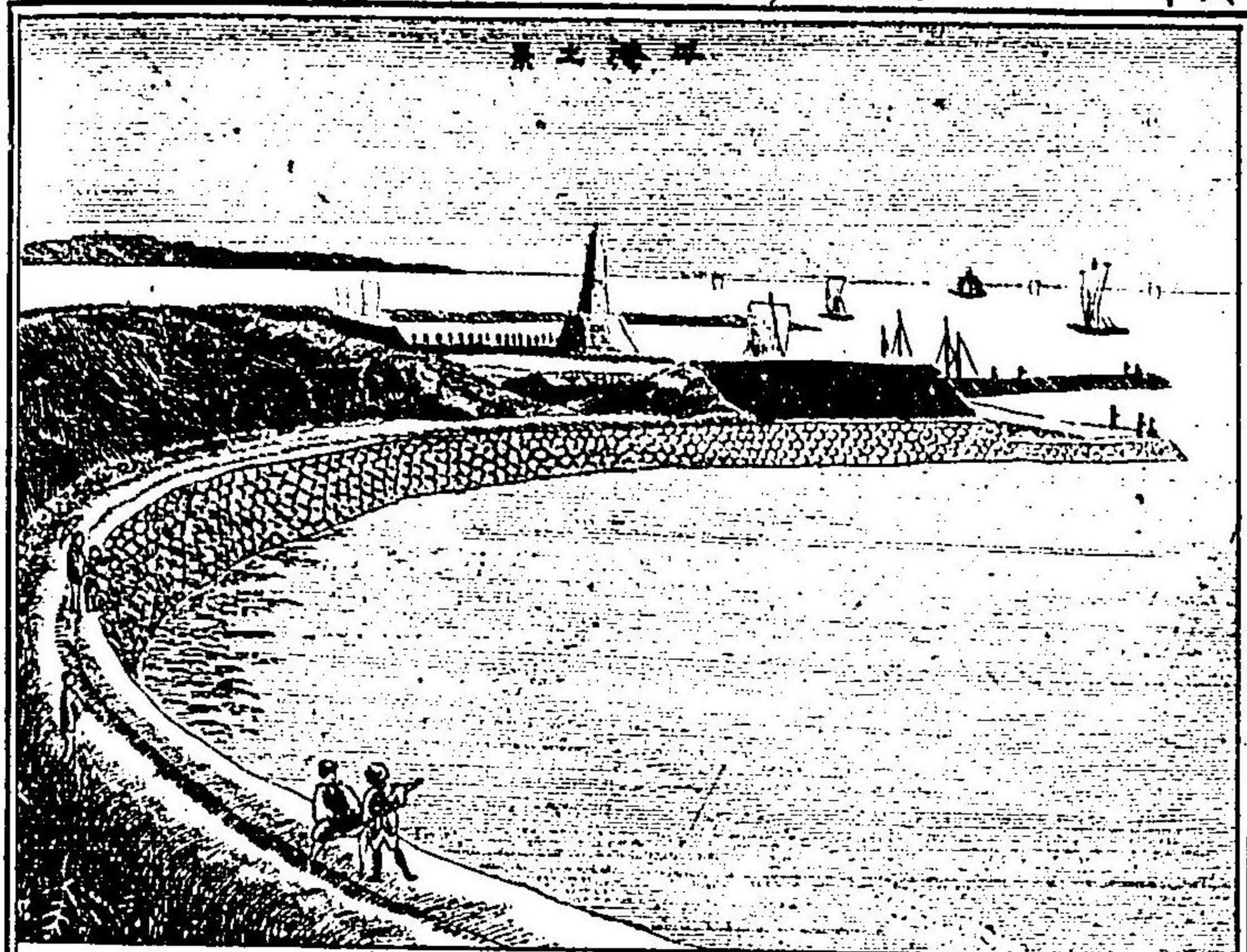
坂之記

龍海の地は大鳥郡にして市坊ハ百九十四町南北三十町東西十五町此地は攝津河原三州の坂として街衢端正家屋ハ鱗次櫛比し通り町は庖丁銀物店及び旅舎多ク幾内有名の都邑なり風俗柔和華奢ニ流れたり但し山居の民人は淳厚の風姿あり關口神社ハ世俗ニ大寺と云境内ニ演戲場あり常ニ賑ふ○宿院は住吉神社の旅所なり



高師瀨寺の旧趾、坂港を距ること一里半、其疆域東西四町計り、南北二十余町の白砂場として、東側一徑あり、此紀州街道の往還なり。海面は沿て青松、其幹赤く、數株あり、遠く淡路島と對し、風光頗る絶佳、殊に觀月の勝地なり。近世公園地と成たり。

大鳥神社は官幣大社として、日本武尊を祀る境、地廣く、老松古樹、鬱蒼と社殿を圍擁して、巍然たり。○家原寺は、本尊文殊佛として、行基の創建なり。○万代八幡神社は、赤畑村に在り。○荒山、和田村の東、山色秀麗、よし、櫻樹多し。此城趾あり、楠氏の旗和田源秀の築く古戰場なり。



仁徳天皇陵は東郊に在り。○南宗寺は、禪宗の巨利なり。利休代々の墳あり。○菅原神社は、戎之町。○本願寺は、神明町の東に在り。○妙國寺は、材木町の東園裡の、鐵葉蕉は、百枝を成て、壯觀なり。

坂港は、東西六町、南北五町、傍は紡績場の高厦あり、製造日々盛なり。燈臺は波頭、一時ち岸汀に臨み、葦海樓及び數十の京亭軒を列べたり。此樓に登て一遊を試むる、又前海は皎々たり。淡島は翠巒として、海に浮が如く、武庫山は海外に聳へ、紀海加田の沖を眺望し、漁舟は、蜉蝣の香く、如く網を牽き、少の帆影、日光に照り、灑耀たる美觀なり。



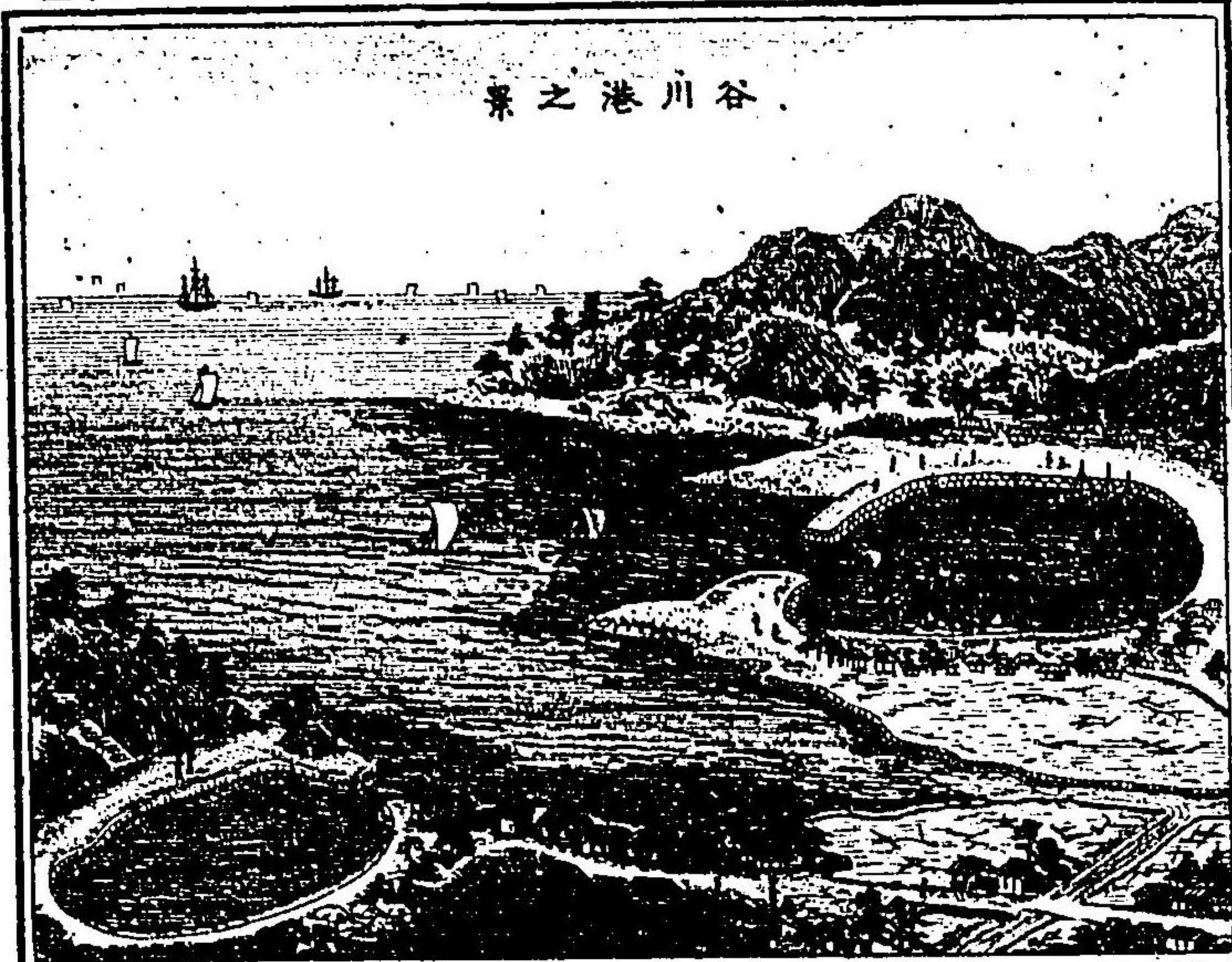
景之浦日深

泉穴師神社は天忍穂耳尊考幡千々姫命を
 祀る其他末社多し○大津は紀州街道の取
 也尾崎も亦南海四國の松懸として繁昌の
 地際日浦は淡輪村の南に在り南北一里計
 の松林海岸に沿て松翠漢は蘆邊は田鶴
 の聲波間は千鳥鳴連て朝の満干又從で
 海水洋洋として遠く淡路島の翠岫高く北
 は摩耶六甲鐵拐峯海外は聳へ南は紀海加
 田港粟島の祠を遙望し二子嶋阿波の鳴戸
 の海面は皎々と晴天は接り多少の漁船處
 々々網を牽き清く白砂清潔洗ふが如く櫻
 貝は春風は吹撃られ秋月は輪山は廻り琴
 花を照す景況は充繁と記し難し



景之山尾旗

旗尾山施福寺觀音閣は阪井村の東峻嶺に
 して四岳八峯層峯なり山中は四十八の瀑
 布三十六洞あり又山中より七瀬嶺に到る
 路あり父鬼谷を越て山頂は曲路七盤を成
 山径峻嶮なり此を檜原路と云○七瀬嶺は
 紀伊河内泉州の國境なり
 聖神社は信太山に在り信太社は當社より
 十町斗西にして稻荷社あり社側は楠大樹
 あり高さ八丈周り五丈幹の太さ五尋枝葉
 繁茂して千枝万柯を成し頗る壯觀なり
 國分清水は神功皇后三韓征伐凱陣の際よ
 り涌出して今も重泉流れ絶ず國号も此よ
 源とかや山城の亂は彷彿り



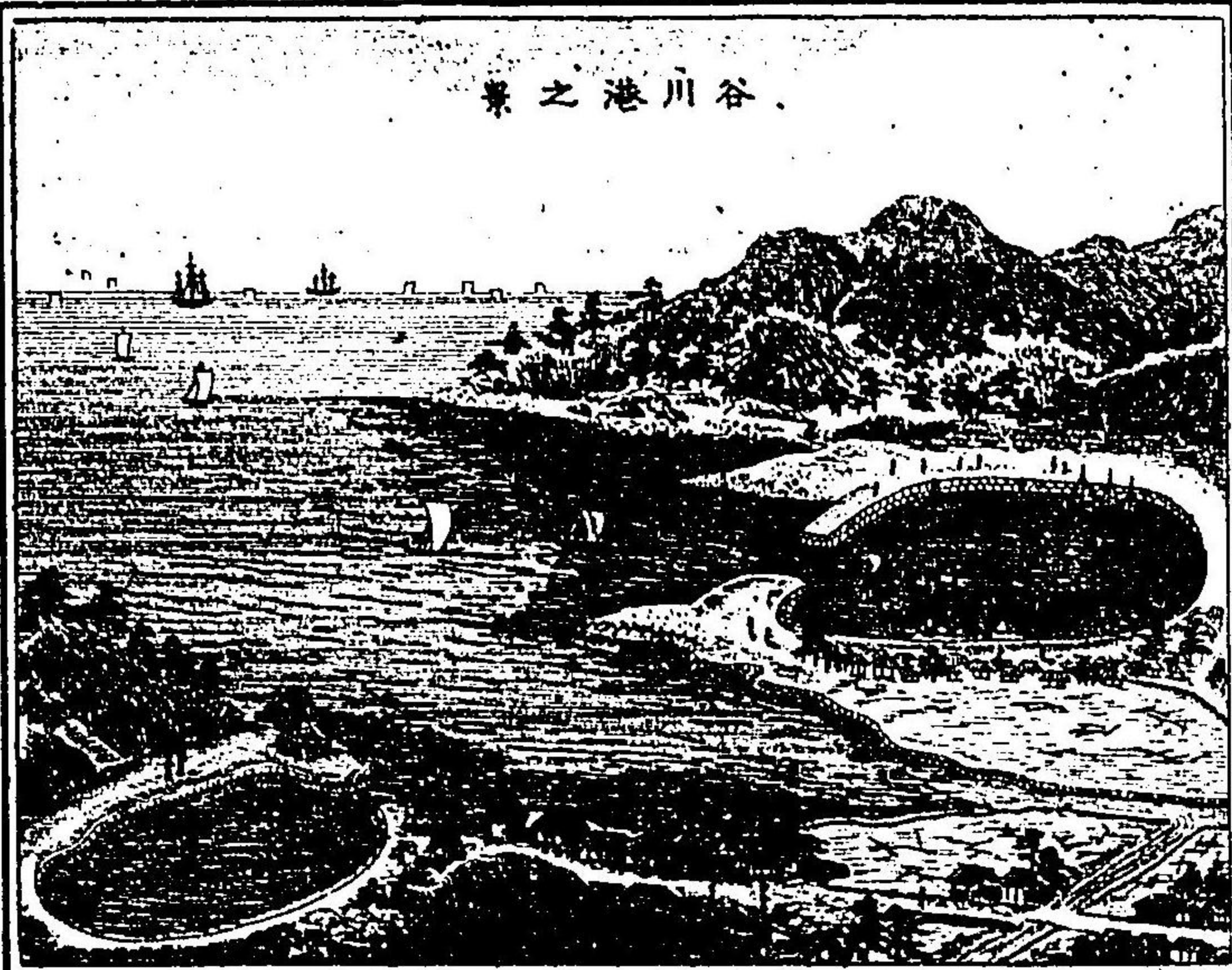
景之港川谷

岸和田は楠正成の支族和田高家の築く所
 屋敷を経て沿革あれど南海道の驛路よし
 て賑たり○貝塚も宿驛よしして繁昌なり
 佐野ハ木那の名邑よしして商估多軒を列
 べ朝夕市を開き販賣の道最も繁昌なり
 谷川港は東西五町餘南北三町斗港の深さ
 一奴半商船五十餘艘を容るゝ足る埠頭又
 燈臺の設あり港灣又沿て家屋鱗次し酒樓
 茶亭あり弦歌の聲は濱風こ和し此地の繁
 栄を顕したり此地の北は観音寺よしして海
 面三町斗り凸出して山崖壁立し廻船の目
 標とす又海上は号少の漁舟終日網を牽き
 或は釣を垂て風光頗る濃なり



景之山滝牛

牛滝山大威徳寺ハ坂を距れと五里山嶺
 瀑布あり三層疊々として飛瀉し山水秀麗
 なり秋季は梵刹の頭り丹楓葉爛熳灼とし
 て錦繡を布如し山嵐吹落ては紅葉繽紛な
 り溪川又墜ち其音響して聚るものは紅魚
 の游泳する又彷彿たり又夕照又對しては
 水色赫々として春花よりも艶麗なり
 龍谷山水間寺は大川と蕎麦原川の落合巖
 上ニ觀音閣を安ず此の山姿川流幽趣あり
 大堰明神の側ニ滝川あり巖石疊々として
 松檜繁茂し流水淅瀝と聞へて神さびたり
 蹴躑岡は岡村の山頭よしして満山躑躅の花
 咲頃ハ最も壯觀なり



岸和田は楠正成の支族和田高家の築く所
 屋敷を経て沿草あれど申海道の驛路よし
 て賑たり○貝塚も宿驛よしして繁昌なり
 佐野ハ木郡の名邑よしして商估多し軒を列
 べ朝夕市を開き販賣の道最も繁昌なり
 谷川港は東西五町餘南北三町斗港の深さ
 一奴半高船五十餘艘を容るよし足る埠頭よし
 燈臺の設あり港灣よし治て家屋鱗次し酒樓
 蒸亭あり弦歌の聲は濱風よし和し此地の繁
 栄を顕したり此地の北は観音寺よしして海
 面三町斗り凸出して山崖壁立し廻船の目
 標とす又海上は号少の漁舟終日網を牽き
 或は釣を垂て風光頗る潔なり



牛滝山大成徳寺ハ坂を距六と五里山嶺よし
 瀑布あり三層疊々として飛瀉し山水秀麗
 なり秋季は梵刹の頭り丹楓燦爛灼灼とし
 て錦繡を布如し山嵐吹落ては紅葉繽紛た
 り溪川又墜ち其音響して聚るものは紅魚
 の游泳するよし彷彿たり又夕照又對しては
 水色赫々として春花よりも艶麗なり
 龍谷山水間寺は大川と蕎麦原川の落合巖
 上は観音閣を安す此の山姿川流幽趣あり
 大堰明神の側は滝川あり巖石疊々として
 松檜繁茂し流水淅瀝と聞へて神さびたり
 躰躑岡は岡村の山頭よしして満山躰躑の花
 咲頃ハ最も壯觀なり

泉州物産

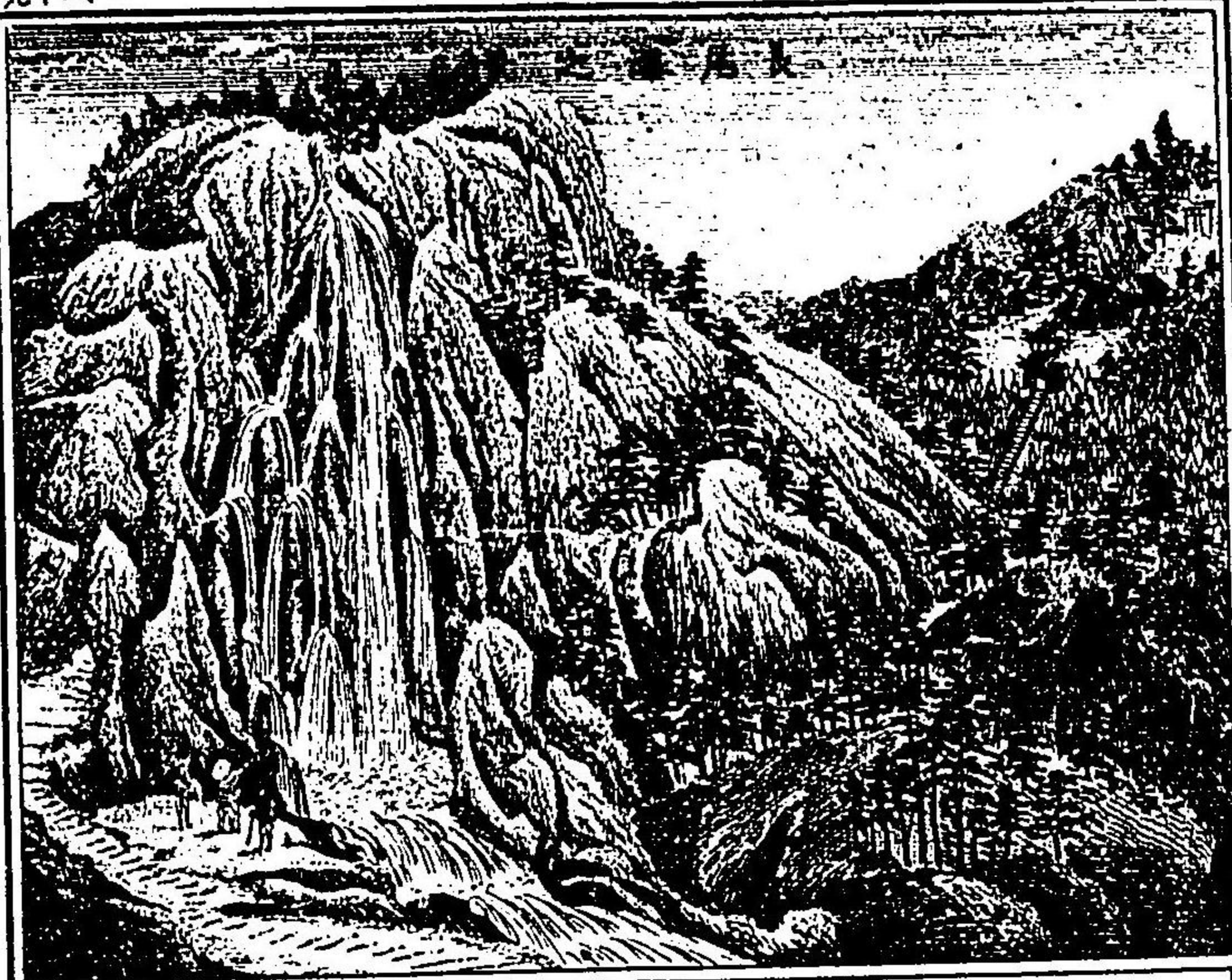
青石 丹 茶 烟艸
 蜜柑 松茸 魚類
 白木綿 汶羽 袋真田
 横揉織段靴 酒 油
 酢 綿實油 白下砂糖
 庖刀 陶器 生白粉
 唐土荒粉 線香
 木柳

驛路

大阪路 坂三里攝津大阪高麗橋
 紀伊路 坂四里岸和田三景信達二里半山中二里余紀州山口
 同沿海道 坂四里岸和田置余尾崎三里半谷川二里半紀州加田
 同高野路 坂五里河内三田市
 大和小路越 坂五里河内松原
 同龜瀬越 坂三景河内國分
 同竹内越 坂四里河内古市

河内國之部

此國の東は大和と隣接し西は攝津和泉の兩國と領面し南は紀伊と身入し北は攝津山城の二國淀川の流るる沿て際限す此國の疆域は東西九里四里南北は十三里にして其地勢は飯盛鷲尾鉢伏金剛山葛城岩涌山藏王嶺天野山等の峯巒東南を圍擁し西北は平野開け土壌膏沃なり○淀川は山城より來り交野茨田二郡の北部を経て攝津に流たり○天の川ハ源を大和と發し本州と横流して淀川と合す○大和川は本州の中央を横貫して海に落つ○西條川は四原あり一ハ大和と發し石見川と云二は紀伊見嶺に發し石佛川と云三は九重峠に發し加賀田川と云四は藏王嶺に起り瀧畑川と云東條川は二源あり一ハ金剛山に起り二は水越嶺に發す○石川は東條西條の二川相會して大和川と合流す而して十六郡あり 交野 讚良 茨田 若江 河内 高安 大懸 安宿 志紀 益川 丹北 丹南 八上 古市 石川 錦部 等なり名邑ハ 牧方 八尾 久寶寺 國分 富田林 等にして人口は二十四萬零一百六十余人也 民俗淳樸は稼穡を力め女は概ね紡績及び製茶を業とす



掠ヶ嶺は世人暗峠と云河内大和の國境な
 り麓は豊浦と謂て旅舎茶店多軒を列ぶ
 長尾瀑ハ豊浦を距おと十餘町飛泉は二層
 を成し雄瀑の高さ三丈雌瀑は二丈計り恰
 巖面は素練を瀧き明珠を散か如く石銘云
 ちねまの月さやかなるねるめれを帯く暗峠を
 髪切山慈光寺は掠ヶ嶺の半腹として東に
 ハ碧岳登へ西は難波の滄海を瞰夕照は對
 し春は鶯谷間又囀り秋風起てハ林頭は琴
 聲を傳へ初夏は雅人此は郭公を聞く和歌
 ぬまの月さやかなるねるめれを帯く暗峠を
 日下瀑は大龍寺の真あり瀑布ハ二層を
 成して飛瀉す其高さ二丈計り夏日の遊觀



牧岡神社は官幣大社本州の一宮とす祭神
 は天兒屋命姫神武甕槌神經津主神を祀る
 境地廣く山脈は掠ヶ嶺及び十三峠と連亘
 し四社山腹は鏡々として整列し舊春日と
 謂然ども創建未詳ならず古社たる事は社
 前石刻の伏鹿あり是を職て其古を知る
 べし賽路の兩側は櫻樹數株あり花候ハ壯
 觀なり石階疊々として側は瀑布あり又近
 世社側の山を開拓して梅樹千株を栽へ梅
 園と號け小亭三四個を設け賽人の休憩と
 供す此は西望すれば攝河及び西海を一瞰
 又弥望して風光斜ならず花候は梅香芬々
 と馨し雅客幽艶を賞す



東此神體は巨巖三個隅の如く時ち前二華
 表を設て寂寥たりされど紅葉の時爰は杖
 を曳く人あり
 元寺羅い倉治村の東五町計り牧方の驛を
 距こと二里瀑布の高さ五丈三尺山林幽冥
 として傍は不動祠あり往昔は開元寺と云
 淨利の地なり故は瀧の名とに從來風瀧患
 者此は瀧水して治するあり又瀑側石崖
 は文明四年の四字を鐫る其謂れ詳ならず
 片野神社は交野郡坂村に在り赤夷鳴尊を
 祀る華表より本社は巨り四町計り松林あり
 ○波瀲院の古跡は渚村に在り往昔惟喬
 親王遊獵の時此は頓宮を宮繕し給ふ今寺

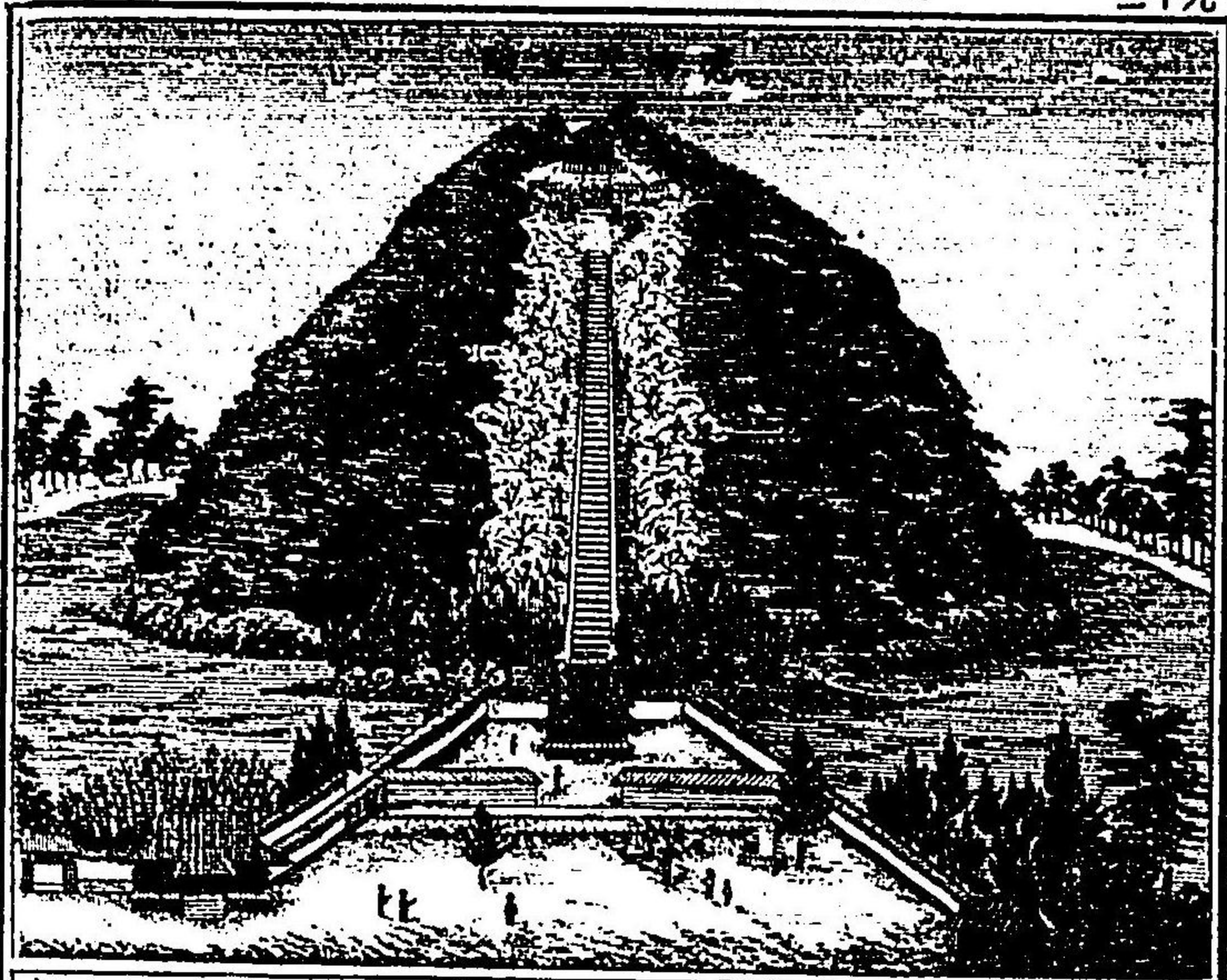


り茶店貸食舖軒を並ぶ○石松岩は私市村の東に在り左右は幾々たる青山峽中は大
 巖あり高さ二丈余長さ五丈計溪水石下を流れ水音常々置すし○鮎返瀧は石松より
 二丁計西に在り岩石四方より重疊して洞中へ飛瀧す奇觀なり○妙見山は星田村の

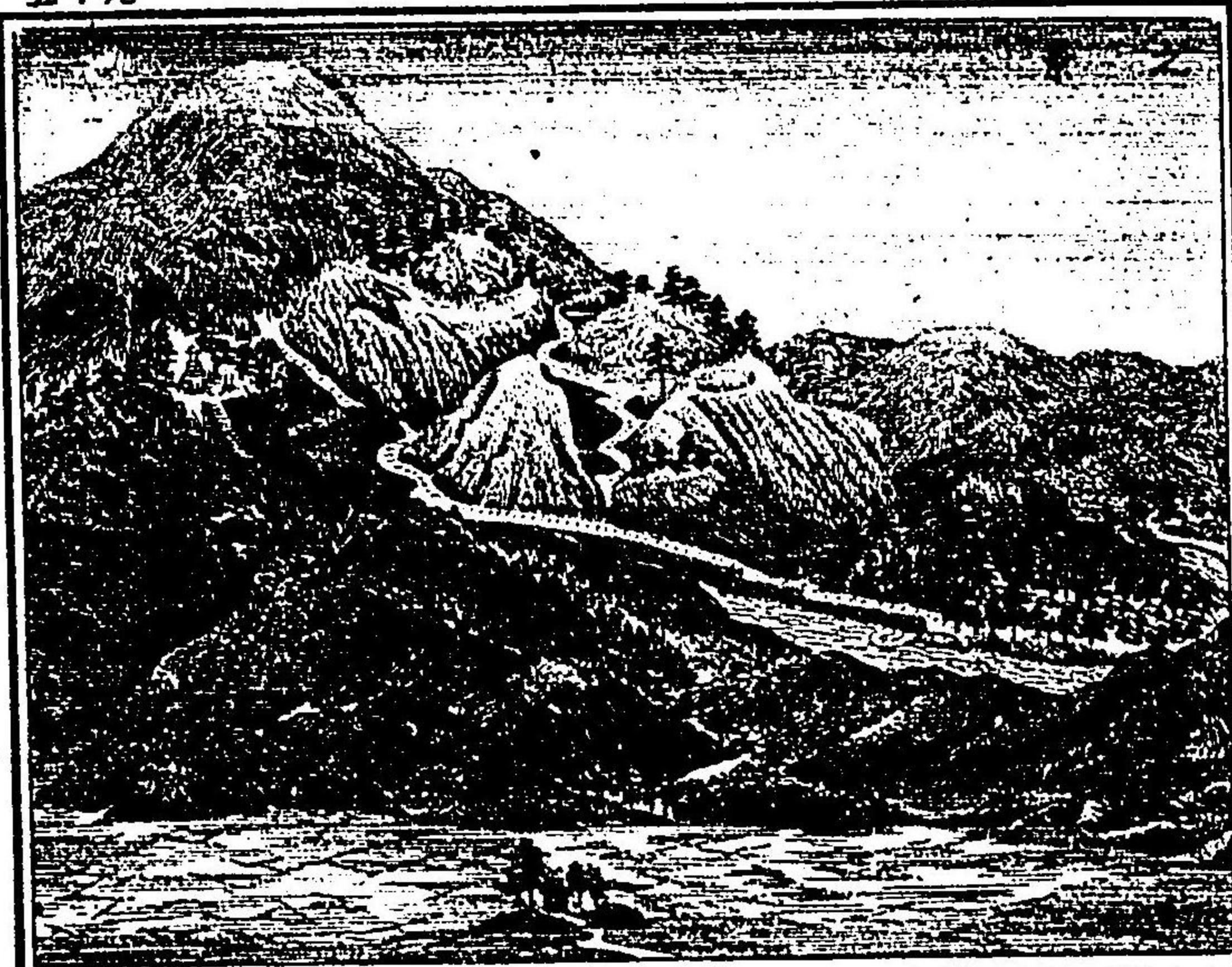
鷲尾山觀音閣は神並村の東に
 して山勢峭絶として櫻樹多く
 花候は浪速の人妻女を伴ひ花
 を賞し或は薇蕨を摘取て春遊
 又興ず野崎觀音堂は櫻咲き綻
 び菜花白ふ頃無縁經とて浪華
 の男女陸行或は操船を浮で遊
 戯の余拜を列とす又刈屋村の
 東は忠臣捕正行の墓あり
 佐太天満宮は京街道の傍に在



在り○推古天皇の陵い山田村に在り○用
 明天皇の陵及び敏達天皇の陵は上太子堂
 の近傍に在り○叙福寺聖徳太子の廟所也
 狭山大池は錦部郡に在り天野山小山田の
 二溪川此に注で池となる周廻一里半とし
 て五十三箇村を潤す大池なり長堤を繞し
 風来る時に細浪漲り花落ては棧を漂し紅
 鱗藻を逐て春水に游泳し白鷺魚を窺ふて
 池塘に臨み岸頭の楊柳は新葉を拂て涼趣
 を催し秋月は影を逐して故々たり
 葛城山に河内大和の兩國を跨りて廣く北
 は竹内嶺より南は金剛山を登りて千早峠迄
 の悠綿なり山頂に奇石あり石橋と云幅三



と成り観音を安す五木櫻駒止松とて銘木
 あれど枯朽し今僅に存す公衡の和歌に
 坊の冬に交野の山にありしきと彼の山にの月夜を那
 瀬は錦部郡日野村に在り高さ三丈計光
 瀑に龍畑村に在り高さ五丈余他は四十八
 瀑ありと云風景愛すべし
 金剛寺及び観心寺に楠正成の遺物を藏す
 後村上院陵に楠塚の奥に在り近世美濃又
 菅澤あり○河合寺は國內三大寺の一楠氏
 遺愛の碑あり一讀懐古の情に堪へず
 應神天皇の陵は畷田八幡宮の西に在り岡
 山として樹木繁茂して鏡然たり○安閑天
 皇の陵は古市に○清寧天皇の陵は西浦に



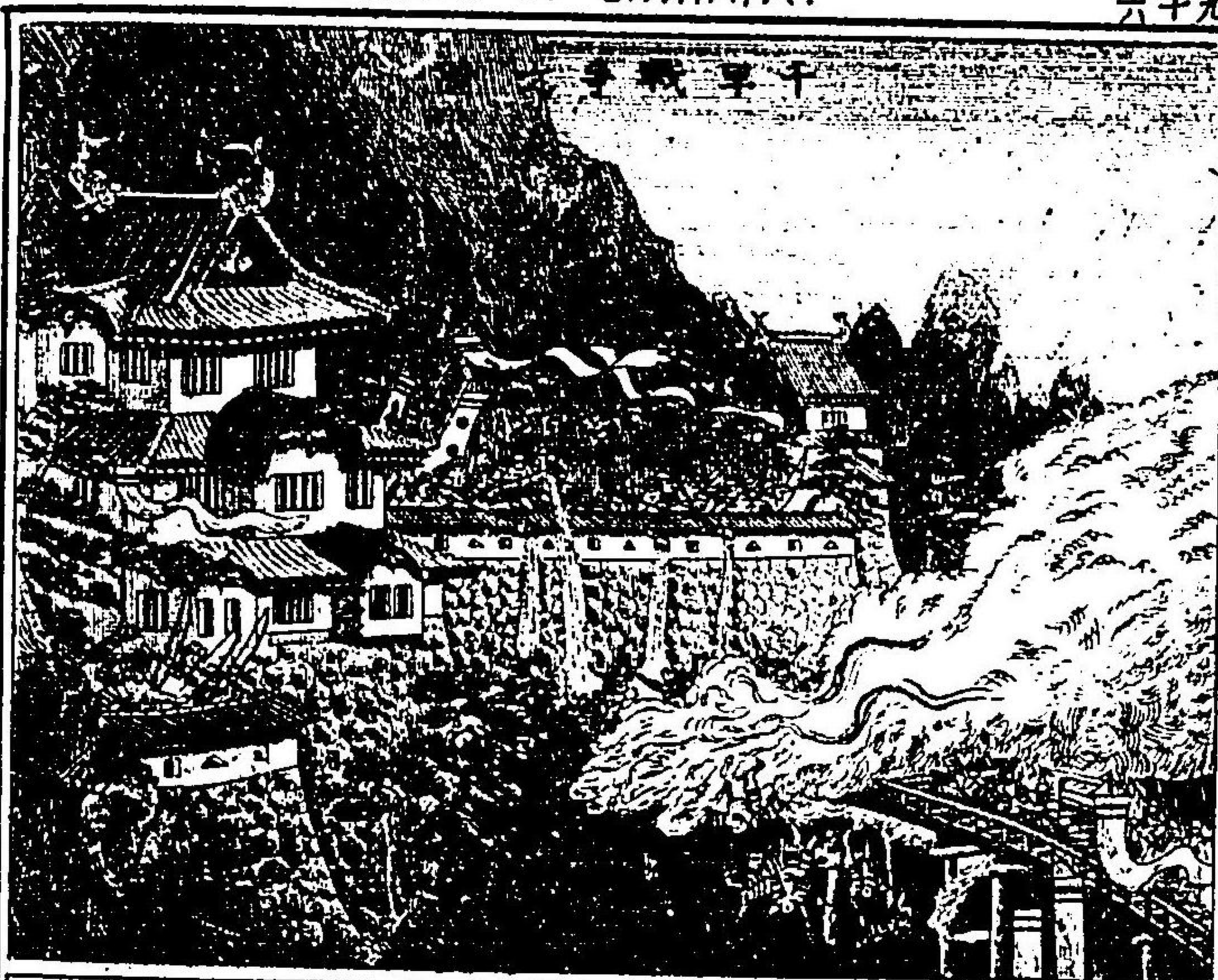
建武元年北條高直等が諸軍楠氏を攻撃せんと赤坂城に迫る時城中は饑なる農衆を収て糧を充つ兵僅に五百人正成三百人を分て弟正季族和田正遠を以て之を將たり兼偶々信守を着せ兵器を持せ曉霧を兼じ城を出是を山林に仕置し壯士をして大聲を發す此に於て東軍の攻伐は臨では巨石を轉墜し敵數千余人を斃す又東軍梯を作リ攻撃せんとす城兵炬を投て此を深谷に燒落せば死する者多し賊軍沮み退く此時楠氏の伏兵左右より討て出づ正成も二百騎を率し城門を闢き討て出で合撃す賊軍惶怖擾亂して敗走す且て東軍分れて二隊



尺長八尺計り兩端稍隆して欄檻に似たり又所々又曠昔人居の屈洞或は胎内岩あり高貴寺は平石村に在り真言宗の巨刹なり金剛山は石川郡の東南にして和州高間と踰る當國の山路に森屋村より登程百四十町半腹に千早村あり此より山頂に至る廿八町嶮峻屹立なり又水分よりは六十五町千早城趾は楠正成が後醍醐帝を護衛せし處なり山勢峻々として溪谷深く天守の跡は一層高く古松枝を垂れ礎石を散頭せり此に遠望すれば河州及び攝海を一瞰し衆む風光限りなし實に楠氏東軍を直下し顧て盛の策を成したりと想像す



道明寺天満宮石川の頭り土師里又在
 社祠は本堂隣り社殿整然と境地清淨は
 梅松多く繁茂し賤人常々絶へず列歳三月
 二十五日詣人特々多し管公廟碑は社前
 在り京師の人北海先生選す又木樨の古樹
 あり昔日火災又罹り今總々枝葉を生たり
 寺説云管公充選の時此は伯母覺毒尼を
 訪ひ給ふは彼の覺毒尼管公の留別を歎き
 たれば管公肖像を自作し遺し玉ふ此神影
 に彩飾を用いざれば世人鹿木の天神と称
 す神咏の和歌二首を掲ぐ
 おはよ、枝別れもつけ、幾多のなまむ、身も、腰も、那
 る、お、よ、も、ま、よ、い、せ、る、梅、の、も、も、の、や、つ、と、又、ん



となり一隊は伏兵又備へ一隊は城を圍む
 正成豫め後垣を築き繩を以て其外垣を懸
 く敵兵城附す乃ち繩を断つ敵兵垣と俱
 墜倒る大石巨材を投じ敵兵夥多を殺す四
 五日を経て壘を鉤す殆ど崩る正成城兵を
 して各長柄の杓を執しめ沸湯を沃ぐ敵兵
 爛して退く此は於て賊軍攻具を修め城を
 環り管を築き持久の謀を成す正成も亦思
 慮を運し吾今伴り死は敵則ち去ん去ば軀
 を全して敵を亡すの策を為さんと坑を鑿
 ち尸を充て薪を以て之を蔽ひ風雨の夜又
 乗じ火を懸け逃去敵争ひて城に入り坑中
 の尸を視正成既死と死りと管を拂ひたり



四條繩手正行之記
 天平四年正月高師直六萬餘騎四條繩手
 討て出しかば楠正行南帝の天顔を拜し
 誓て云師直が首を提されば臣の首を師直
 と與んと三千餘騎を率して押寄せ勝負を
 決せんと進撃す賊軍忽ち崩れ師直殆ど危
 かりしと師直の臣協て師直と名乗り戦死
 す因て虎口を免たり正行は其首を得て喜
 居たりしが真の師直はあらざれば大に怒
 り又進撃すと雖も正行兄弟已に数ヶ所の
 刺を負ひ竟に其志を得ざるを思ひ正時と
 刺ちがへ斃る廿五歳なり一族郎従皆之に
 死す斯く忠戦を為けるも恢復の時至らざ



若井寺は道明寺を距六十餘町古刹の觀
 音閣なり聖武帝勅して僧行基の開建たり
 此邊は楠氏の古戰場なれば此其概を記
 楠正行金剛山に在て漸く義政を聚め屢々
 兵を攝津に出して戦を挑む正平二年秋
 氏其將細川頭氏を令して兵三千を以て河
 内を攻しむ頭氏若井寺に陣し正行が矢
 尾城を攻ると聞其後を断ことを謀る正行
 謀して之を知り兵七百を率し潜り矢尾の
 邊に火を放ち遷て善田の森に伏す頭氏烟
 の起るを見疾馳て森を過ぐ隊伍整はず正
 行の伏兵俄に起て之を突く賊軍驚亂して
 戦ふ者なく敗走して天王寺に去る下畧



るは鳴呼惜むべし
十三峠は神立より大和龍田へ越る路より
て山中巨石奇岩あり風景宜し

河内國物産

- 金剛砂
- 蠶豆
- 甜瓜
- 西瓜
- 干鰯
- 茄子
- 蓮根
- 苜蓿
- 苦根
- 實綿
- 麥門冬
- 茶
- 葡萄
- 柿
- 松茸
- 鱧鱈
- 坊糸
- 白木綿
- 三宅織
- 糖
- 素麵
- 水豆腐
- 千早
- 團扇
- 小山

驛路

- 京都路
- 守口
- 枚方
- 山崎
- 橋本
- 河内
- 中垣内
- 國府
- 富田
- 林
- 紀伊路
- 田口
- 三市
- 天見
- 紀伊橋本

- 大和路
- 暗峠
- 松原
- 大和五瀬

- 同十三嶺
- 越
- 神立
- 大和龍田

- 同龜嶺
- 越
- 國分
- 大和龍田

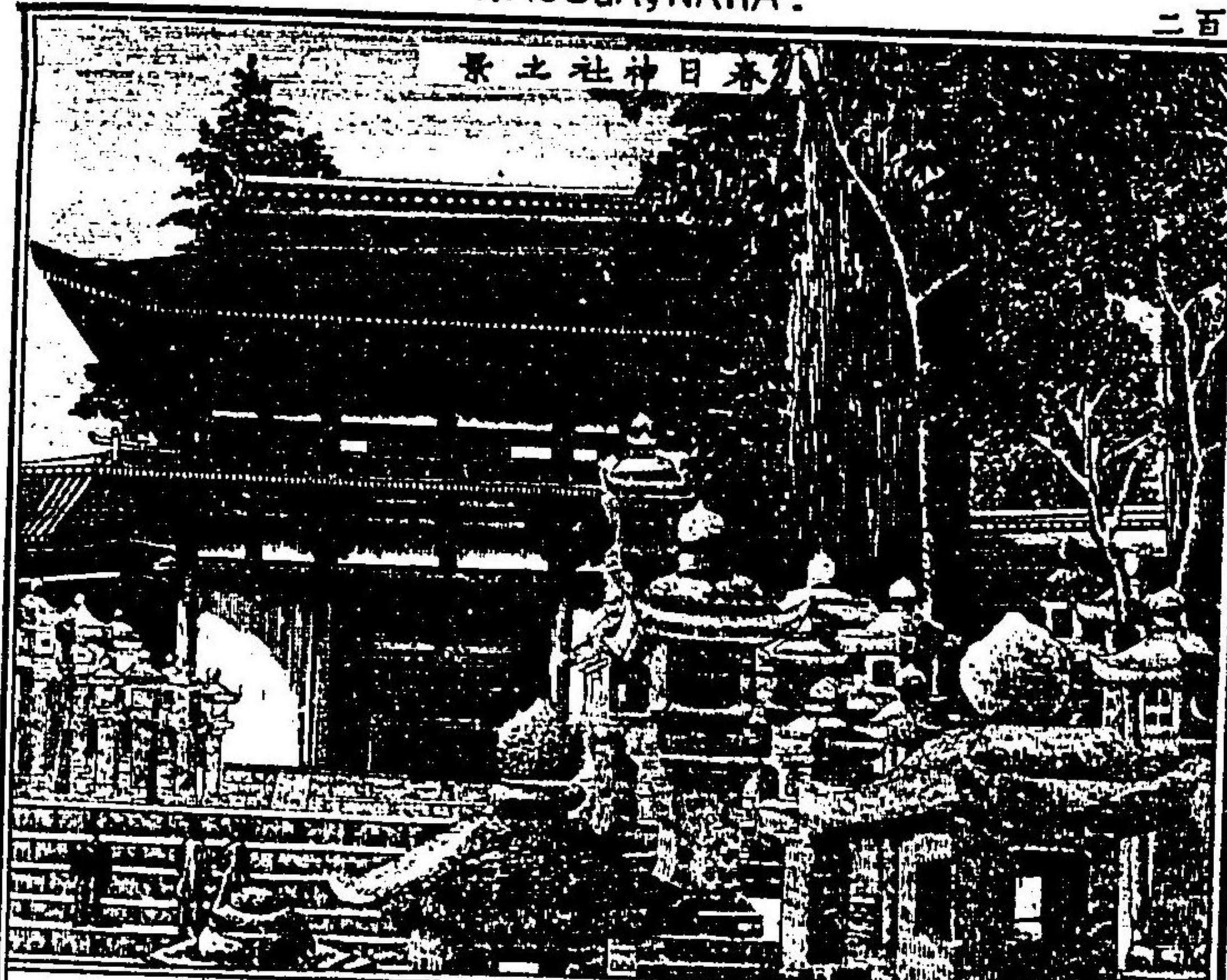
- 同竹内
- 越
- 古市
- 山田
- 大和竹内

大和國之部

此國の疆域東は伊賀伊勢と隣り西は河内と接し南は紀伊と入り北は山城に至る
東西九を拾里餘南北は二拾五里本州は山嶽其半は居る南方の一帯の山岳連亘して
平地を見ず其諸山は春日御蓋瀬草高圓月ヶ瀬生駒信貴屏風ヶ嶽難雄ヶ岳三國三畝
貝ヶ平山嶽山室生國見三輪卷向金ヶ平鷹嶽高取多武峯音羽葛城戒那二上龍門ヶ
嶽吉野山上ヶ嶽稻村小篠國見彌山七面釋迦大日ヶ嶽天狗岳地蔵ヶ嶽仙ヶ嶽伯母ヶ
岳大臺ヶ原備後山高見櫃ヶ嶽荒神果無山玉置山等なり 河渠は大和川の水上を初
瀬川と云奈良川富の小川飛鳥川重坂川葛城川生駒川共々下流大和川と入る吉野川
は源を大臺ヶ原山と發し丹生川は源を吉野山と起し共々下流紀の川と流る北山川
も源を大臺ヶ原山と發し下流は熊野川と注ぐ北方に頗る平曠にして肥腴也而
して十五郡あり 添上 添下 平群 山邊 宇陀 城上 十市 廣瀬 高市 葛
下 忍海 葛上 宇智 吉野 等あり各邑は標本 郡山 小泉 龍田 松山 初
瀬 三輪 田原本 櫻井 柳本 八木 今井 土佐町 高田 御所町 五條 吉



神燈ハ兩側ニ點頭シ此ニ華表あり數歩ニ
 して御手洗川ニ位橋を渡リ少し石階あり
 登臨すれば接門回廊を圍繞シ四社鏡々と
 して整然たり社後ハ三笠嶽草高圓の峯嶺
 の山脈を連亘せり此邊ニ鹿園として往昔よ
 リ多少の鹿を飼養ふ例あり
 東大寺は國分寺と云僧良辨の開基寺域は
 六萬三千五百坪あり然と雖も平重衡及び
 松永久秀の兵火ニ罹リ伽藍は回祿して今
 は大佛のみ保存せり盧遮那佛の銅像は其
 高さ五丈余天平勝寶の鑄像なり近世此ニ
 時々博物館を開き此寺の寶物奇品を羅列
 し覽觀ニ供す



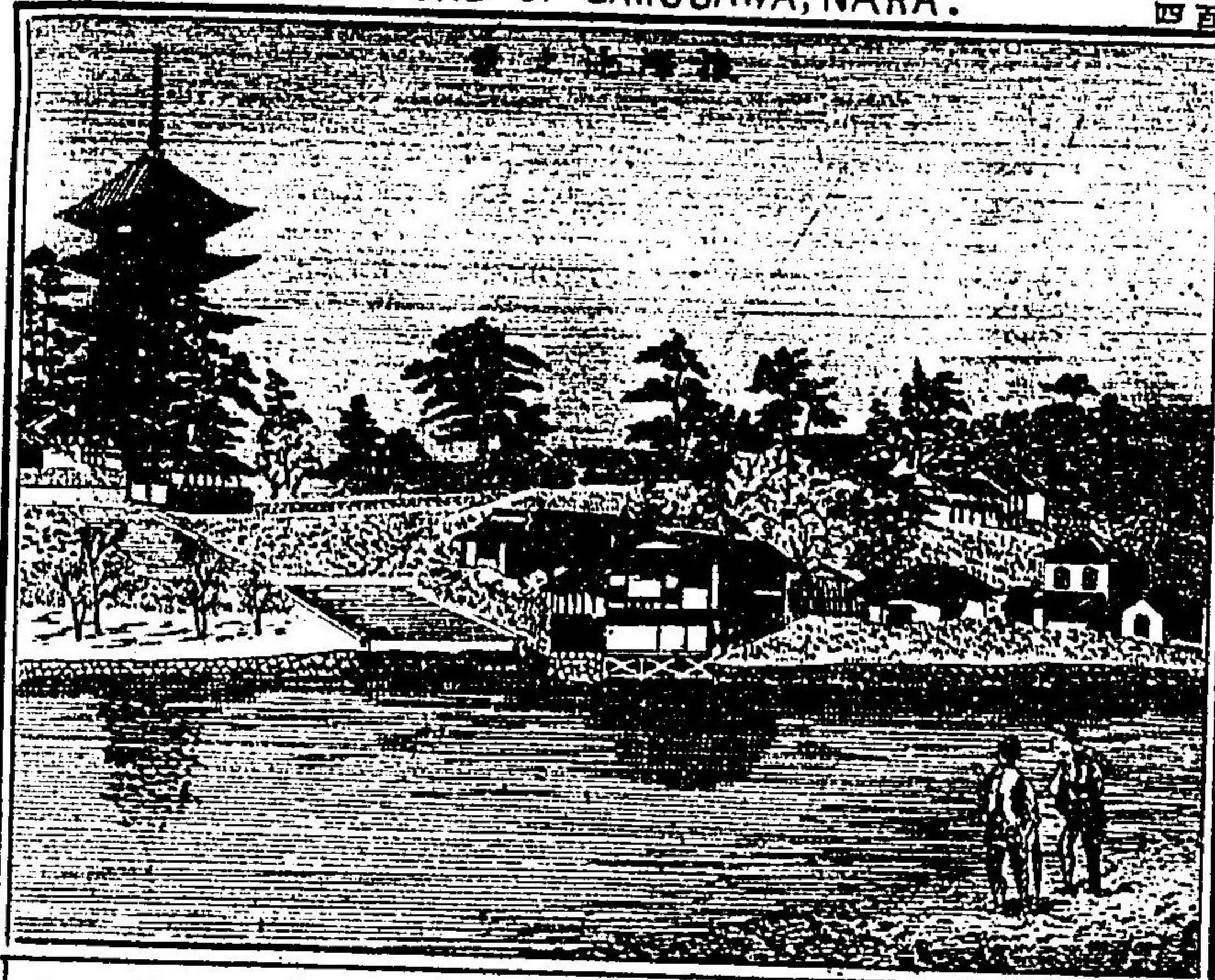
野 下市寺あり人口は四十二萬二千六百
 十餘人氣候極暑九十六度極寒三十五度
 南都之記
 奈良は播磨南都と稱し添上郡の中央ニ在て
 本州第一の勝地なり市街ハ二百卅五町東
 西廿四町南北九一里市坊は端正軒を列べ
 たり此地は元明天皇遷都より光仁天皇ニ
 至リ七代の皇居として名勝古蹟州内ニ遍
 し因て風俗も簡素ニ往昔勤儉の化を觀ニ
 足る春日神社は官幣大社として祭神枚岡
 社ニ同じ着宮は天押雲命を祀る神護景雲
 年間の創建社地廣く驛路は老杖喬木蒼々
 として林幹苔を着齋藉日光を遮リ多少の



月ヶ瀬之景

月ヶ瀬梅溪は奈良を距るちと七里東よし
て流坂田原水間北野等を經て到る此地た
る名張川の下流に浴び梅林は三拾餘町に
亘るの間挑香野月ヶ瀬萬村尾山長引何れ
も山村にして民居數十軒谷に架し嶺に梁
す往昔より梅を植て耕稼に代り毎歳日岸
に至れば群花等しく綻び香雪天に漫り其
幾千株有を知らず體幹苔を生じ水石本より
清潔實に梅花の一世取と謂つべし其七曲
路は一畝千木と云る邊は殊に美觀なり山
陽頼氏の詩に非親和州香世取此生何可説
梅花と宜哉又此溪間は躑躅多く花候は河
水も紅色に流る故に美月川の名あり

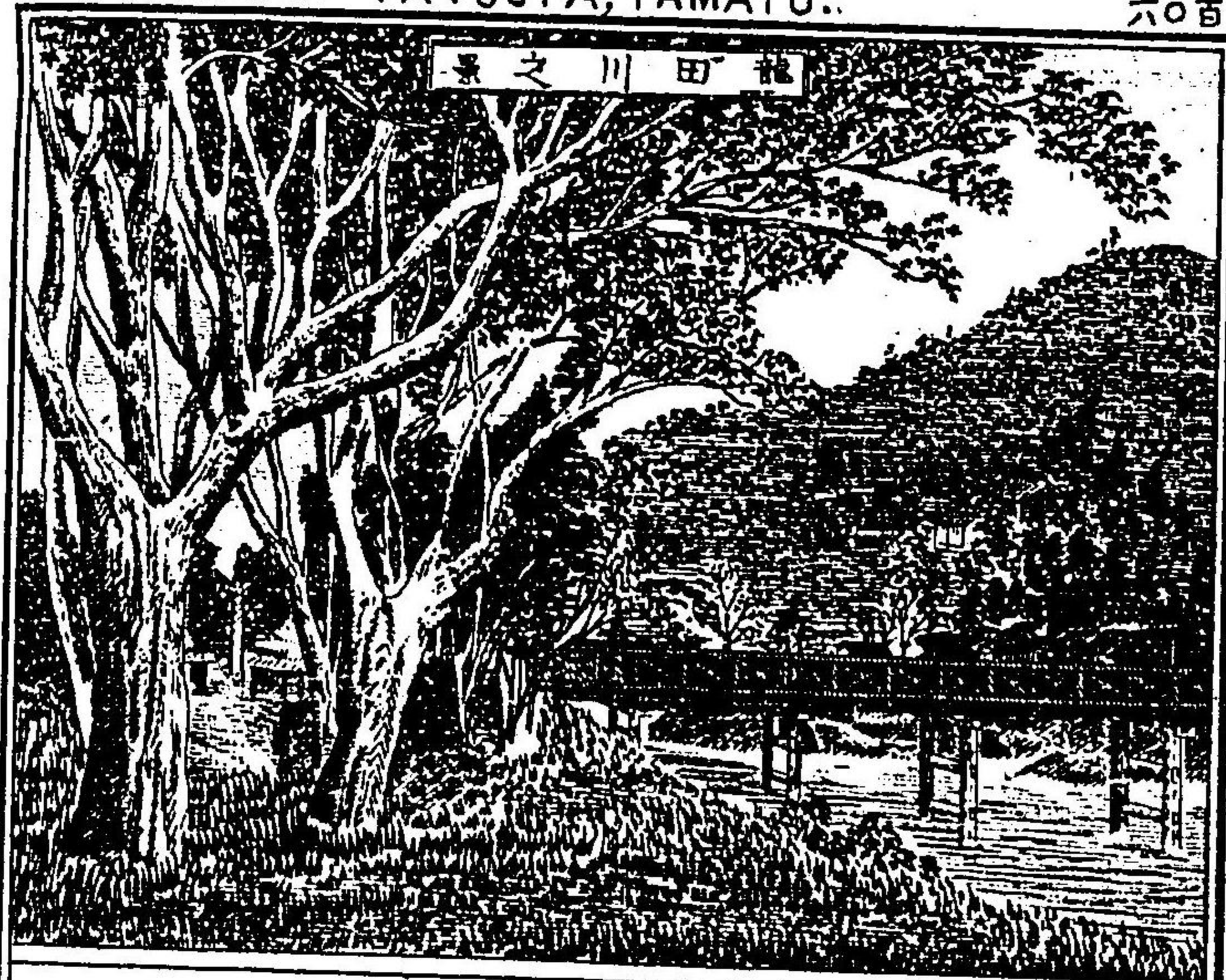
日本巻



興福寺は奈良の市坊に連る巨刹にして藤
原鎌足公の創建地廣寛なり平重衡之を
焼く其後伽藍の再建なく廣漠たる荒地に
して礎石のみ然と雖も南都の古寺なれば
今遺存の景況を記す猿澤の池は南門の前
に在り南圓堂及び北圓堂は尤側は在り五
層の寶塔は右側は存す周圍既に木叢と成
り漢京芳草生ずとは此邊の事なるべし
正暦寺は椿尾村○圓成寺は忍辱山村○法
華寺は法華寺村○西大寺は西大寺村に在
り○唐招提寺は五條村○松尾寺は山田村
樂師寺は砂村○矢田寺は西矢田村にあり
何れも巨刹なり



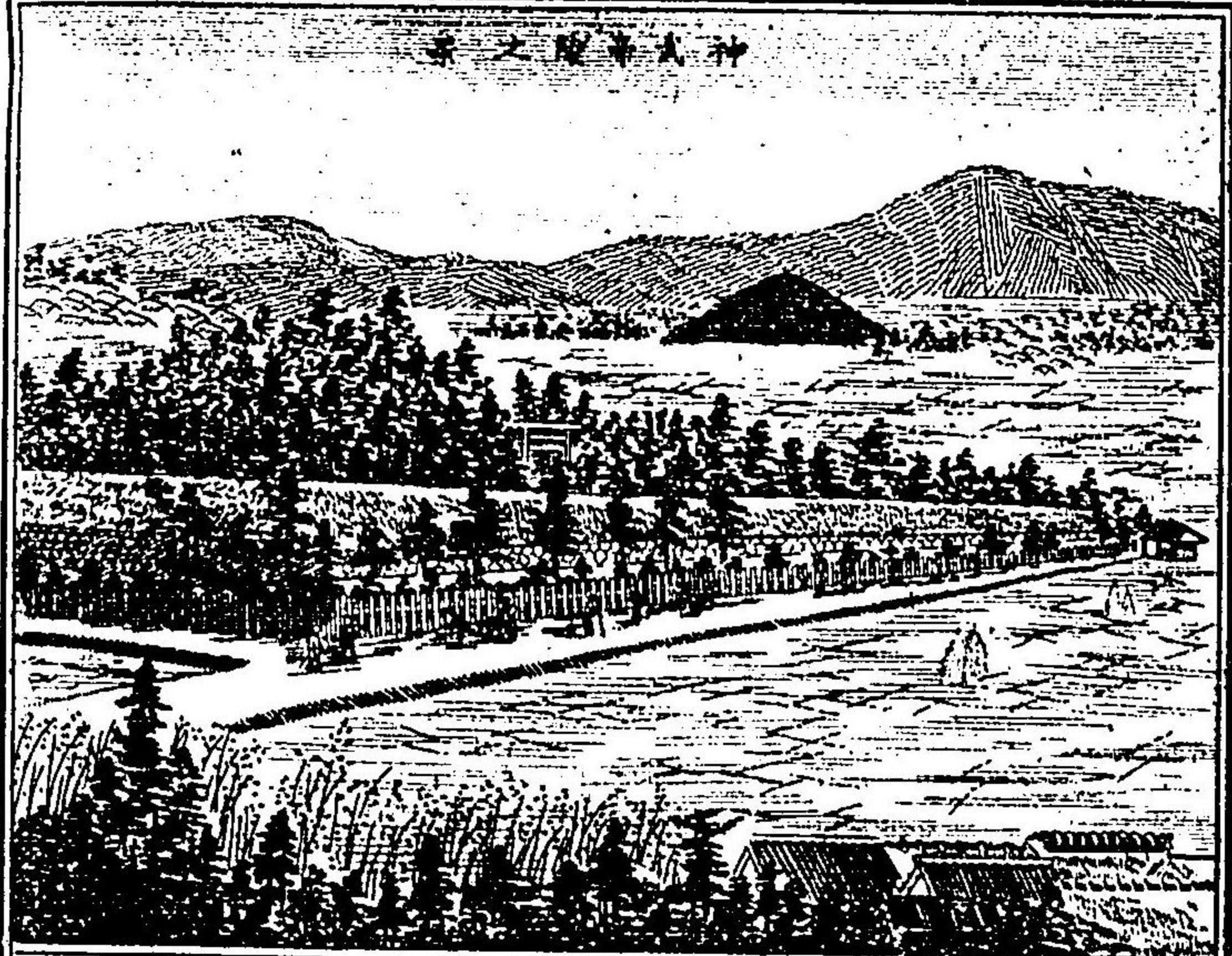
戸皇子の創建と云毘沙門天を安置す
 當麻寺は二上嶽下九子山麓に在り觀音閣
 なり 中將姫製作の蓮の曼陀羅を藏せり
 長谷寺は初瀬村の山嶺に在り溪谷幽邃に
 して山姿駭然たり樓門より殿堂佛閣巨
 り長廊連連石階重疊して樓道八字形を成
 し其位置は東へ迂し又北に廻る此邊は櫻
 木牡丹花特多き花候は艶麗にして其美
 觀世に聞たり佛閣は山崖に架して壯麗也
 大輪神社は三輪山に在り大物主神を祀る
 花表の頭りは老蒼たる喬松鬱蒼し二木杪
 は石階の傍に在り社殿は整然として港向
 檜原の二山社後を擁して聳へたり



法隆寺は斑鳩寺と云法相宗南大門を過れ
 ば一簇の松林鬱蒼して多少の石燈兩側
 列り樓門あり回廊を繞り佛閣宏壯なり又
 寶塔は天を撃て聳へ西圓堂は八角の構造
 として樂師佛を安置し刀劍種々を收たり
 龍田神社は官幣大社天御柱命國御柱命を
 祀る社殿巍然たり又龍田川の紅楓は往昔
 故人詠歌其稱多しと雖も今の星霜を経
 て今は唯處々散見するのみなり
 生駒山は河内と跨る大嶺にして歡喜天河
 あり〇鳴川千光寺は元山上と号け奇石巨
 巖ありて和州大峯寺しき山姿なり
 信貴山朝護國孫子寺は僧明達開基或は風



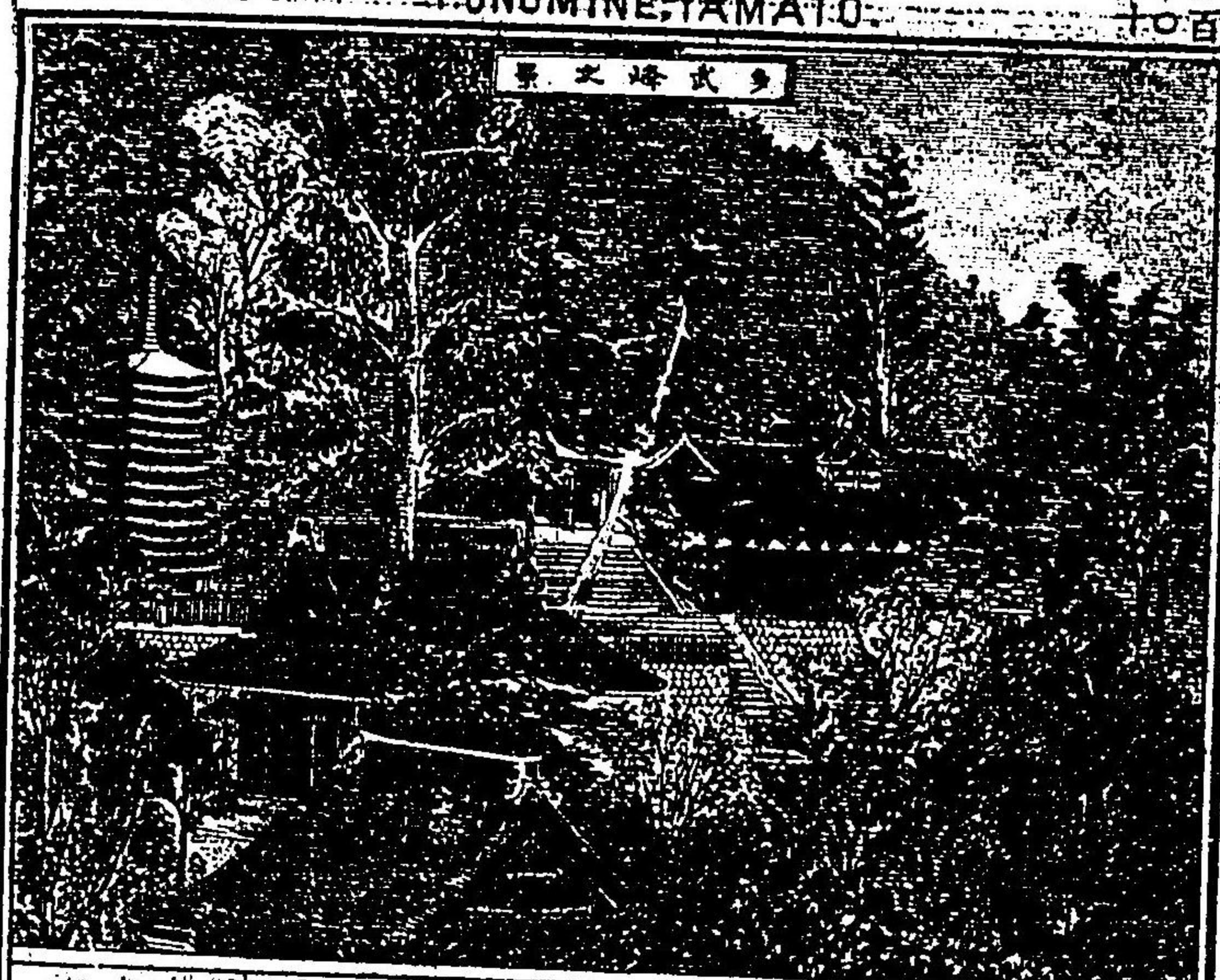
天皇の御宇創建なり
 葛城神社は一言主神を祀る諸葛城山は一
 峯を金剛山或は高間山と云其上忍海葛下
 三郡に亘り嶺西は河内國に隸す神社は嶺
 頭にて大和の領地堂舎寺院は少し西に
 在て河州の地境なり大和より登山すれば
 寛路二十町計にして高間に至る此邊は郷
 内廣く村舎處々在て櫻樹多し古昔より
 鶯鳥の名あり茲又大社古刹あり是より峯
 嶺に至るは坂路峻峻にして危路多し爰又
 藤峯及び葛城の間は水越嶺とて大和河内
 に通ふ路あり是楠正成吉野殿へ往還の道
 なりと云西の路へ下れば水分社の路なり



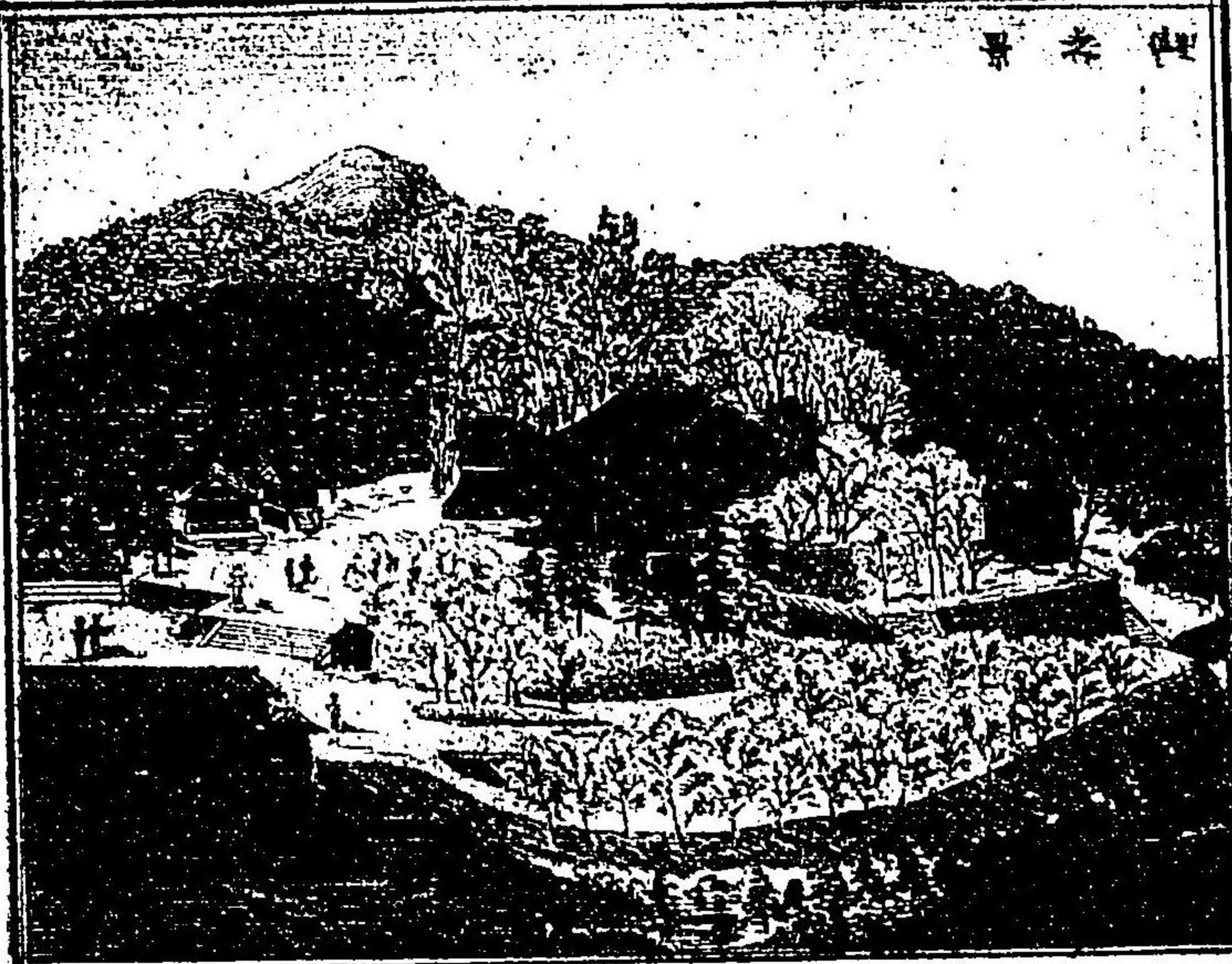
大和神社は官幣大社新泉村に在り倭大國
 魂神を祀る垂仁帝二十五年の創建なり
 神武天皇陵は奈良を距ふと六里高市郡四
 條畷比山の東北に在り瑞籬を四圍に擁し
 廟陵巍然として社境なり夫神武帝は神代
 草昧の跡を継ぎ東征して中州を平け四門
 を闢き給ひ八方を朝せしむ王道興治の美
 實は此に創建し給ふ我朝の君臣億兆に至
 るまで尊信致すべき御廟陵なり其始日向は
 都に王ひ東征の後大和國橿原宮に定給ふ
 故大倭は日本の總稱にして分國の稱故に
 起源すとかや
 石上神社は布留村に在り神靈を祀る崇神



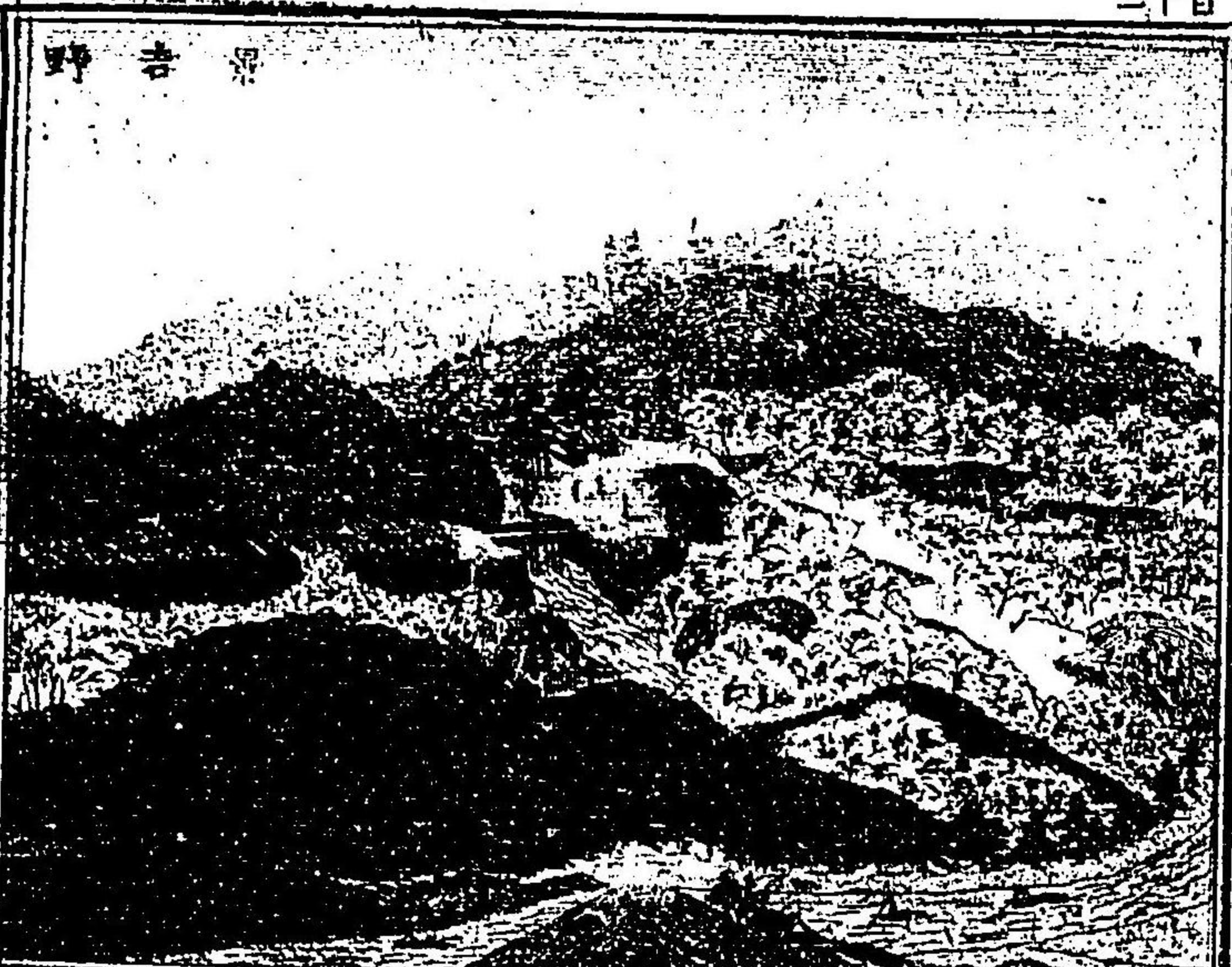
秀麗明眉なり
 精玲瀑は世俗清明龍と云西河村に在高さ
 十丈幅一間半計り 中之瀑は西野村に在
 水源は大蓬原山に発し北山川に注ぐ高さ
 九百五十丈幅十五間計りの壯觀なり
 白瀑は同處に在り水源大峯山に起り北山
 川に注ぐ高さ十八丈幅五間 三重瀑は前
 鬼村尻風山に在り瀑如獄に発し北山西川
 に注高五十丈幅十間計り 三古瀑は入之
 破村に在り高さ十六丈幅三間吉野川に注
 ぐ 阿古瀑は小篠山に在り高さ三十六丈幅
 五間天川に注ぐ 惣門瀑は篠原村に在り
 高さ三十六丈幅二間十津川に流たり



談山神社は別格官幣社多武峰に在り藤原
 鎌足公を祀る當山は東に伊勢の高山西は
 金剛山及び金峰山北は三輪山の中央に在り
 一峰高き草樹鬱蒼として幽邃閑雅の地な
 り故に花の中宿の林あり山標重疊して社
 殿鏡々として安社なり権門は回廊を四圍
 に繞し赫々と凄美なり又妙華寺は寂寞た
 る梵刹権門時ち賢關連連連り十三層の空
 塔は峨々として聳て眼を眩す山林遠く望めば
 蔚然として蒼々と幽趣あり
 龍門の瀑は多武峰より巽の方山口村に在
 水源は龍門山に發し下流は吉野に注ぐ其
 高さ二十四丈幅四間石面を飛瀉して山水



吉野山は金御殿、金峯山と云其山脈耶智
 高野山と連り芳野川は其水源大津原山と
 起り清明白瀑三重三古寺の諸處を合し水
 州第一の大河なり吉野の山を進み先六田
 村より路を始む其處より百餘町先頭橋
 間凡て櫻樹なるはなし花苑爛漫の候
 路頭の花は春風は花の波を揚げ木間の
 嵐は寒く雪を散り實は花の世界と云
 ら置なり又開花は遅くあり是は早く咲き
 満山は少遅く候又開花一週より及ぶ云々
 所より名あり一服子本櫻或は七田路或は
 日本花や櫻樹或は開屋花満櫻樹井櫻や布
 引櫻或は花橋嵐山は龜山帝都又遷された



吉野山は金御殿、金峯山と云其山脈耶智
 高野山と連り芳野川は其水源大津原山と
 起り清明白瀑三重三古寺の諸處を合し水
 州第一の大河なり吉野の山を進み先六田
 村より路を始む其處より百餘町先頭橋
 間凡て櫻樹なるはなし花苑爛漫の候
 路頭の花は春風は花の波を揚げ木間の
 嵐は寒く雪を散り實は花の世界と云
 ら置なり又開花は遅くあり是は早く咲き
 満山は少遅く候又開花一週より及ぶ云々
 所より名あり一服子本櫻或は七田路或は
 日本花や櫻樹或は開屋花満櫻樹井櫻や布
 引櫻或は花橋嵐山は龜山帝都又遷された



義経の愛妾静前は勝手の神前にて法樂の舞を奏し衆徒の心を蕩し義経を落したり
 大塔宮吉野に籠せ給へば鎌倉勢大軍を以て攻戦す村上義輝君を代り高野に落し奉るは稀代の忠臣貞婦なり
 大峰山上釋迦嶽は吉野を距ふと六里洞川の邊は山勢高峻にして晴雪巖垣なり山頂又淨利あり山路險阻にして大天上小天上の峰を踰れば今宿洞辻と茶店あり此より大鞍掛小鞍掛の二段路を経て鐘懸岩を過此又古利あり藏王役侵渡塞を安置す二面は巨巖峙ち蟻門渡或は東臨岩行道岩屏風岩等の奇石巨巖夥多ありとかや

大和國産物

水晶○白石英○黄石英○礫石○地骨石○慈石○辰砂○馬腦○石○白雲○雲母○磐石○滑石○水波石○禹餘糧○綠青○銀葉母○白砂○金剛鐵○金剛砂○佛世身○燕膏○百合根○牛旁○葱○蠶豆○苜蓿○葛○菜種○西瓜○甜瓜○胡瓜○山葵○茶烟草○藍○紅花○麻半○茯苓○人参○芍藥○當歸○地黄○川芎○吳茱萸○大黃○黃芩○龍膽○獨活○桔梗○防風○牡丹皮○木附子○楮○材木○樺○梅○桃○梨○杏○柿○石榴○橙○枇杷○二度栗○堅柑○棕櫚○香椽子○椎茸○岩茸○松茸○水苔○蠶○年魚○鱈○鮫○鮪○鹿○木綿○晒布○足袋○酒○麩酒○燒酎○醬油○油桐實油○柏油○素麵○干瓢○葛粉○蕨粉○葛菓子○櫻漬○奈良漬○水豆腐○鮎鮎鮎煎餅○陀羅尼須針○前挽錫○銅真鍮銀類○陶器○瓦○紙○萩原紙○漆器類漆器○松皮○紫皮○墨○筆○膠○漆○皮籠○吉野膠○團扇○雨合羽○草蓆○草蓆○土偶人○鼓皮○角細工○籠細工

驛路

大和國産物

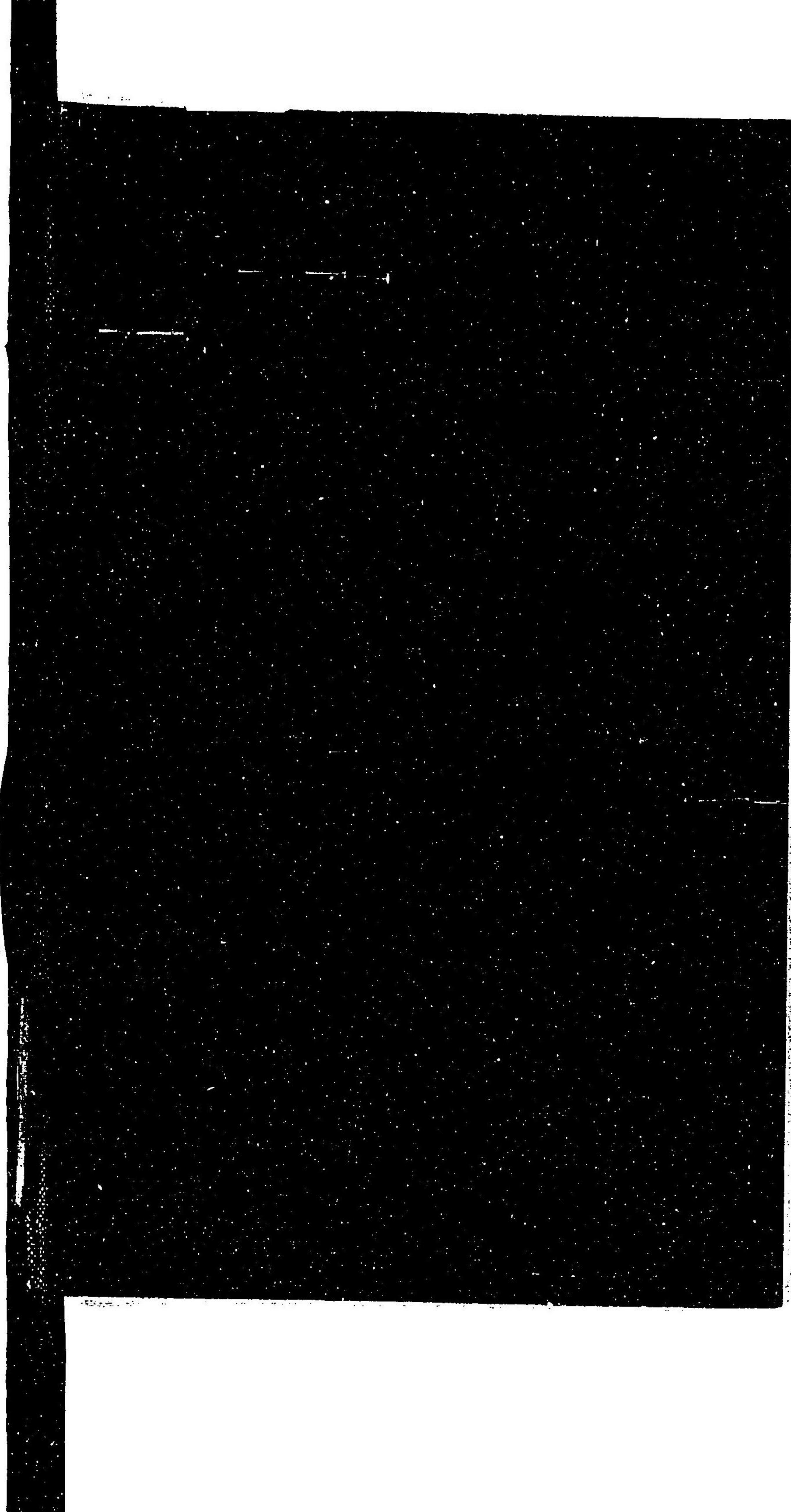
青木恒三郎著作

分邦日本地圖

附 驛路里程表

西洋綴繪子表紙脊華金文字入美製中本全書冊
定價全書圓三十錢特別全八十錢通運賃金拾錢

本書ハ日本地圖を各々國々小分爲し頁數十を枚と書し其の
形を以て各郡を分ち地圖上の事ハ正確詳悉の極と云ふ可なり
一冊にして山川湖沼府郡縣村名所在驛路の綫道等悉く
其位置を知らんと欲する者其書なり○特別洋裝美製の中本となれば
大なる一葉の地圖
亦ハ見易きにして
學生諸君 机上の便書を與
ふることも多し且又
商家必要
なる各事詳細に附一綫道等并は驛路の事等亦夜明通の分
は誤りなく實に往來の便國は其の極なり其地圖を欲する者其諸君
商家諸君よ本書一覽の上言の其便を試みよ



特62

531

内国
旅行
日本名所図絵

五畿内の部

国立国会図書館

023057-001-2

特62-531

日本名所図絵（内国旅行）

上田 維暁（文斎）／著

M21-23

ADB-1048



特62

531

内国
旅行
日本名所図絵

五畿内の部

国立国会図書館

023057-001-2

特62-531

日本名所図絵（内国旅行）

上田 維暁（文斎）／著

M21-23

ADB-1048

